ビジュアル目次

※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

※1：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。
※2：別冊「ACC」を参照してください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ビジュアル目次

SRS エアバッグシステム（助手席用） P.26
SRS エアバッグシステム（運転席用） P.26
運転席側ヒューズボックス P.216
マスタードアロックスイッチ P.83
パワーウィンドースイッチ P.91
ボンネット解除ノブ P.170
フューエルリッドオープナー P.162
トランクオープナー P.87
パーキングブレーキ P.152
発炎筒 P.199
助手席側ヒューズボックス P.217
グローブボックス P.117

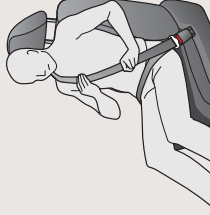
ワイパー P.100,184
ヘッドライト P.98,172
雨滴検知センサー P.101
ドアミラー P.106 / ドアミラーウィンカー
ドアの施錠・解錠 P.76
タイヤ P.186
フォグライト P.99,180
ボンネット内の
メンテナンス P.169
エンブレム /
レーダーセンサー ✤ P.156
給油のしかた P.162
マイクロアンテナ P.131
ハイマウント
ストップランプ P.175
トランクの開閉 P.86
リヤカメラシステム ✤
P.134
制動灯 / 尾灯 P.177
後退灯 P.177
ウィンカー P.97,177

ビジュアル目次

※：別冊「Honda インターナビシステム」を参照してください。

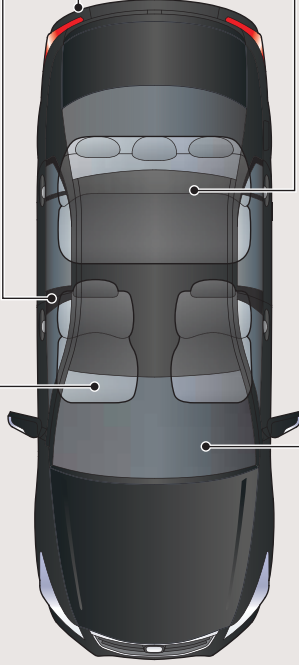
安全なドライブ ➡P.18

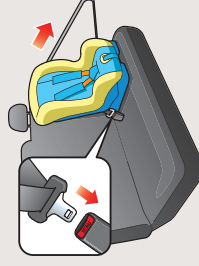
運転を始める前の確認 ➡P.19

●運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。

●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

シートベルト ➡P.20

排気ガスについて ➡P.49

●車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではエンジンをかけないでください。

お子さまの安全 ➡P.37

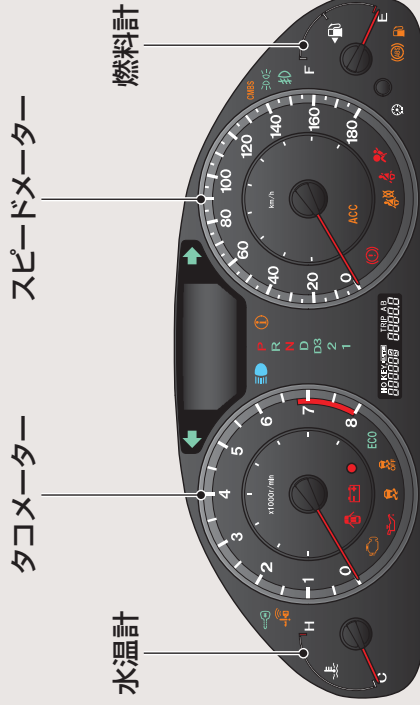
●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

エアバッグ ➡P.26

●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた ➡P.50

警告灯 ➡P.51
表示灯 ➡P.56
メーター ➡P.62

警告灯 / 表示灯

- ブレーキ警告灯
- 油圧警告灯
- PGM-FI 警告灯
- 充電警告灯
- P R N D D3 2 1 セレクトポジション表示灯（トランスミッション警告灯）
- シートベルト非着用警告灯
- Honda スマートキーシステム警告灯
- 燃料残量警告灯
- ACC 警告灯 / 表示灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

ライト表示灯

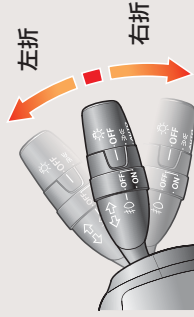
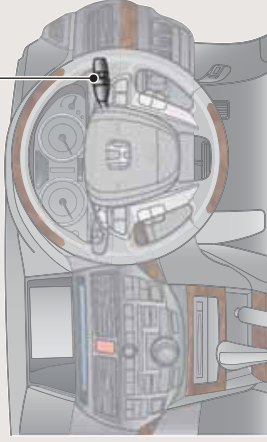
- ハイビーム表示灯
- ライト点灯表示灯
- フォグライト点灯表示灯

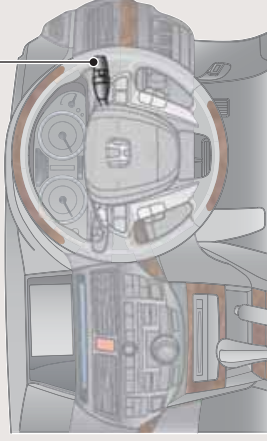
警告灯 / 表示灯

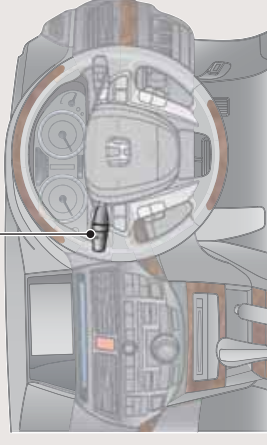
- VSA 警告灯
- VSA OFF 警告灯
- CMBS 警告灯
- ドア / トランク開閉警告灯
- 方向指示器表示灯
- サイドエアバッグ自動停止表示灯
- イモビライザーシステム表示灯
- インフォメーション表示灯
- セキュリティアラームシステム表示灯
- クルーズメイン表示灯
- クルーズコントロール表示灯
- ECO（エコ）表示灯

各部の操作 ➡P.74

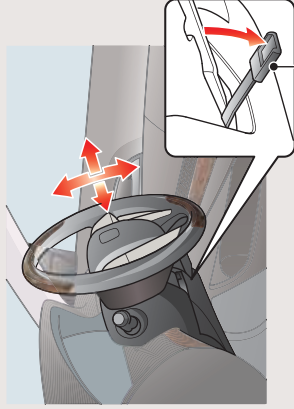
ウィンカー ➡P.97

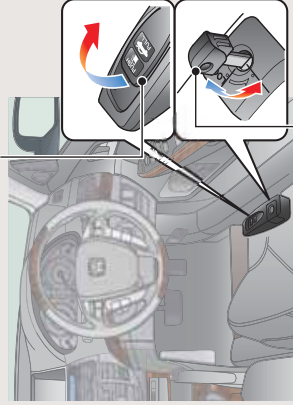
方向指示器（ウィンカー）スイッチ

ライト ➡P.98

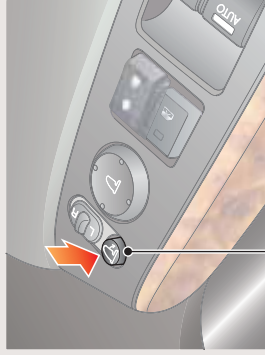
ライトスイッチ

ワイパー ➡P.100

ワイパー / ウォッシャースイッチ

- MIST　高速で作動
- OFF　停止
- AUTO　自動で使用するとき
- LO　低速（普通の雨量のとき）
- HI　高速（雨量が多いとき）

ハンドル位置の調節 ➡P.104

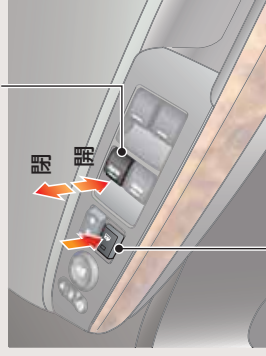
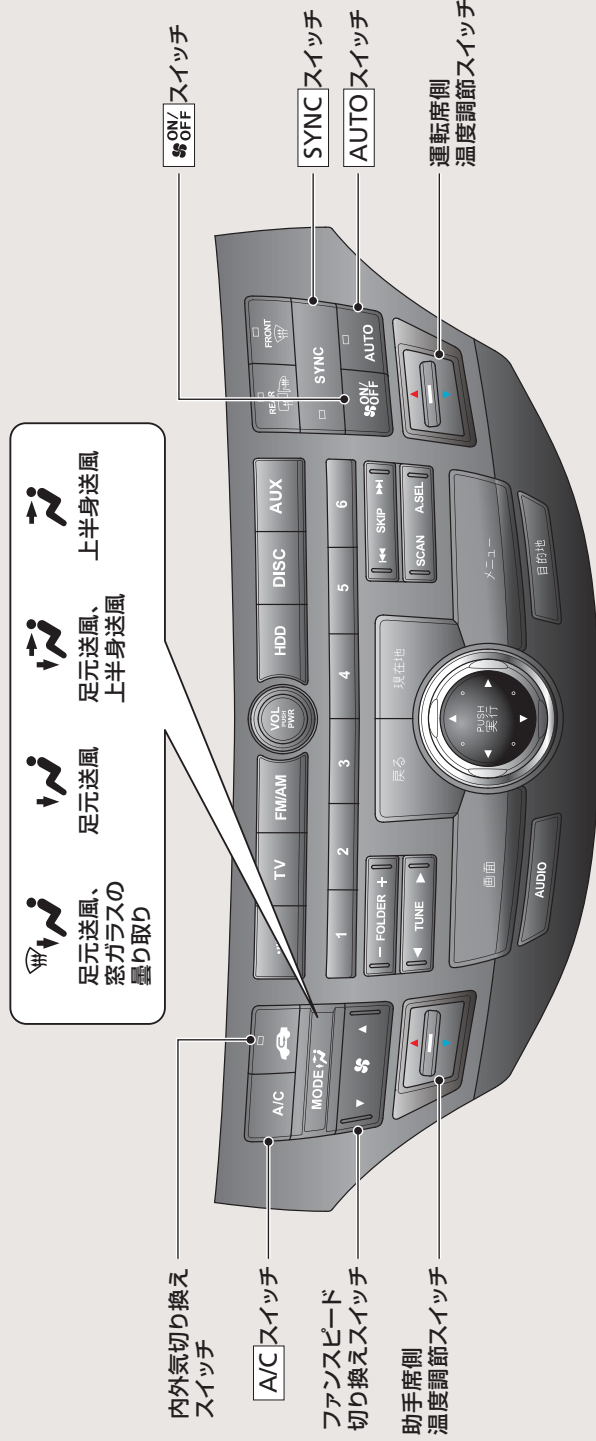
●ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルの位置を調節します。

トランク ➡P.86

●トランクは、運転席右下にあるトランクオープナーを引き上げて開きます。
内蔵キーを差し込んで施錠（解錠）もできます。

ドアミラー ➡P.106

●エンジンスイッチが II のとき、左右のドアミラーを格納することができます。

●エンジンスイッチが II のとき、ドアミラーの角度を調節できます。

パワーウィンドー ➡P.91

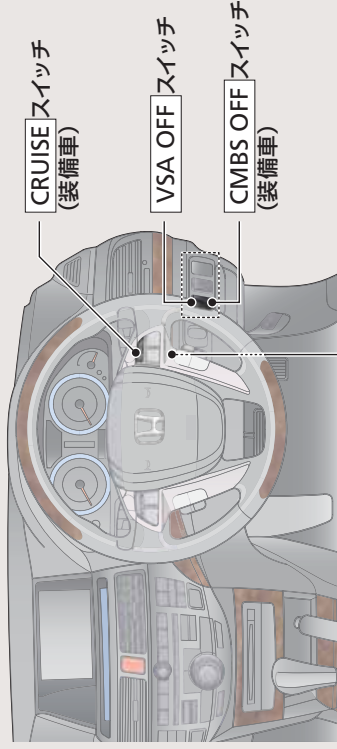
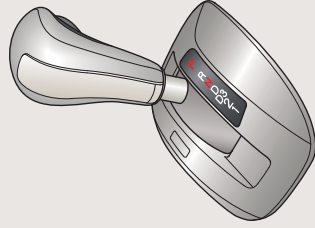
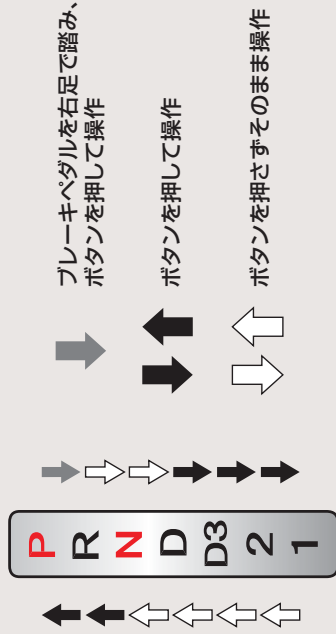
●エンジンスイッチが II のとき、ウィンドーの開閉ができます。
●メインスイッチを ON にすると、全てのウィンドーの開閉が行えます。
●メインスイッチを OFF にすると、運転席以外のウィンドーは動かなくなります。

エアコン P.125

- AUTO を押すと、オートエアコンが作動します。
- ON/OFF を押すと、止まります。
- SYNC を押すと、独立モードから連動作動モードに切りかわります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、FRONT を押します。

運転 ➡P.138

オートマチック車 ➡P.144

●セレクトレバーを P に入れ、ブレーキを踏みながらエンジンを始動します。

セレクトレバー

セレクトレバーの操作

ブレーキペダルを右足で踏み、ボタンを押して操作

ボタンを押して操作

ボタンを押さずそのまま操作

P パーキング
駐車またはエンジンの始動

R リバース
車を後退

N ニュートラル
アイドリング状態

D ドライブ
通常走行（1 速～ 5 速まで自動変速）

D3 ドライブ (D3)
上り坂や下り坂を走行するとき
（1 速～ 3 速まで自動変速）

2 セカンド
エンジンブレーキが必要なとき
（2 速固定）

1 ロー
強いエンジンブレーキが必要なとき
（1 速固定）

CMBS OFF スイッチ✤

➡P.157

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し追突の衝撃を軽減する装置です。
- CMBS を停止（OFF）状態にするには、CMBS OFF を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用（ON）にするには CMBS OFF を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。

VSA OFF スイッチ ➡P.151

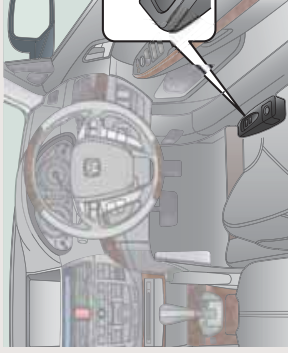
- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- エンジンを始動すると自動的に VSA は ON になります。
- VSA を停止（OFF）状態にするには、[VSA OFF] を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用（ON）するには [VSA OFF] を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

CRUISE スイッチ✤ ➡P.147

- クルーズコントロールは、高速道路などを定速で運転するとき、アクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。
- クルーズコントロールを使用しないときは、安全のために CRUISE を押して OFF にしてください。

ガソリンを入れる ➡P.162

指定燃料	：無鉛レギュラーガソリン
タンク容量	：70リットル

1. 運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを押す。

2. ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。

3. キャップをホルダーにかける。

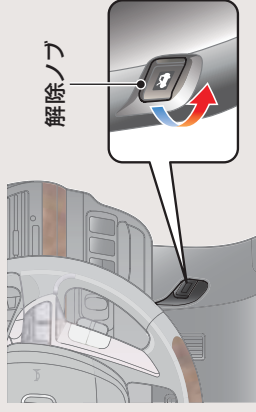
メンテナンス ➡P.166

ワイパーブレード ➡P.184

- 拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

ボンネット ➡P.169,170

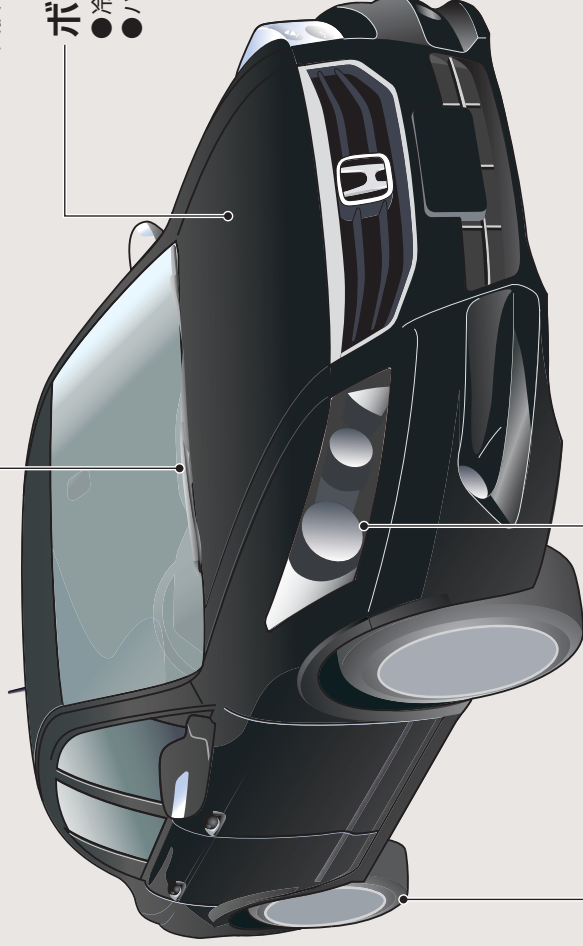
- 冷却水、ウィンドウォッシャー液の補充を行います。
- バッテリーを点検します。

1 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。

2 レバーを上げボンネットを開ける。

ライト ➡P.172

- ヘッドライト、フォグライト電球、テールライト電球などの点検または交換を行います。
- 電球の交換については､「メンテナンス」を参照してください。
- ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。

タイヤ ➡P.186

- タイヤ、ホイールを点検します。
- 降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

万一の場合には

P.198

パンクした

P.200

●安全な場所に停車し、応急用スペアタイヤに交換します。

エンジンが始動しない

P.206

●バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動します。

オーバーヒートした

P.211

●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。

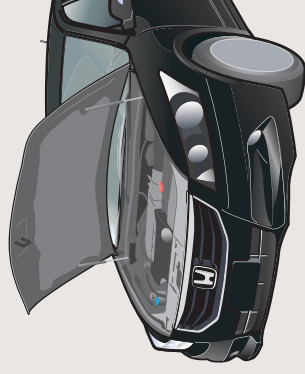
警告灯が点灯した

P.213

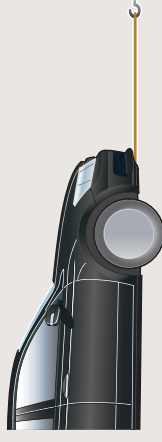
●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。

ヒューズが切れた

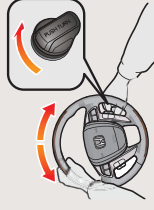
P.215

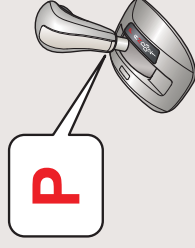
●運転席、助手席の足元とボンネット内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。

けん引してもらいたい

P.220

●必ず専門業者に依頼してください。やむをえず四輪を接地したままけん引される場合は、取扱説明書にしたがってください。

こんなときは

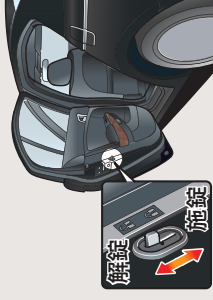
エンジンスイッチノブが0からⅠに回らない

- ハンドルがロックされていませんか？
- ハンドルを左右に回しながら、エンジンスイッチノブを回してください。内蔵キーを使用しているときは、キーを回してください。

エンジンスイッチノブがⅠから0に回らない

- セレクトレバーがP以外の位置になっていませんか？

ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した

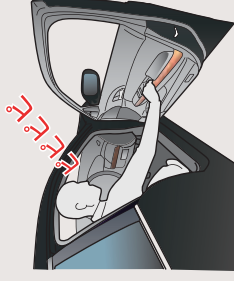
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

後席ドアが車内から開けられない

- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？
後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのツマミを解錠の位置にしてください。

キーレスエントリーでドアを解錠したはずなのに施錠されている

・キーレスエントリー、Honda スマートキーで解錠してから、約 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。

運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

・「ピピピピ」と鳴るときは、エンジンスイッチノブを 0 （プッシュオフ）以外にしていませんか？内蔵キーを使用しているときは、キーをエンジンスイッチに差し込んでいませんか？
・「ピー」と鳴るときはライトを消し忘れていませんか？

走行するとブザーが鳴る

・運転席シートベルトを着用していますか？
・パーキングブレーキを完全に戻していますか？

走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

・ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

レギュラーガソリン仕様車にプレミアム（ハイオク）ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

・プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車のために守っていただきたいことや、安全のために守っていただきたいこと。
（車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、安全のためのアドバイス、異常事態の処置方法を記載しています）
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 運転席および助手席のシートベルト着用の有無（E-プリテンショナー装備車）
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

Honda および Honda が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

安全なドライブ P.18
計器の見かた P.50
各部の操作 P.74
オーディオ P.130
運転 P.138
メンテナンス P.166
万一の場合には P.198
資料 P.223
索引 P.226

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前に、よくお読みいただき運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、トランクは完全に閉まっているか?
  - ▶ すべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  - ➔**車内での施錠/解錠** P.83
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか?
  - ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  - ➔**フロントシート** P.108
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか?
  - ▶ ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  - ➔**フロントシート** P.108
- 乗員全員が正しくシートベルトを装着しているか?
  - ▶ 運転者と乗員全員が正しくシートベルトを装着していることを確認してください。
  - ➔**シートベルトの着用** P.22
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか?
  - ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  - ➔**エアバッグ** P.26
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを装着しているか?
  - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  - ➔**お子さまの安全** P.37
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを P にしているか?
  - ▶ さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
  - ➔**シフト操作** P.145

≫安全のための確認事項

ドア/トランク開閉警告灯が点灯している場合は、完全に閉まっていないドア、トランクがあります。

ドア、トランクをもう一度正しく閉め直してください。「ドア/トランク開閉警告灯」は消灯し、正常な状態に戻ります。

➔**ドア/トランク開閉警告灯** P.55

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
全ての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの装着

シートベルトの装着にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

≫シートベルトについて

⚠警告

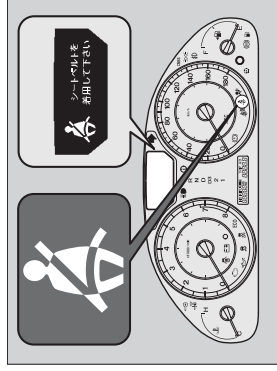
シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

リヤシートの外側2座席にチャイルドシートを取り付けて使用してください。

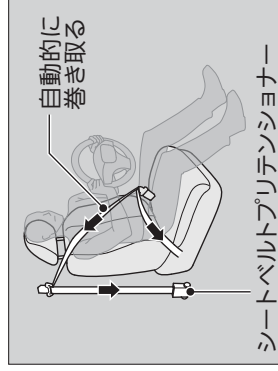
シートベルトリマインダー

エンジンスイッチを II にしたときや走行したとき、運転席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。

シートベルトプリテンショナー

安全性をより高めるために、フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束効果を高めるための装置です。

次ページに続く

≫シートベルトリマインダー

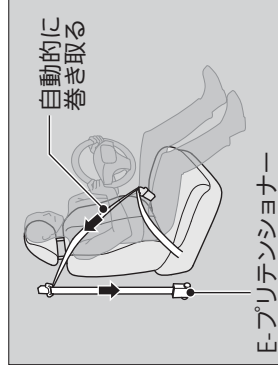
- 運転席シートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- セレクトレバーを R に入れたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

≫シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナーは一度作動すると使用できません。
衝突したときは、Honda販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。

⚠注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

■E-プリテンショナー*

前方の車両に追突するおそれがあるときに、CMBSと連動して作動しシートベルトを巻き取ります。電子制御ブレーキアシストとも連動して作動します。作動後は、巻き取ったシートベルトをもとの状態に戻します。

シートベルトの着用

■三点式シートベルト

1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。

» E-プリテンショナー

E-プリテンショナーのみが作動したときは、交換する必要はありません。

VSA警告灯が点灯しているときは、E-プリテンショナーは作動しません。

» シートベルトの着用

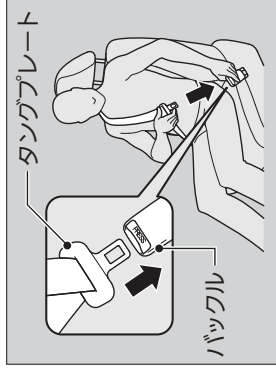
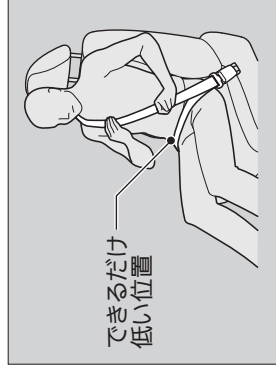
ベルトが肩に十分かかるよう、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

ベルトが首、あご、顔などに当たる場合は、ショルダーアンカーの高さを調節します。

ショルダーアンカーの高さ調節 P.24

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

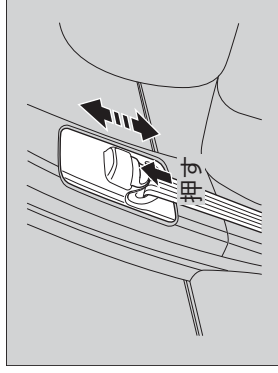
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

3. タングプレートをバックルに差し込む。
 ▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。

4. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように合わせる。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

» シートベルトの着用

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。

そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

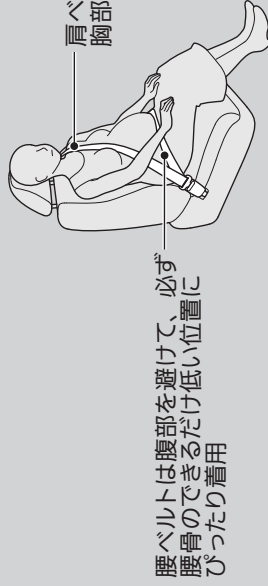
シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

次ページに続く

ショルダーアンカーの高さ調節

フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンを押しながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。

» ショルダーアンカーの高さ調節

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首に当たるときは、下げて調節してください

⚠注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

» 妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。
点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

≫シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きがもとに戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、エンジンスイッチが[II]のときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ**：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS： サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■ 格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

≫ エアバッグの種類

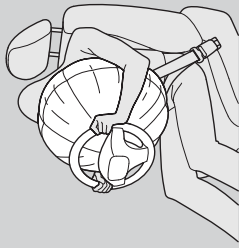
エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

⚠ 警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠ 注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

■ SRS エアバッグの作動

前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRS エアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作のじゃまにならないように、SRS エアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。
- 20 ～ 30km/h 以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30° 以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの（車やガードレールのように変形するもの）に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。
- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次ページに続く

SRSエアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

エアバッグの作動は、衝突状況とシートベルト着用の有無により異なります。
そのため、運転席または助手席のエアバッグが片側のみ作動することがあります。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRSエアバッグの作動

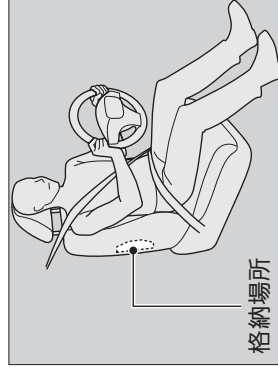
車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

⚠注意

SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

サイドエアバッグ

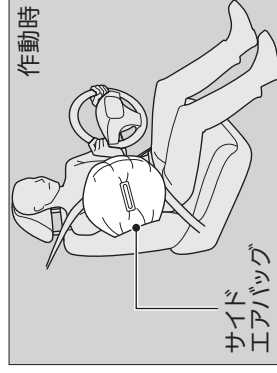
フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所

運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

作動時

サイド
エアバッグ

サイドエアバッグは、約30km/h以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

次ページに続く

» サイドエアバッグ

サイドエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

サイドエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドエアバッグが作動します。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。

正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。

フロントシートへのシートカバー装着にあたってはHonda販売店にご相談ください。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。
- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。
- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

» サイドエアバッグ

⚠注意

ドアに寄りかからない。

サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。

リヤシート同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。

サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。

安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドエアバッグ自動停止システム

助手席に乗ったお子さまなどを保護する目的で、以下のような状態ではサイドエアバッグ自動停止システムがはたらきます。

- 小さなお子さまや小柄な大人のかたがドアに寄りかかるなどで、サイドエアバッグが膨らむ付近に頭があるようなとき
- 助手席の同乗者がサイドエアバッグの作動範囲に入ったとき
- 大人のかたが前かがみになっていたり、寝そべってドアに寄りかかっているとき

こうした状態になるとセンサーが作動し、サイドエアバッグ自動停止表示灯が点灯します。

サイドエアバッグ自動停止表示灯 P.35

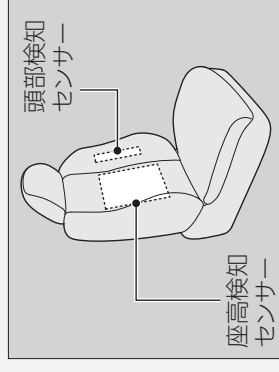
サイドエアバッグ自動停止表示灯の点灯

サイドエアバッグ自動停止表示灯が点灯したら、同乗者に体を起こすように指示してください。また、小さなお子さまの場合は、リヤシートに乗せてください。

表示灯が消灯すると、サイドエアバッグは自動停止状態を解除し、通常の状態に戻ります。

サイドエアバッグ

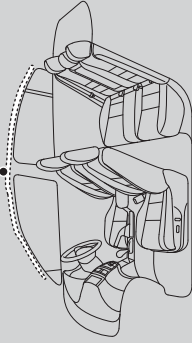
各センサーにより乗員姿勢を検知して、サイドエアバッグの作動を制御します。

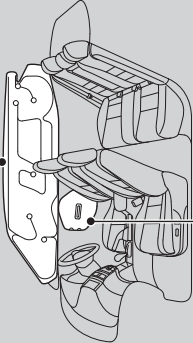
ドアにもたれるなどしないように注意してください。

以下のような場合、センサーが正常に作動しないことがあります。

- シートの背もたれがぬれているとき
- 金属など電気を通すものが接しているとき
- シートにクッションなどを置いているとき
- ダウンジャケットなど厚い上着を着ているとき
- 水分を含んだものを助手席に置いているとき

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

■ 格納場所

運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

■ 作動のしくみ

サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときに、運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

サイドカーテンエアバッグの作動 / 非作動は、サイドエアバッグと同じ条件です。

» サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

≫サイドカーテンエアバッグ

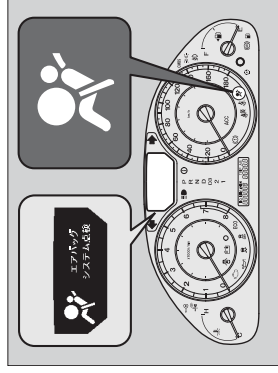
⚠注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。
収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯 / 表示灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯や表示灯、マルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■ エアバッグシステム警告灯

■エンジンスイッチを II にしたとき

エンジンスイッチを II にすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■エアバッグシステム警告灯が点灯状態のとき

この警告灯が点灯している状態は、エアバッグシステムまたはシートベルトシステムに異常があることを示します。

≫エアバッグシステム警告灯

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda販売店で点検を受けてください。

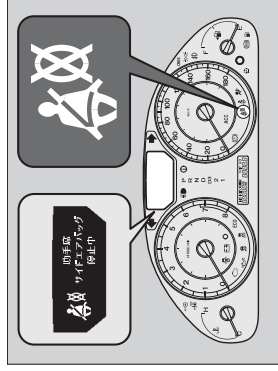
エアバッグシステム警告灯が常時点灯する状態のときは、SRSエアバッグ、サイドエアバッグ、サイドカーテンエアバッグ、シートベルトプリテンショナー、E-プリテンショナー✤に異常がある可能性があります。すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。

また、エンジンスイッチを II にしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も同様です。

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。

エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、シートベルトプリテンショナー、E-プリテンショナー✤が正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。

サイドエアバッグ自動停止表示灯

■エンジンスイッチを[II]にしたとき

エンジンスイッチを[II]にすると、サイドエアバッグ自動停止表示灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■サイドエアバッグ自動停止システムの作動

サイドエアバッグの自動停止システムが作動して、助手席のサイドエアバッグシステムが停止状態になると、サイドエアバッグ自動停止表示灯が点灯します。
この表示灯が点灯していても、異常ではありません。

➔サイドエアバック自動停止システム P.31

»サイドエアバッグ自動停止表示灯

以下の状態で点灯する場合、Honda販売店で点検を受けてください。

- 走行中、助手席に誰も乗っていないとき
- 正しい乗車姿勢をとっているとき

エンジンスイッチを[II]にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないときも、Honda販売店で点検を受けてください。

助手席の同乗者が正しい乗車姿勢をとっている状態で、サイドエアバッグ自動停止表示灯が点灯する場合は、下記の項目を確認してください。

- シートの背もたれがぬれていないか?
- 金属など電気を通すものが接していないか?
- 水分を含んだものを助手席に置いていないか?

原因となるものを取り除いても、サイドエアバッグ自動停止表示灯が点灯している場合はHonda販売店で点検を受けてください。

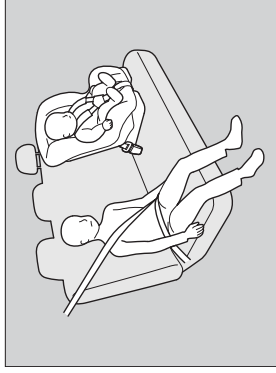
エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。

- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があるため危険です。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶ お子さまを抱えていても、衝突したときに支えることができず危険です。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶ 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 窓やサンルーフから手や顔、ものを出さない
  ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが窓やサンルーフから手や顔、ものなどを出さないように注意してください。思わぬ障害物により事故のおそれがあり危険です。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になり危険です。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

≫お子さまの安全を守るために

お子さまを助手席に乗せないほうが良い理由は下記の通りです。

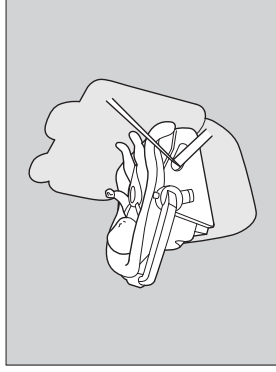
- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置すると SRS エアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

乳幼児の安全

■ 乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。

■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。
推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

≫乳児のチャイルドシート

運転席を推奨する位置まで下げられなかったり背もたれの角度を調節できなかったりした場合は、他の席に設置してください。

⚠警告

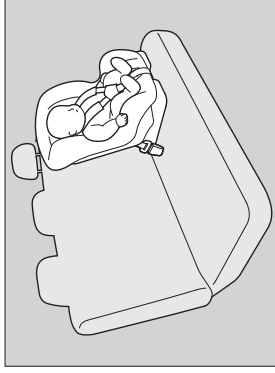
後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。

■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

次ページに続く

»幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されると SRS エアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは汎用型 ISOFIX チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属しているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の 3 つの条件を満たしている必要があります。

- 一覧表に案内されているチャイルドシートであること

選択の目安 P.41,42

- チャイルドシートがお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること

チャイルドシートの選びかた

汎用型ISOFIXチャイルドシートは取り付けが簡単です。
汎用型ISOFIXチャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda純正品のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

■ シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	座席位置 前席 助手席	後席 外側席	後席 中央席
グループ 0 ～10kg	X	U	U
グループ 0＋ ～13kg	X	U	U
グループ I 9kg～18kg	UF※1	U	U
グループ II 15kg～25kg	UF※1	U	U
グループ III 22kg～36kg	UF※1	U	U

記号の説明

U ：汎用型チャイルドシートが取り付け可能です。
UF ：汎用型チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。
X ：チャイルドシートを取り付けできません。
※1：背もたれを最も前に起こした位置で取り付け可能です。

次ページに続く

»シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準であるECE R44に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

UとUFのチャイルドシートには、ECE R44認可表示と取扱説明書にUNIVERSAL（汎用）と案内されているものもあります。

EC認可表示（例）

汎用型ISOFIXチャイルドシート以外のチャイルドシートを使用するときは、シートの種類や取り付けの向きにより固定金具（ロッキングクリップ）が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

■汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

この車のリヤシートには、汎用型 ISOFIX チャイルドシートを取り付けるためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジを装備しています。
次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシート 重量区分	サイズ等級	固定具	ISOFIX 位置		
			前席	後席	
			助手席	外側席	中央席
キャリコット	F	ISO/L1	―	X	―
	G	ISO/L2	―	X	―
グループ 0 ～10kg	E	ISO/R1	―	IL	―
グループ 0 ＋ ～13kg	E	ISO/R1	―	IL	―
	D	ISO/R2	―	X	―
	C	ISO/R3	―	X	―
グループ I 9kg ～ 18kg	D	ISO/R2	―	X	―
	C	ISO/R3	―	X	―
	B	ISO/R2	―	IUF	―
	B1	ISO/F2X	―	IUF	―
	A	ISO/F3	―	IUF	―
グループ II 15kg ～25kg	―	―	―	X	―
グループ III 22kg ～ 36kg	―	―	―	X	―

記号の説明

IL ：国連の安全基準 ECE R44 に適合している準汎用型 ISOFIX チャイルドシートのみが取り付け可能です。

IUF：国連の安全基準 ECE R44 に適合している汎用型 ISOFIX チャイルドシートのみが前向きに取り付け可能です。

X ：ISOFIX チャイルドシートが取り付けできません。

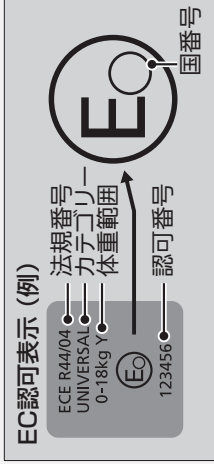
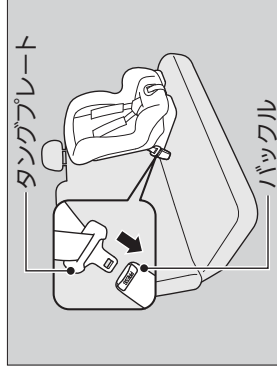
»汎用型ISOFIXチャイルドシートについて

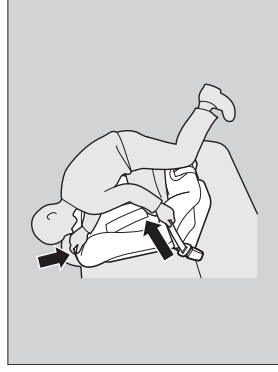
チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIXサイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	ー
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

ILはECE R44に適合した、Honda純正Honda Baby ISOFIXのみ取り付けることができます。ご購入はHonda販売店にご相談ください。

IUFのチャイルドシートには、ECE R44認可表示と取扱説明書にUNIVERSAL ISOFIX(汎用)と案内があります。

次ページに続く

シートベルトでの取り付け

1. チャイルドシートを座席に置く。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、バックルが「カチリ」という音がするまできちんと差し込んでください。

3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

シートベルトで固定するチャイルドシートについて P.41

チャイルドシートの取り外し

チャイルドシート固定機構付きシートベルトでチャイルドシートを固定した場合の取り外しは、バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

シートベルトでの取り付け

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

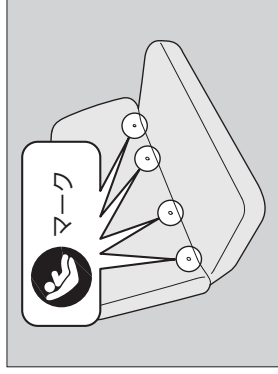
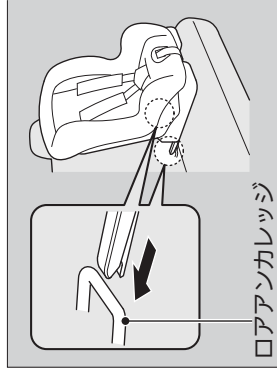
チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具（ロッキンググリップ）が必要になります。

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、ロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。

1. マークの下にあるシートの切れ目からロアアンカレッジを確認する。

2. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがってロアアンカレッジに取り付ける。

▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどがロアアンカレッジにかみ込まないようにしてください。

次ページに続く

≫汎用型ISOFIXチャイルドシートの取り付け

汎用型ISOFIXチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

⚠注意

ロアアンカレッジ周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

3. ヘッドレストの後ろにあるカバーを開ける。
4. ヘッドレストを持ち上げ、トップテザーストラップをヘッドレストの下に通す。
   ▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。
5. トップテザーストラップをトップテザーアンカレッジに引っかけ、ストラップを締める。
6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

➔汎用型ISOFIXチャイルドシートについて P.42

▷ 汎用型ISOFIXチャイルドシートの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。

■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか?
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか?
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか?
- 乗車中、無理なくすわっていられるか?

次ページに続く

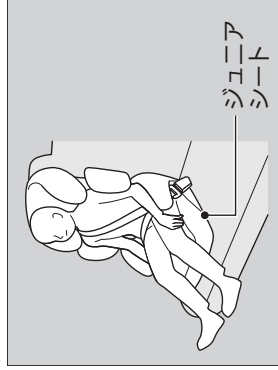
»大きなお子さまの安全

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。
やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

ジュニアシートについて

三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- この取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけ、足をフロアーにつけるよう指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する
- お子さまの行動を見守る

ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

» 一酸化炭素について

⚠ 警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままエンジンをかけないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンをかけるようにしてください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯（パーキングブレーキをかけているときは点灯） • ブレーキ液量が低下したときに点灯 • パーキングブレーキをかけたまま走行するとブザーが鳴り、点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキ液を点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **ブレーキ警告灯が点灯した** P.214	ブレーキ液量低下 ブレーキシステム点検 パーキングブレーキを解除して下さい
	油圧警告灯	• エンジンスイッチを II にすると点灯し、エンジン始動で消灯 • エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	• **走行中に点灯** = ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 **油圧警告灯が点灯した** P.213	エンジン油圧異常
	PGM-FI 警告灯	• エンジンスイッチを II にすると点灯し、エンジン始動で消灯 エンジンを始動していないときは数十秒後消灯 • エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	• **走行中に点灯** = 高速走行を避けてただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • **走行中に点滅** = 枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを止めて冷えるのをお待ちください。 **PGM-FI警告灯が点灯/点滅した** P.214	エンジンシステム点検

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	充電警告灯	• エンジンスイッチを II にすると点灯し、エンジン始動で消灯 • バッテリーが充電されていないと点灯	• **走行中に点灯** = 電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 **充電警告灯が点灯した** P.213	充電システム点検
D	トランスミッション警告灯（セレクトポジション表示灯）	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 • トランスミッションが異常のときに点滅	• 運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	トランスミッション点検
	シートベルト非着用警告灯	• 運転者がシートベルトをしないと点灯 • エンジンスイッチを II にしたときや走行中、運転者がシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 **シートベルトリマインダー** P.21	シートベルトを着用して下さい
	Honda スマートキーシステム警告灯	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 • Honda スマートキーシステムが異常のとき点灯	• 下記のような場合、Honda 販売店で点検を受けてください。 • 運転中に点灯した • エンジン始動後も消灯しない • エンジンスイッチが 0 のときに数秒間点灯した	Honda スマートキーシステム点検

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯 • 燃料計に異常があるときは点滅	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、Honda 販売店で点検を受けてください。	給油して下さい 燃料センサ 点検
ACC	ACC（アダプティブクルーズコントロール）警告灯✤	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 • ACC（アダプティブクルーズコントロール）システムが異常のときに、オレンジ色で点灯	• 詳細については、別冊の「ACC」取扱説明書をご覧ください。	ACC ACCシステム 点検
ABS	ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 • ABS が異常のときに点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **➡ABS（アンチロックブレーキシステム）** P.154	ABS アンチロック ブレーキ点検

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	エアバッグシステム警告灯	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 • 下記のとき点灯 　• エアバッグシステムの異常 　• プリテンショナーシステムの異常	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。	エアバッグ システム点検
	VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA が作動しているときは点滅 • ブレーキアシストシステム、VSA システムのいずれかが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 **VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.150	VSA システム 点検
OFF	VSA OFF 警告灯	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA を OFF にすると点灯	**VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.150	—

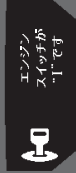
計器の見かた

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
CMBS	CMBS 警告灯 ✤	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 • CMBS を OFF にしているとき点灯 • CMBS に異常があるとき点灯	• OFF にしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ➡ **CMBS（追突軽減ブレーキ）** P.156	CMBS CMBSシステム 点検
	ドア / トランク開閉警告灯	• ドア、トランクが閉まっているときは、エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 • ドア、トランクが完全に閉まっていないとき点灯	• ドア、トランクを完全に閉めると、警告灯が消灯します。	

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器 表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 **電球の交換** P.175、177	—
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—	—
	ライト点灯 表示灯	• ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯 (AUTO のときは車幅灯点灯時に点灯)	• ライトを点灯したまま内蔵キーを抜く / プッシュオフにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。	—
	フォグライト点灯 表示灯	• フォグライトを点灯させると点灯	—	—
	サイドエアバッグ 自動停止表示灯	• エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 • 助手席のサイドエアバッグシステムのセンサーが作動し、サイドエアバッグシステムが自動的に停止したときに点灯	• 一瞬の点灯は異常ではありません。 • 点灯したときは、上体を起こしてすわってください。小さいお子さまが助手席に乗っているときは、リヤシートに乗せてください。 • 助手席に誰も乗っていないのに走行中点灯するときは、Honda 販売店で点検を受けてください。	助手席 サイドエアバッグ 停止中

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	イモビライザーシステム表示灯	● エンジンスイッチを II にすると一瞬点灯し、すぐに消灯 ● イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	● 一瞬の点灯は異常ではありません。 ● 点滅しているときは、エンジンを始動することはできません。エンジンスイッチをいったん 0 （プッシュオフ）にしてから、もう一度 II にしてください。 ● 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 ● エンジンスイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。	—
	インフォメーション表示灯	● 異常を検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に点灯	● メッセージが表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 ● メッセージは、警告が解除されるか、インフォメーション（i）スイッチを押すまで通常表示に戻りません。 ● 点灯しているときにインフォメーション（i）スイッチを押すと、メッセージを再表示させる事ができます。	—

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
表示灯	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➔ **セキュリティアラームシステム** P.89	—
CRUISE MAIN	クルーズメイン表示灯✤	• クルーズスイッチを押して、クルーズコントロールを ON にすると点灯	➔ **クルーズコントロール** P.147	—
CRUISE CONTROL	クルーズコントロール表示灯✤	• クルーズコントロールで自動定速走行しているときに点灯	➔ **クルーズコントロール** P.147	—
ACC	ACC（アダプティブクルーズコントロール）表示灯✤	• ACC スイッチを押して、ACC を ON にするとグリーンで点灯	• 詳細については、別冊の「ACC」取扱説明書をご覧ください。	—
ECO	ECO（エコ）表示灯	• 定速走行時や減速運転時のエンジンの燃費の状態が良いときに点灯	—	—

マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージ

下記の警告メッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション（ⓘ）スイッチを押してください。

警告メッセージ	表示される状況	アドバイス
外気温低下 注意	● エンジンスイッチが II のときに、外気温が 3℃以下になると 1 回のみ表示	–
ライトが 点灯しています	● ライトを点灯したままキーを抜く・プッシュオフにして、運転席のドアを開けると表示	● ライトスイッチを OFF にしてください。 ➔**ライトスイッチ** P.98
エンジン水温 上昇	● 水温計の針が H の目盛りに入ると表示	● **走行中に点灯** = ただちに安全な場所に停車し、エンジンを冷やしてください。 ➔**オーバーヒート** P.211
LIGHT CONTROL オートライト システム点検	● オートライトコントロールシステムに異常があると表示	● 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔**ライトスイッチ** P.98

次ページに続く

警告メッセージ	表示される状況	アドバイス
エンジンスイッチを"0"にして下さい	• エンジンスイッチが I のときに運転席のドアを開けると表示	• エンジンスイッチを 0 （プッシュオフ）にしてください。 ➔**Hondaスマートキーエンジンスイッチ** P.93
エンジンスイッチが"I"です	• エンジンスイッチが I であり、運転席のドアを開けていないときに表示	—
キーが差し込まれています	• エンジンスイッチが 0 のときに運転席のドアを開けると表示	• Honda スマートキーをスロットから抜いてください。 ➔**Hondaスマートキースロット** P.95
キーが見つかりません	• エンジンスイッチが II で、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	➔**Hondaスマートキー持ち去り警告** P.96
キー電池残量低下	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	➔**Hondaスマートキーの取り扱いと電池交換** P.190

警告メッセージ	表示される状況	アドバイス
エンジンスイッチを"0"にして下さい	• エンジンスイッチが I のときに運転席のドアを開けると表示	• エンジンスイッチを 0 にして内蔵キーをエンジンスイッチから抜いてください。 **➡Hondaスマートキーエンジンスイッチ** P.93 **➡内蔵キーの差し込みかた** P.207
エンジンスイッチが"I"です	• エンジンスイッチが I であり、運転席のドアを開けていないときに表示	—
キーが差し込まれています	• エンジンスイッチが 0 のときに運転席のドアを開けると表示	• 内蔵キーをエンジンスイッチから抜いてください。 **➡内蔵キーの差し込みかた** P.207
BRAKE	• 前方の車両に追突するおそれがあるときに、警告ブザーと同時に表示	**➡CMBS（追突軽減ブレーキ）** P.156
CMBS RADAR レーダー汚れ	• エンブレムが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいときに表示	**➡CMBS（追突軽減ブレーキ）** P.158
走行中はカスタマイズできません	• 以下のとき、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ設定をすると表示 • セレクトレバーが P 以外のとき	**➡カスタマイズのしかた** P.69

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計、水温計などの種類があります。

スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。
エンジンスイッチが[II]のとき表示されます。

水温計

エンジン冷却水の温度を表示します。通常は[H]のマークにまで上がらない状態で走行します。
エンジンスイッチが[II]のとき表示されます。

タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

≫燃料計

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

アドバイス

燃料計が[E]に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

≫水温計

アドバイス

水温計が[H]のマークを示した場合、オーバーヒートのおそれがあります。

ただちに安全な場所に停めて、エンジンを冷やしてください。

➡**オーバーヒート** P.211

≫タコメーター

エンジンの限界回転数は、6,800rpmです。

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上（レッドゾーン）に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

空ぶかしをしたときに、エンジン回転数が下記の回転数になるとトランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

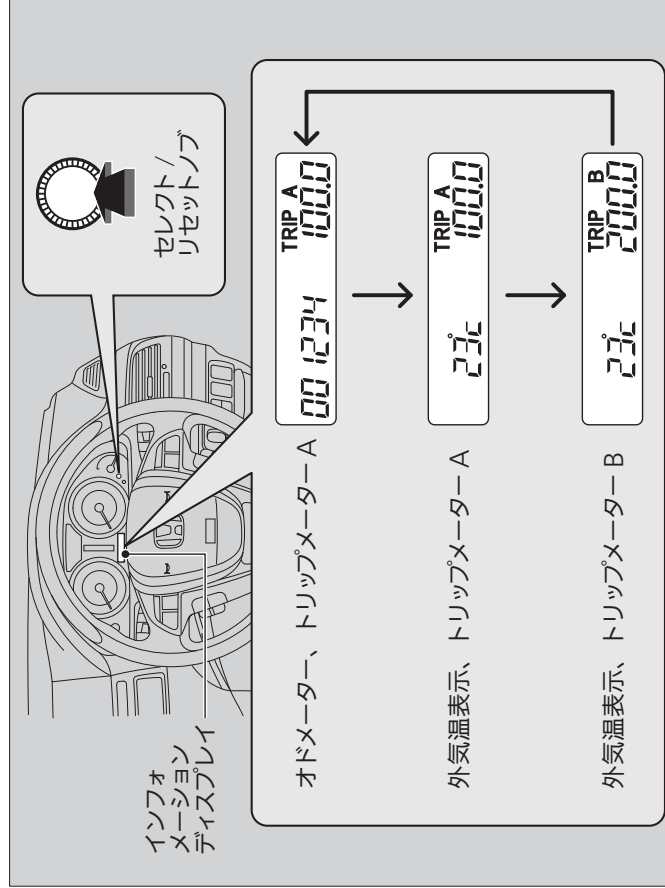
回転数・・・・・4,000rpm

インフォメーションディスプレイ

インフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示などが表示されます。

■ 表示の切り換えかた

セレクト / リセットノブを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。

次ページに続く

オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップ A と、トリップ B があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■ トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、セレクト / リセットノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

トリップメーター

トリップメーターは走行距離が9999.9kmを超えると、0.0kmに戻ります。

トリップAとトリップBはセレクト/リセットノブを押して切り換えられます。

外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、± 3℃の範囲で補正することができます。
補正するには、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能を使用します。

カスタマイズのしかた P.69

外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近についています。

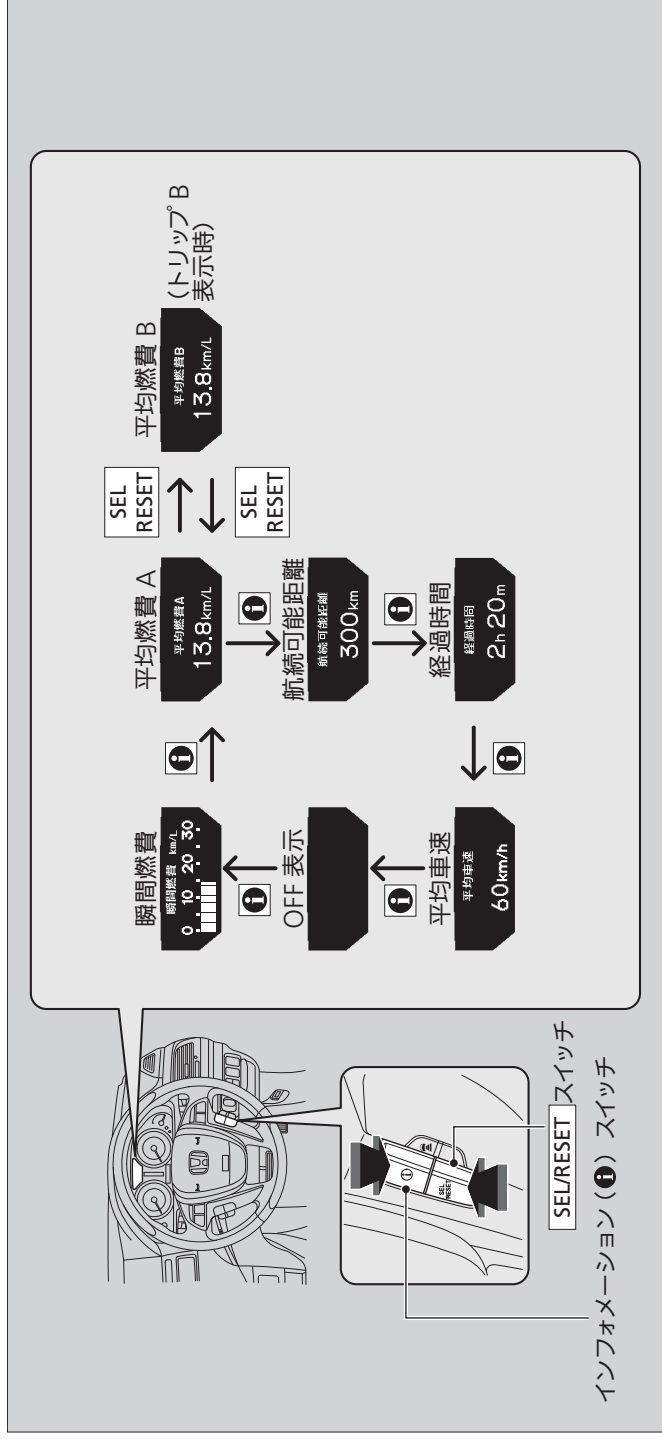
速度がおよそ30km/h以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。
また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、燃費情報などが表示されます。
また、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。

■ 表示の切り換えかた

インフォメーション(ℹ)スイッチを押すごとに画面が切り換わります。「平均燃費 B」を表示させるには、SEL/RESET を押します。

瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/L で表示します。

平均燃費表示

トリップメーター A、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/L で表示します。
トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

航続可能距離表示

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

経過時間表示

エンジンを始動してから停止するまでの時間を表示します。

平均車速表示

トリップメーター A をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

次ページに続く

≫平均燃費表示

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターAと平均燃費Aを給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
➔**カスタマイズ機能** P.68

≫航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

≫経過時間表示

経過時間表示は99時間59分まで表示できます。

経過時間のリセット条件を変更することができます。
➔**カスタマイズ機能** P.68

■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ（設定変更）することができます。

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
CMBS 設定	CMBS 警報タイミング	NEAR※、FAR
ACC 設定	先行車検知音	有り※、無し
メーター設定	外気温表示補正	−3℃ ～ ± 0℃※ ～ +3℃
	トリップ A の給油連動リセット	ON、OFF※
	経過時間のリセット条件切り換え	IGN OFF※、トリップ A、トリップ B
Honda スマートキーシステム設定	アンサーバックブザー音量	大※、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー	作動※、非作動
ライティング設定	インテリアライト点灯時間	60 秒、30 秒※、15 秒
	オートライト感度	MAX、HIGH、MID※、LOW、MIN
ドア / ウィンドウ設定	自動ドアロック連動機能	非連動、車速連動※、シフト連動
	自動ドアアンロック連動機能	非連動、シフト連動※、IG OFF 連動
	キーレスアンサーバック	作動※、非作動
	キーレスリロック時間	90 秒、60 秒、30 秒※
	セキュリティ機能	作動※、非作動

※工場出荷時の設定

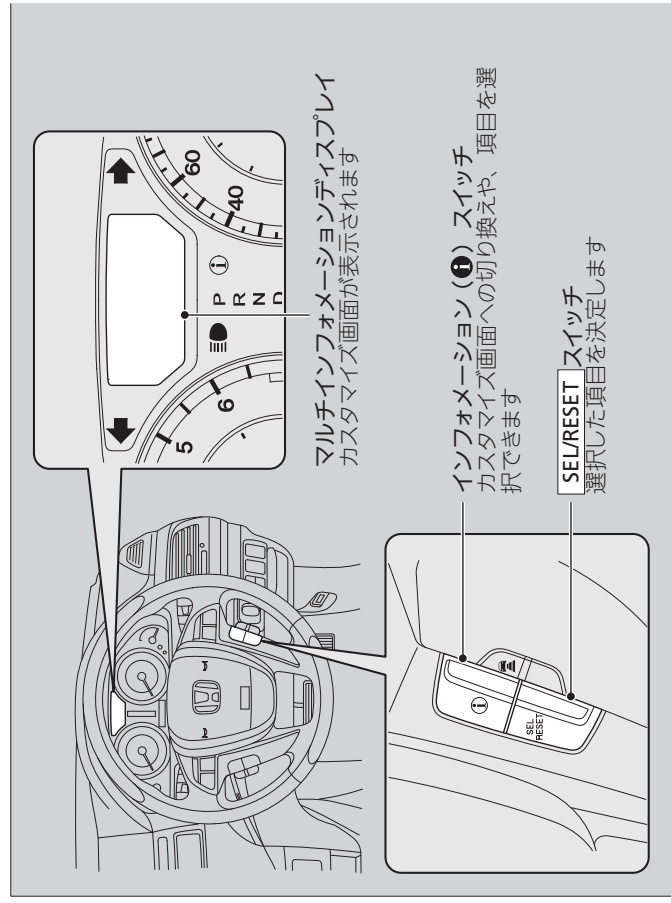
カスタマイズのしかた

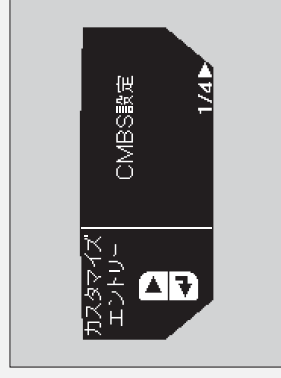
エンジンスイッチが II でセレクトレバーが P のときに、インフォメーション（ⓘ）スイッチを数秒間押し続けるとカスタマイズを行なうことのできる「カスタマイズエントリー」画面に切り換わります。

マルチインフォメーションディスプレイ
カスタマイズ画面が表示されます

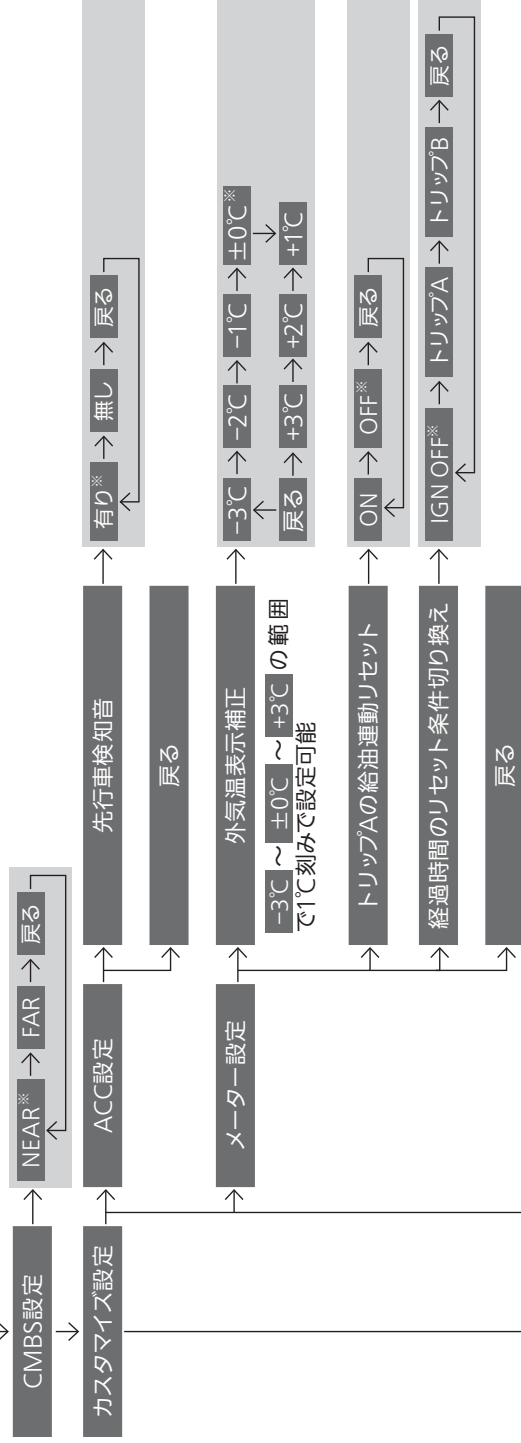
インフォメーション（ⓘ）スイッチ
カスタマイズ画面への切り換えや、項目を選択できます

SEL/RESET スイッチ
選択した項目を決定します

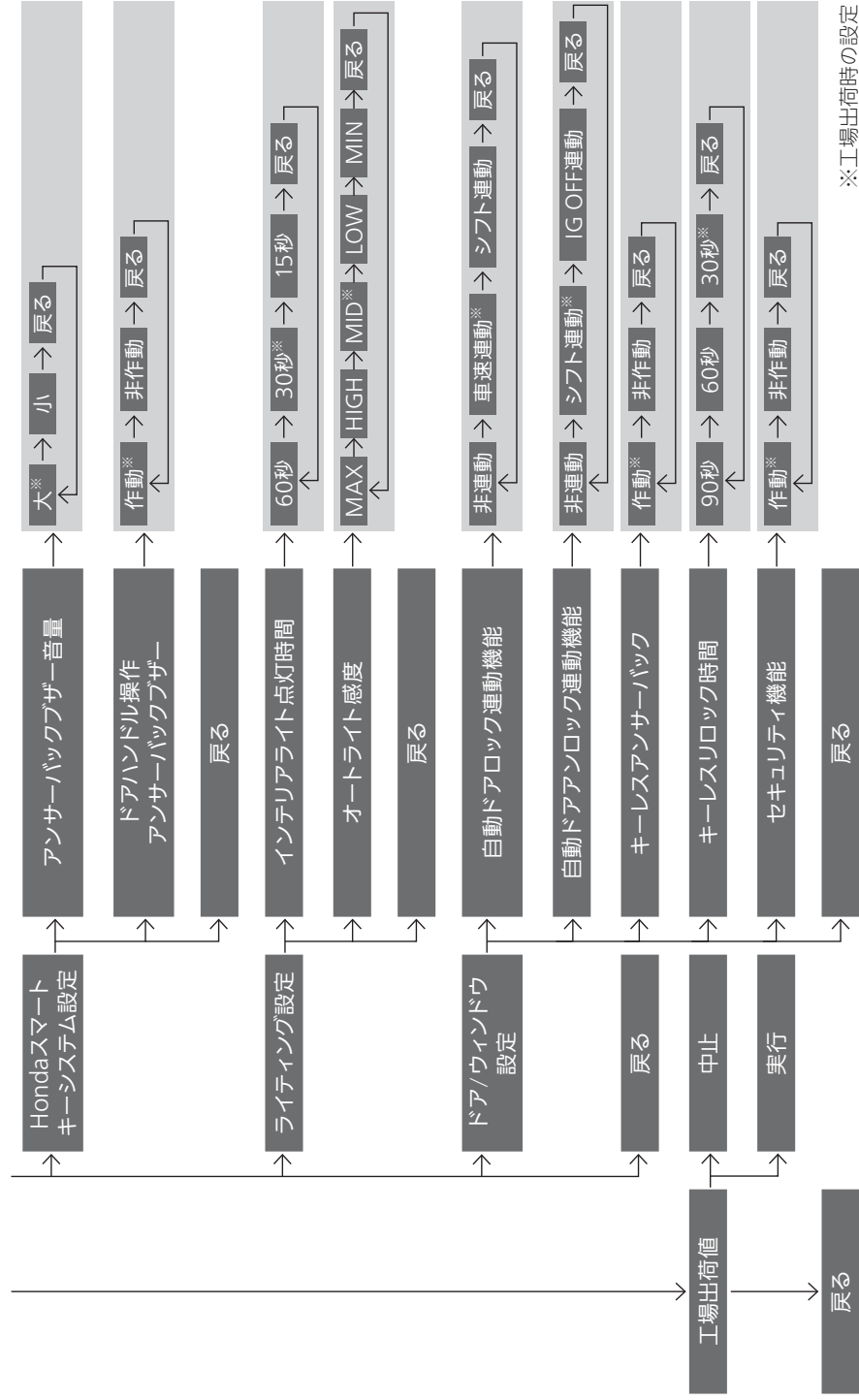
次ページに続く

»カスタマイズのしかた

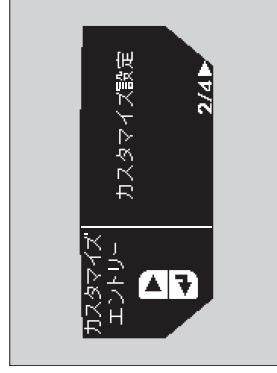
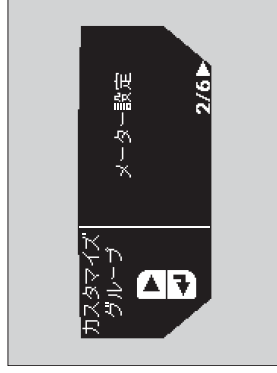
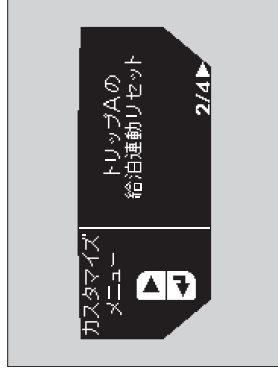
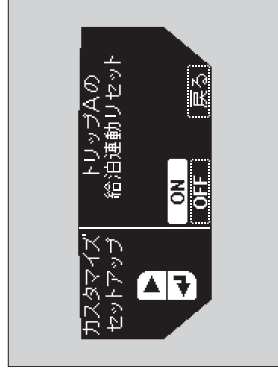
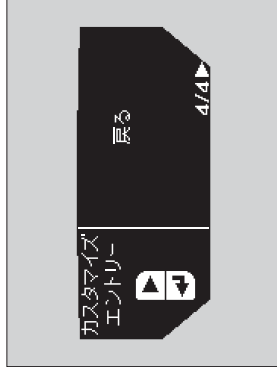
インフォメーション（ⓘ）スイッチを数秒間押し続けると、最初に「CMBS設定」機能のカスタマイズメニューが表示されます。

カスタマイズ操作一覧 P.70
カスタマイズ設定の例 P.72

■カスタマイズ操作一覧

インフォメーション（ⓘ）スイッチでメニューを切り換え、SEL/RESET で決定します。

※工場出荷時の設定

※工場出荷時の設定

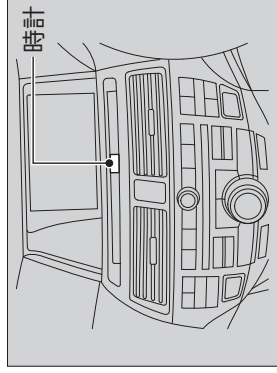
次ページに続く

■カスタマイズ設定の例

例えば「トリップA の給油連動リセット」を「ON」にする場合、下記の手順で設定します。
「トリップA の給油連動リセット」は工場出荷時の設定では「OFF」になっています。

1. インフォメーション（ⓘ）スイッチを数秒間押し続ける。
   ▶「カスタマイズエントリー」画面に切り換わり、「CMBS 設定」が表示されます。
2. インフォメーション（ⓘ）スイッチを押し、「カスタマイズ設定」が表示されたら、SEL/RESET を押す。
   ▶「カスタマイズグループ」画面に切り換わり、最初に「ACC 設定」が表示されます。

3. インフォメーション（ⓘ）スイッチを押し、「メーター設定」が表示されたら、SEL/RESET を押す。
   ▶「カスタマイズメニュー」画面に切り換わり、最初に「外気温表示補正」が表示されます。

4. インフォメーション（ⓘ）スイッチを押し、「トリップ A の給油連動リセット」が表示されたら、SEL/RESET を押す。
▶「カスタマイズセットアップ」画面に切り換わり、「ON」、「OFF」、「戻る」が選択できます。

5. インフォメーション（ⓘ）スイッチを押して「ON」を選び、SEL/RESET を押す。
▶「ON に設定しました」という画面が表示された後、「カスタマイズメニュー」画面に戻ります。

6. インフォメーション（ⓘ）スイッチを押し、「戻る」が表示されたら、SEL/RESET を押す。
7. 手順 6 の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

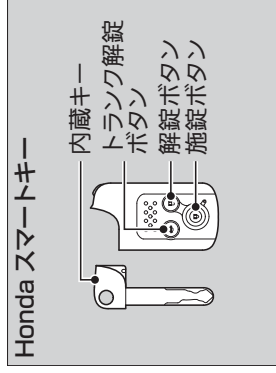
各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻の設定

時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーがついています。

Honda スマートキー

エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、トランクの施錠・解錠に使用できます。

キーの種類と機能

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

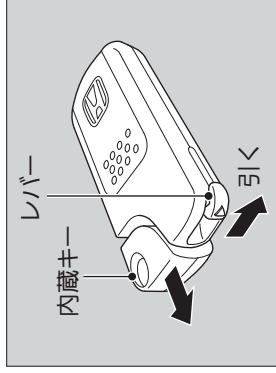
イモビライザーシステム P.89

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。

故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

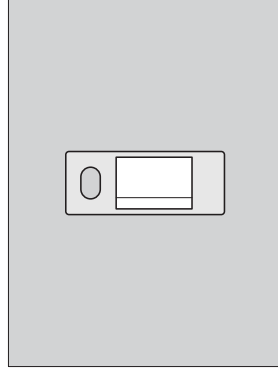
- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 分解をしない

キーの電子部品が故障すると、エンジンの始動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーは Honda スマートキーに収納しておいてください。

■ キーナンバータグ

キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

≫キーの種類と機能

➲内蔵キーの差し込みかた P.207

Hondaスマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。
- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キー内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない。

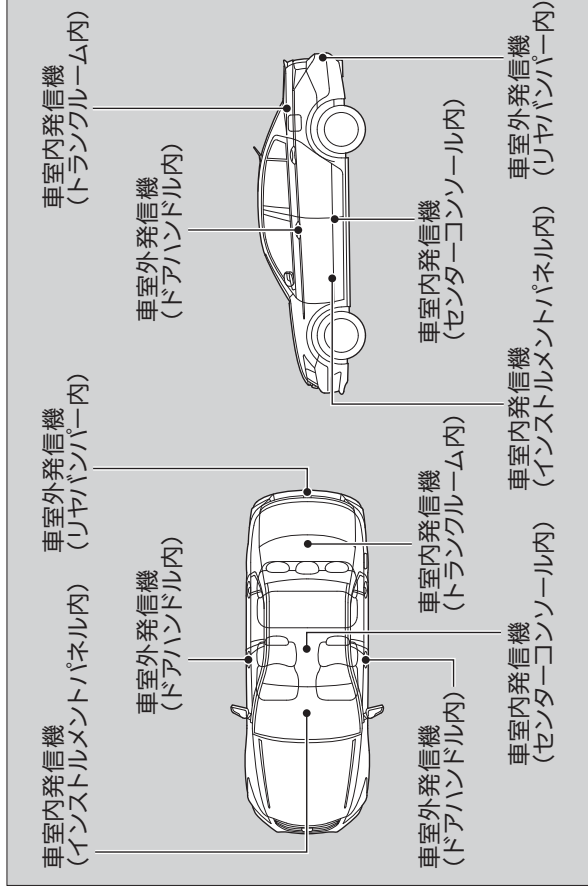
分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

≫キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、トランクの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンをかけるとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されています。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき

》Hondaスマートキーの微弱電波

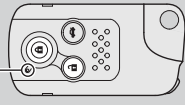
⚠注意

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Hondaスマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約2年間です。
また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

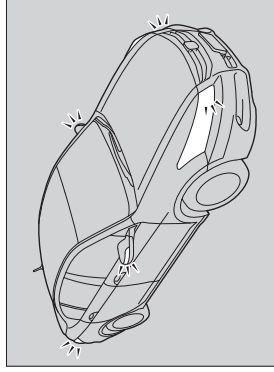
■ キーレスエントリーでの施錠 / 解錠

Honda スマートキー
インジケーター
Ⓐ 施錠ボタン
Ⓑ 解錠ボタン

■施錠

施錠ボタンを押します。
▶ 非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドアとトランクが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。
▶ 非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドアとトランクが解錠されます。

次ページに続く

»キーレスエントリーでの施錠/解錠

30秒以内にドアを開けてください。
キーレスエントリーでドアの解錠操作をした場合、30秒以内にドアを開けないと、ドアは再び自動的に施錠されます。

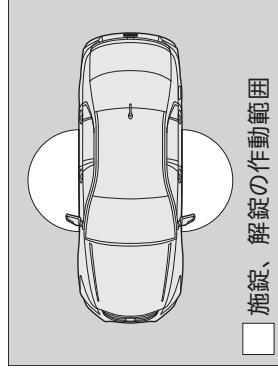
解錠ボタンを押すと、室内灯が点灯します。
室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠ボタンを押すと室内灯が点灯します。約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にキーレスエントリーで施錠すると、室内灯はただちに消灯します。
➡**室内灯** P.115

キーレスエントリーは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

次の場合、キーレスエントリーは作動しません。
- エンジンスイッチが 0 以外のとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき
- ドアが開いているとき（施錠時のみ）

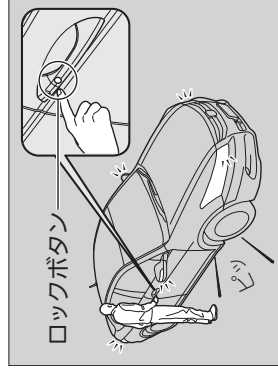
作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。
➡**Hondaスマートキーの取り扱いと電池交換** P.190

■ Honda スマートキーでの施錠 / 解錠

施錠、解錠の作動範囲

Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドルを操作することでドア、トランクの施錠や解錠を操作します。
ドア、トランクの施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドルから周囲約80cm 以内です。

■施錠するには

運転席または助手席ドアハンドルのロックボタンを押します。

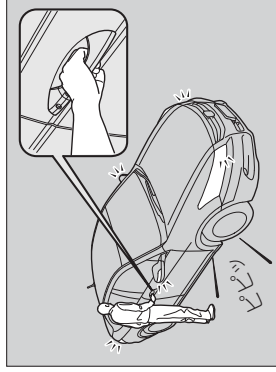
▶ 非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドアとトランクが施錠されます。このとき、アンサーバックブザーが「ピッ」と 1 回鳴ります。

» Hondaスマートキーでの施錠/解錠

- Hondaスマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲にHondaスマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドルで施錠/解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内にHondaスマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約2秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後に引くと、ドアが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおし、解錠されていることを確認してから引いてください。
- ドアハンドルより約80cm以内の距離でも、Hondaスマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラスに近づきすぎていると作動しないことがあります。

■解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握ります。

▶ 非常点滅表示灯が 2 回点滅し、 すべてのドアとトランクが解錠されます。このとき、アンサーバックブザーが「ピピッ」と2 回鳴ります。

次ページに続く

≫Hondaスマートキーでの施錠/解錠

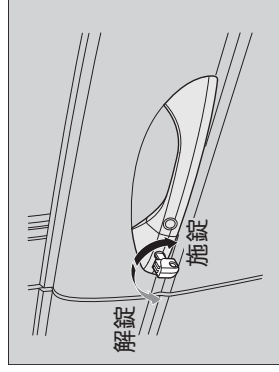
30秒以内にドアを開けてください。

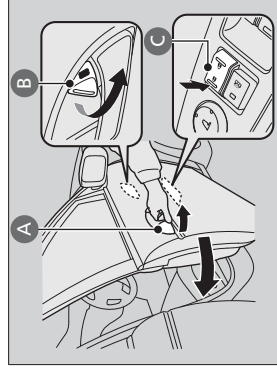
Hondaスマートキーでドアの解錠操作をした場合、30秒以内にドアを開けないと、ドアは再び自動的に施錠されます。

カスタマイズ機能について

施錠/解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

カスタマイズのしかた P.69

内蔵キーを差し込んでの施錠 / 解錠

内蔵キーを確実に差し込んで、回します。

内蔵キーを使わないでの施錠

■**運転席のドアの施錠**

外側のドアハンドルⒶを引いたまま、ノブⒷを引き出すかマスタードアロックスイッチⒸを施錠のほうに押し、ドアハンドルを離してドアを閉めます。

■**運転席以外のドアの施錠**

ノブを引き出し、ドアを閉めます。

■**キー閉じ込み防止装置**

内蔵キーがエンジンスイッチに差し込まれていると施錠できません。
また、Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあっても、施錠できません。

» 内蔵キーを差し込んでの施錠/解錠

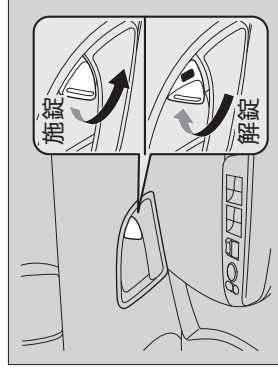
運転席ドアに内蔵キーを差し込んで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドアとトランクも同時に施錠/解錠されます。

» 内蔵キーを使わないでの施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドアとトランクも同時に施錠されます。

キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

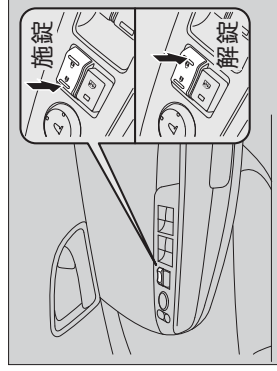
車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠

■施錠するには

ノブを引きます。

■解錠するには

ノブを押し込みます。

■ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

■ 運転席ドアハンドルでの解錠

室内の運転席ドアハンドルを引くと、運転席ドアのみが解錠されます。

» ノブでの施錠/解錠

運転席ドアのノブで施錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠されます。
運転席ドアのノブで解錠したときは、運転席ドアとトランクが解錠されます。

» マスタードアロックスイッチでの施錠/解錠

運転席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠/解錠されます。

チャイルドプルーフ

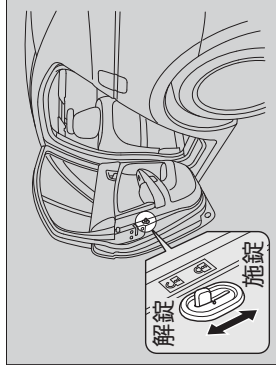
チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまを後席に乗せるときなどにお使いください。

チャイルドプルーフのセット

後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

≫チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、トランクを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

オートドアロック / オートドアアンロック

■オートドアロック（車速連動）

オートドアロックとは、車速が約 15km/h 以上になるとすべてのドア、トランクが自動的に施錠される機能です。

■オートドアアンロック（セレクトレバー連動）

ブレーキペダルを踏みセレクトレバーを P に入れると、すべてのドア、トランクが自動的に解錠される機能です。

»衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

»オートドアロック/オートドアアンロック

マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートドアロック/オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

➔**カスタマイズのしかた** P.69

トランク開閉時の注意

トランク開閉をするときは、下記の点に注意してください。

■トランクを開けているとき

- トランクは上までしっかりと開ける。
  - ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- トランクを開けたまま走行しない。
  - ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

■トランク閉めるとき

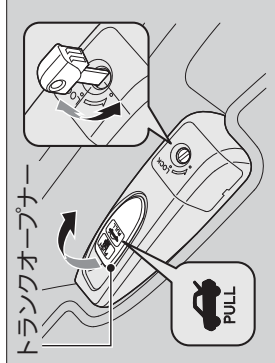
- Honda スマートキーを、トランク内に置き忘れないように注意する。

» トランク開閉時の注意

⚠注意

トランクを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

トランクオープナーで開ける

運転席右下にあるトランクオープナーを引き上げると、トランクが解錠され浮き上がります。内蔵キーを差し込んで施錠（解錠）できます。

キーレスエントリーで開ける

トランク解錠ボタンを約 1 秒押すと、トランクが解錠され浮き上がります。

トランクオープナーで開ける

運転席ドアが施錠されているとき

トランクを閉めると、トランクも施錠されます。

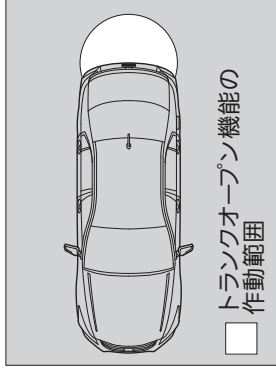
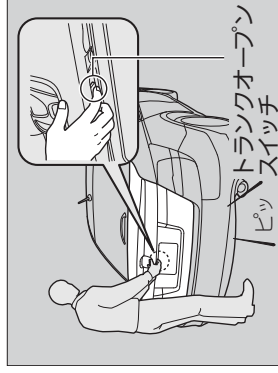
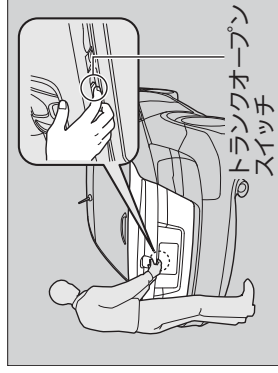
運転席ドアが解錠されているとき

トランクを閉めても、施錠されません。

キーレスエントリーで開ける

次の場合、キーレスエントリーを使用してのトランク開閉はできません。

- エンジンスイッチが 0 以外のとき
- スロットにHondaスマートキーが差し込まれているとき
- エンジンスイッチに内蔵キーが差し込まれているとき

トランクオープンスイッチで開ける

運転席ドアを解錠し、トランクオープンスイッチを押すとトランクが浮き上がります。

Honda スマートキーを携帯して、トランクオープンスイッチを押すとトランクが解錠され浮き上がります。このときアンサーバックブザーが「ピッ」と１回鳴ります。トランクオープン機能が作動するのは、トランクオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

トランクオープン機能の作動範囲

≫トランクオープンスイッチで開ける

- 作動範囲内にHondaスマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもトランクオープンスイッチでトランクを開けることができます。
- Hondaスマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- トランクオープンスイッチより約80cm以内の距離でも、Hondaスマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- 運転席ドアが解錠されているときは、トランクを開けてもアンサーバックブザーは鳴りません。

カスタマイズ機能について

施錠/解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

カスタマイズのしかた P.69

トランク内にHondaスマートキーを置いたままトランクを閉めると、ブザーが鳴りトランクが開きます。

Hondaスマートキーを取り出してから、再度トランクを閉めてください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。エンジンスイッチに内蔵キーを差し込むときは、下記の点に注意してください。

- エンジンスイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けたり、テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーまたはキーレスエントリー、内蔵キーを使わずにドア、トランク、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

また、エンジンスイッチを II にしたときにも作動します。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーまたはキーレスエントリー、内蔵キーで解錠してください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

次ページに続く

»イモビライザーシステム

システムを改造したりしないでください。

システムが故障するおそれがあります。

»セキュリティアラームシステム

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、最大5分間作動します。

ホーンおよび非常点滅表示灯は、1回の作動につき約30秒間作動し、その警報作動が最大10回行われます。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- エンジンスイッチを[0]（プッシュオフ）にする
- ボンネットが閉まっている
- Honda スマートキーまたはキーレスエントリー、内蔵キーですべてのドアが施錠されている

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーまたはキーレスエントリー、内蔵キーで解錠すると、セットは解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

» セキュリティアラームシステム

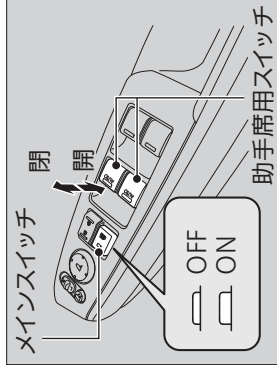
車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。
そのときは、Hondaスマートキーまたは内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

パワーウィンドーの開閉

エンジンスイッチがⅡのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のメインスイッチを ON にしてから行います。メインスイッチを ON にすると、スイッチにある表示灯が消灯します。
メインスイッチを OFF（表示灯点灯）にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、メインスイッチを OFF にしておいてください。

自動開閉機能付きのウィンドーの開閉

■手動開閉
開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉
開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開／全閉します。途中で止めるには、スイッチを軽く上げ／下げします。

次ページに続く

»パワーウィンドーの開閉

エンジンスイッチをOFFにしても、10分間はキーオフオペレーションにより自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開けてから閉めると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

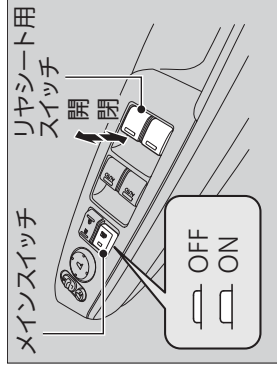
⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

自動開閉機能なしのウィンドーの開閉

開けるとき：スイッチを押す
閉めるとき：スイッチを引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

≫パワーウィンドーの開閉

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

お子さまが同乗している場合、ウィンドーを開閉できないよう、メインスイッチをOFFにしてください。
メインスイッチをOFFにすると、それぞれのウィンドーの開閉スイッチでの操作ができなくなります。

Honda スマートキーエンジンスイッチ

0 ロック（プッシュオフ）
エンジンスイッチがロックされる位置

0 ロック解除（プッシュオン）
エンジンスイッチノブを押すとロックが解除され、エンジンスイッチを回すことができます。

I アクセサリー
エンジンをかけずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用する位置

II ON
運転するときの位置

III 始動
エンジン始動位置
始動して手を離すと、自動的にIIに戻ります。

始動方法

1. Honda スマートキーの携帯を確認する。
2. エンジンスイッチノブを押す。
   ▶ エンジンスイッチのロックが解除されると、「ピッ」とブザーが鳴ります。
3. エンジンスイッチを、ゆっくりとIIIの位置まで回す。

次ページに続く

始動方法

エンジン始動の機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上、リアシェルフやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れを除く車内です。

Hondaスマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、エンジンの始動ができることがあります。

エンジンスイッチが0からIに回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらエンジンスイッチを回してください。
それでも回らない場合は、もう一度エンジンスイッチノブを押し直して、ゆっくりと回してください。

Hondaスマートキーが作動不良の場合は、内蔵キーを使って始動します。
内蔵キーの差し込みかた P.207

エンジンを停止するとき

1. セレクトレバーを P に入れる。
2. エンジンスイッチノブを、ゆっくりと 0 まで回す。
   ▶ エンジンスイッチを 0 （プッシュオフ）にすると、ハンドルがロックされます。

エンジンスイッチ警告ブザー

次の状態で車を離れようとした場合、警告ブザーが鳴ります。

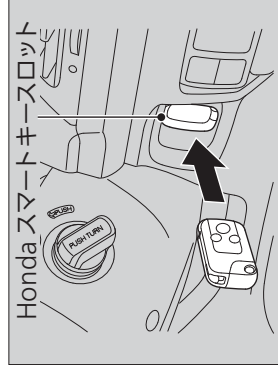
- エンジンスイッチが I のとき
- エンジンスイッチが 0 で、エンジンスイッチノブを押し込んでいるとき

エンジンを停止するとき

車から離れるときは、エンジンスイッチを 0 にしてください。

エンジンスイッチが 0 以外では、Hondaスマートキーで施錠できません。

Honda スマートキースロット

Honda スマートキーシステムモードスイッチを OFF にしているときは、スロットに Honda スマートキーを差し込むとエンジンスイッチの操作が行えます。

■差し込むとき

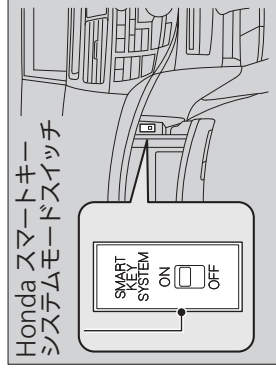
内蔵キー側を手前にして「カチッ」と音がするまで差し込みます。

■引き抜くとき

エンジンスイッチを 0 にしてから引き抜きます。

Honda スマートキーシステムを停止するとき

1. グローブボックス内の Honda スマートキーシステムモードスイッチを OFF にする。
   ▶ Honda スマートキーのすべての機能を停止します。

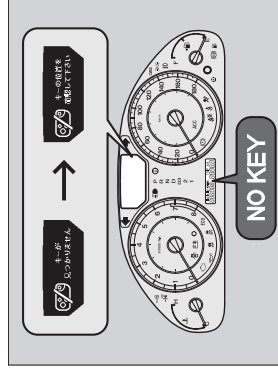
次ページに続く

» Hondaスマートキースロット

スロットには、Hondaスマートキー以外のものを挿入しないでください。

Hondaスマートキーにステッカー類を貼らないでください。

ステッカーを貼ったままHondaスマートキーをスロットに挿入すると、作動不良の原因となります。

エンジンスイッチが 0 または I のときに、Hondaスマートキーをスロットに差し込んだまま運転席ドアを開けると、Hondaスマートキー抜き忘れ警告ブザーが鳴ります。

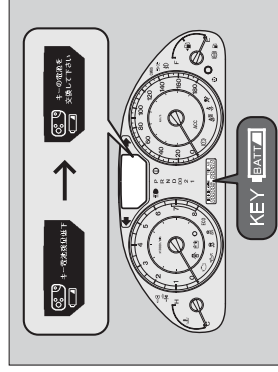
Honda スマートキー持ち去り警告

警告ブザーには、車内警告ブザー(ピーッピーッピーッピーッピーッピーッ)と車外警告ブザー(ピピピピピピ)の2種類があります。
警告状態が続くときは Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■エンジンスイッチがIIのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■エンジンスイッチがIまたは0（プッシュオン)のとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

Honda スマートキー電池消耗警告

電池残量が少なくなったときに、警告音を鳴らし、メーター内に警告を表示します。
早めに電池交換を行ってください。

➔Hondaスマートキーの取り扱いと電池交換 P.190

≫Hondaスマートキー持ち去り警告

エンジン始動の作動範囲内にHondaスマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。警告状態が続くときはHondaスマートキーの携帯位置を変更してください。

Hondaスマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Hondaスマートキーを持ち出した状態で、エンジンスイッチを0にすると、エンジンスイッチの操作ができなくなります。
エンジンスイッチを操作するときは、Hondaスマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Hondaスマートキー持ち去り警告は作動しません。

Hondaスマートキーがエンジン始動の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態によりHondaスマートキー持ち去り警告が行われることがあります。
故障ではありませんので、Hondaスマートキーを持っていることを確認してください。

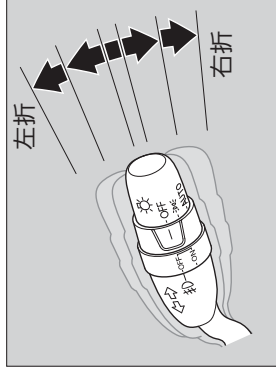
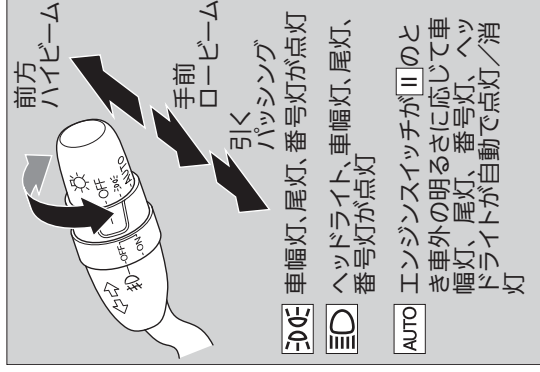
方向指示器（ウィンカースイッチ）

エンジンスイッチが II のときに使用できます。

ライトスイッチ

車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

AUTO エンジンスイッチが II のとき車外の明るさに応じて車幅灯、尾灯、番号灯、ヘッドライトが自動で点灯／消灯

スイッチを回すとエンジンスイッチの位置に関係なく、点灯・消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図（パッシング）

レバーを手前に引き、離します。

≫ライトスイッチ

ライトを点灯したままキーを抜く/プッシュオフにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

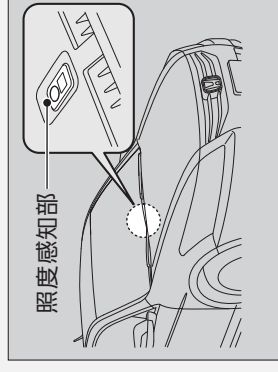
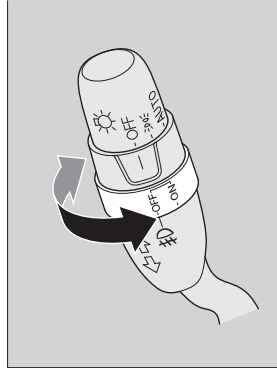
➔表示灯 P.56

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは、Honda販売店で点検を受けてください。

ディスチャージヘッドライトのバルブは点灯・消灯を繰り返すとバルブの寿命が短くなる特性があります。

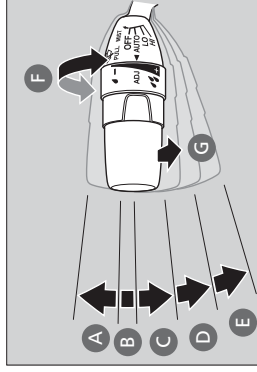
エンジンが止まっているときに、ライト類を点灯したままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。

照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。

フォグライトスイッチ

ライトスイッチがOFF以外のとき（AUTOのときは、車幅灯が点灯しているとき）に、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

» フォグライトスイッチ

フォグライトが点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

➔**表示灯** P.56

ワイパー / ウォッシャー

Ⓐ MIST :（レバーを操作している間作動）
Ⓑ OFF : 停止
Ⓒ AUTO : 自動作動
Ⓓ LO : 低速（普通の雨量のとき）
Ⓔ HI : 高速（雨量が多いとき）
Ⓕ 雨滴感度センサーの感度の調節
Ⓖ ウォッシャー

エンジンスイッチが II のときに使用できます。

■ MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ（OFF、LO、HI）

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■自動作動（AUTO）

➔オートワイパー P.101

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを引いている間はワイパーが作動し、レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

» ワイパー/ウォッシャー

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。また、発進時にワイパーが1回作動します。
間欠時間を短いほうにいっぱいに回している状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

■オートワイパー

レバーを AUTO の位置にするとワイパーが 1 回作動し、その後は自動作動に切り換わります。フロントガラス上部にある雨滴検知センサーが検出した雨滴量に応じて、停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。

雨滴検知センサー

■センサー感度の調節

リングを回して、雨滴検知センサーの感度を調節します。

鈍感：雨滴に対して、より鈍感に反応してワイパーを作動します。

敏感：雨滴に対して、より敏感に反応してワイパーを作動します。

≫ワイパー/ウォッシャー

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチをOFF、エンジンスイッチを I または 0 にしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。

ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。

数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

⚠注意

フロントガラスのお手入れをするときは、レバーを必ず OFF にしてください。

エンジンスイッチが II でレバーが AUTO のとき、雨滴センサー上部のガラス面に手で触れたり、布で拭き取ったりすると、ワイパーが作動することがあり、手をけがしたりワイパーが損傷するおそれがあります。

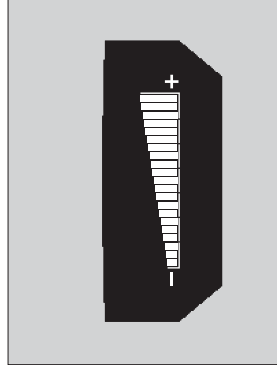
イルミネーションコントロール

エンジンスイッチが II で、ライトスイッチが OFF 以外のとき（ライトスイッチを AUTO にしているときは、車幅灯やヘッドライトが点灯しているとき）、セレクト / リセットノブでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：スイッチを右に回す
暗くする：スイッチを左に回す

明るさが最大 / 最小になると電子音が鳴ります。また、明るさの調節後、数秒経過するとマルチインフォメーションディスプレイが元の表示に戻ります。

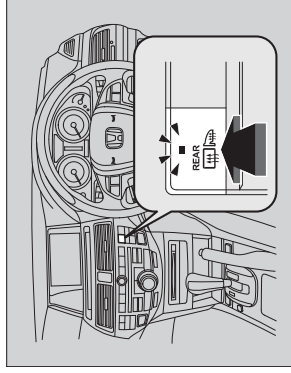
■明るさ調節表示

セレクト / リセットノブを回すとディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。
[表示アイコン]が右に増えていくほど、メーター照明が明るく表示されます。

» イルミネーションコントロール

車幅灯が点灯しているときと消灯しているときでは、インストルメントパネル照明の明るさは異なります。

ライトスイッチを[車幅灯アイコン]または[ヘッドライトアイコン]にすると、まぶしさを軽減するためにインストルメントパネル照明が暗くなります。

- 明るさ調節中にセレクト/リセットノブまたはインフォメーション（ⓘ）スイッチを押すと、ディスプレイは元の表示になります。
- 車幅灯点灯時に[表示アイコン]が全て表示されるまで右に回すと、「ピッ」という音がして車幅灯点灯時の減光が解除されます。

リヤデフロスター / ヒーテッドドアミラースイッチ

エンジンスイッチがⅡのときに、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとりたいときに使用します。

スイッチを押すとリヤデフロスターとヒーテッドドアミラーがONになります。

外気温に応じて約10～30分経過すると、リヤデフロスターとヒーテッドドアミラーは自動的に停止します。ただし、外気温が0℃以下のときは自動的に停止しません。

» リヤデフロスター/ヒーテッドドアミラースイッチ

リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷つけないよう注意してください。

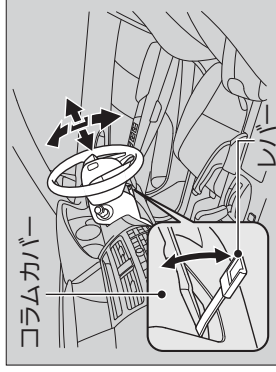
必ず、デフロスターの電熱線とアンテナ線に沿って左右方向に拭いてください。

エンジンの回転が低いときに長時間使わないでください。

この装置は消費電力が大きいため、エンジンの回転が低い状態で長時間使用するとバッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

エンジンスイッチをⅡにしたとき、外気温が5℃以下の場合、ヒーテッドドアミラーのみ約10分間作動することがあります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。

1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
   ▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
   ▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。

ハンドルの調節

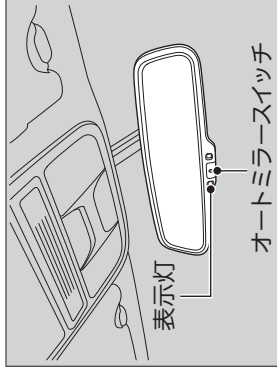
⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

自動式防眩ミラー

夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。

エンジンスイッチが[II]で、オートミラースイッチがONのときに作動します。スイッチを押すごとにON、OFFが切り換わります。
ONにすると表示灯が点灯します。

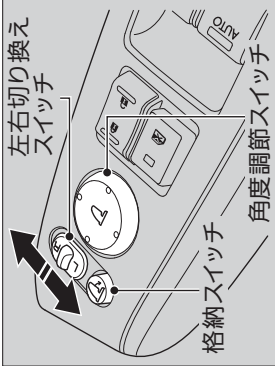
» ミラー類の調節

ミラー類の調節は走行前に行ってください。

» 自動式防眩ミラー

セレクトレバーを[R]に入れているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

ドアミラー

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

エンジンスイッチが[II]のときに、ドアミラーの開閉操作を行うことができます。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとにONとOFFが切り換わります。

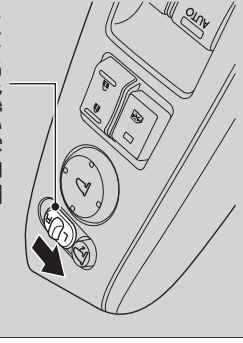
» ドアミラー

鏡面は手で調節することもできます。

直接鏡面を動かして、調節します。

エンジンスイッチが[0]または[I]のときは、手動で格納、開放することもできます。

リバース連動ドアミラー

後退時、車両の左側面の視界をよりよく確保するため、セレクトレバーの[R]と連動して助手席側ドアミラーが自動的に下向きになります。

エンジンスイッチが[II]で、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左側にあることを確認します。

セレクトレバーを[R]の位置にすると、助手席側ドアミラーが下向きになります。

セレクトレバーを[R]以外の位置にすると元の位置に戻ります。

アクアクリーンミラー

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

■親水効果の回復

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗浄後、十分な水で洗い流してください。
3. 5～9 時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

» リバース連動ドアミラー

次の場合にも、ミラーが元の位置に戻ります。
- 左右切り換えスイッチを左側以外の位置にしたとき
- エンジンスイッチを[II]以外にしたとき

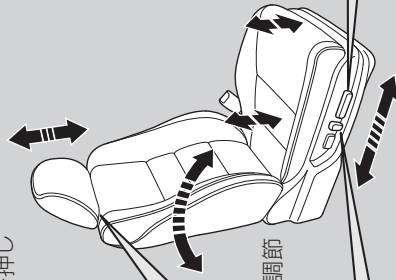
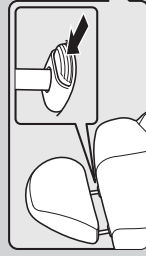
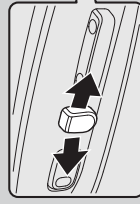
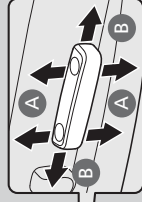
リバース連動ドアミラーは、ドアミラーの左右切り換えスイッチが左側以外の位置にあるときは作動しません。作動させるには左右切り換えスイッチを左側にしてください。

» アクアクリーンミラー

アドバイス
ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。
- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤（コンパウンドなど）でミラー表面をこすらない

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

フロントパワーシート / ヘッドレストの動かしかた

»フロントパワーシート/ヘッドレストの動かしかた

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

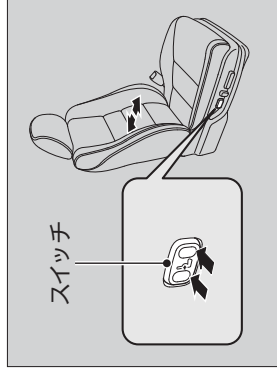
同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

⚠注意

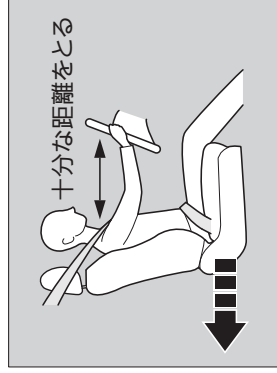
走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

フロントシートの下にものを置かない。
ものがはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転席ランバーサポートの調節

シート腰部の固さを調節できます。

硬くする：スイッチを前側に押す。
やわらかくする：スイッチを後側に押す。

フロントシートの調節

■シート位置の調節
運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードの SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

次ページに続く

»フロントシートの調節

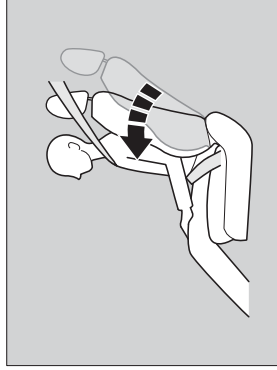
⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

■**背もたれ角度の調節**

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

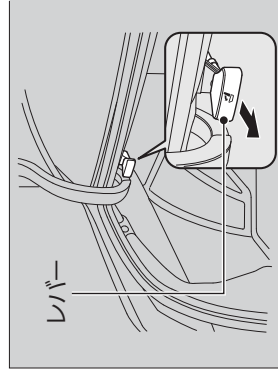
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

≫フロントシートの調節

⚠注意

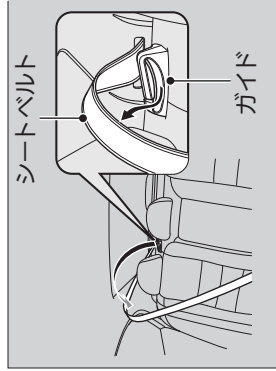
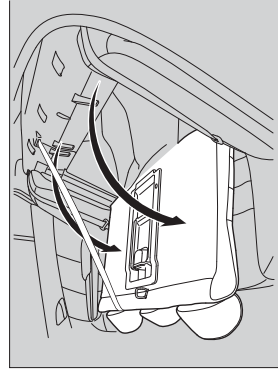
背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

リヤシート

背もたれの倒しかた

背もたれは倒すことができます。
ヘッドレストがフロントシートに当たるときは、ヘッドレストを外してください。

1. トランク内のレバーを引き、ロックを解除する。

2. 中央席のシートベルトをガイドから外す。

3. 背もたれを倒す。

≫背もたれの倒しかた

背もたれを倒し、トランクを開けたまま走行しないでください。

⚠注意

操作するときは、手などをはさまないように十分注意する。

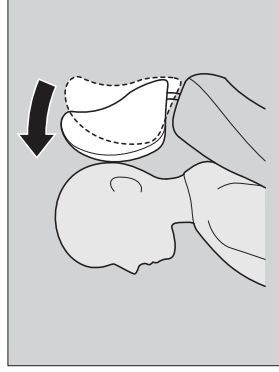
背もたれを起こすときは、後ろに押しつけて固定します。
背もたれをもとの状態に戻すときは、背もたれを起こし、後ろにしっかり押しつけてください。
また、リヤシートのシートベルトが背もたれの前にあり、中央部のシートベルトがガイドにはまっていることを確認してください。

アドバイス
背もたれを倒したときは、倒した背もたれが、フロントシートに触れていないことを確認してください。
助手席に背もたれが触れていると、センサーが誤作動することがあります。
サイドエアバッグ自動停止表示灯がついていないか、確認してください。

ヘッドレスト

■フロントシート、リヤシート（外側）ヘッドレストの調節

後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

■アクティブヘッドレスト（フロントシート）

追突されたときに背もたれが乗員を受け止める力を利用して、ヘッドレストが瞬時に前方に移動し、頭部の過度な後方への傾きを防ぐことにより首への負担を軽減します。

»フロントシート、リヤシート（外側）ヘッドレストの調節

⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

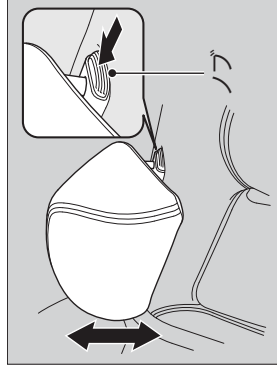
ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ヘッドレストのステーにテーブル、テレビなどの用品を取り付けない。
万一追突されたときにアクティブヘッドレストの機能が損なわれるおそれがあります。

アクティブヘッドレストは、追突されたときのみ作動します。
作動後は元の位置に戻ります。

各部の操作

リヤシートヘッドレスト（中央）の位置変更

乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき：ノブを押しながら下げます。

ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

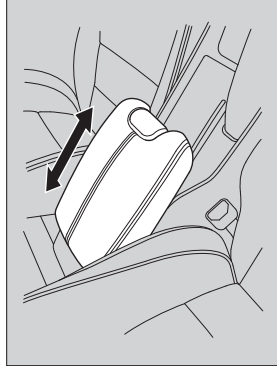
≫リヤシートヘッドレスト（中央）の位置変更

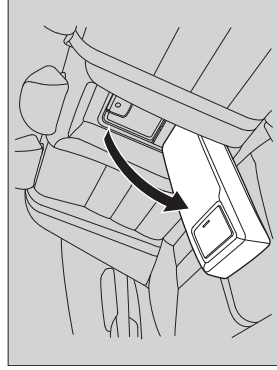
⚠警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

アームレスト

■**フロントシート用アームレスト**

センターコンソールボックス上部を前に動かして使うことができます

■**リヤシート用アームレスト**

前に倒して使用します。

» アームレスト

⚠注意

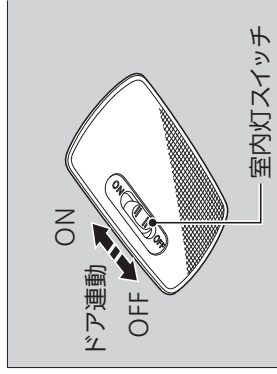
シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できないことがあります。

アドバイス

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

室内灯スイッチ

■ ON

ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動

以下のときに室内灯が点灯。

- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- エンジンスイッチを 0 (プッシュオフ)にしたとき
- Honda スマートキーをスロットから抜いたとき
- エンジンスイッチから内蔵キーを抜いたとき

■ OFF

ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

次ページに続く

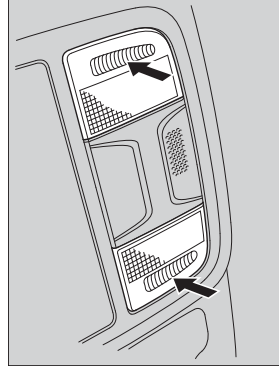
»室内灯

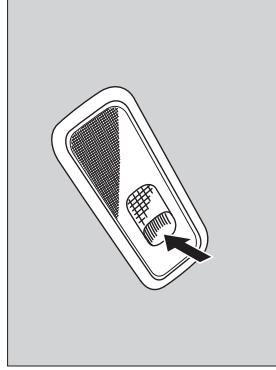
ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約30秒後に消灯します。

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。

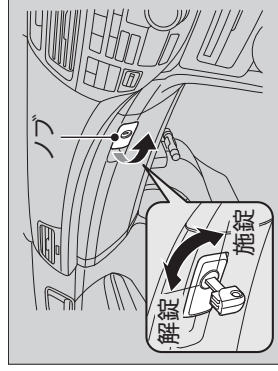
- 運転席のドアを施錠したとき
- エンジンスイッチが 0 (プッシュオフ) 以外、スマートキーがスロットに差し込まれた状態で運転席ドアを閉めたとき
- エンジンスイッチに内蔵キーが差し込まれた状態で運転席ドアを閉めたとき

エンジンスイッチが 0 (プッシュオフ) のとき、Hondaスマートキーがスロットから抜かれているとき、または内蔵キーが差し込まれていない状態のときにいずれかのドアを開けたままにすると、約15分後に消灯します。

マップランプ

レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

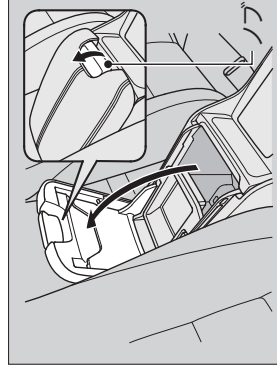
リアリーディングライト

レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

室内装備品

グローブボックス

ノブを引くと開きます。
内蔵キーを差し込んで施錠 / 解錠することができます。

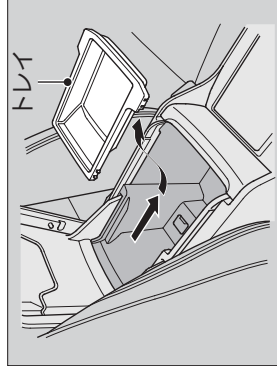
コンソールボックス

ノブを引くと開きます。

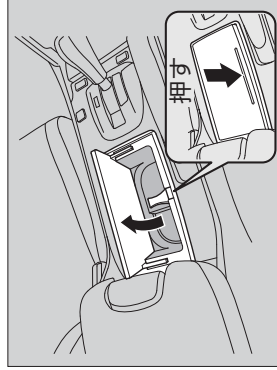
次ページに続く

» グローブボックス

⚠ 警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

ライトスイッチが OFF 以外のとき（AUTO のときは車幅灯やヘッドライトが点灯しているときのみ）照明灯が点灯します。

トレイを前後にスライドさせたり取り外したりすることができます。

▶ 前方いっぱいまでスライドさせてから持ち上げます。

カップホルダー

■フロントシート用カップホルダー

矢印部を押すとフタが開きます。

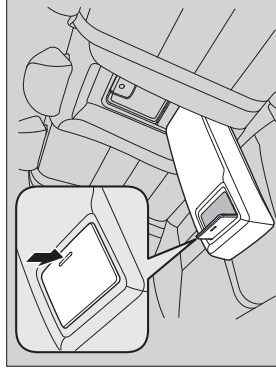
» カップホルダー

⚠ 注意

飲みものなどを電装品にこぼさないように注意する。

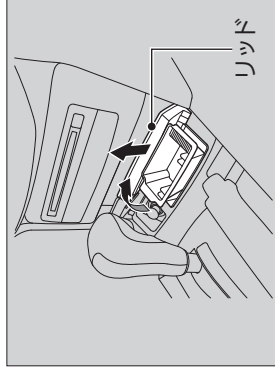
スイッチなどの電装品に飲みものがかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

■**リヤシート用カップホルダー**

アームレストを前に倒して使います。
矢印部を押すとフタが開きます。

灰皿

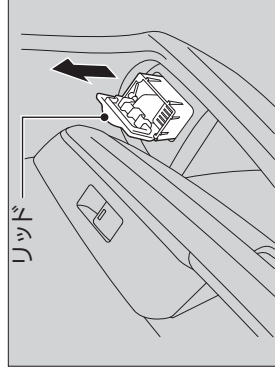
■**前席用**

リッドを開きます。

▶ 清掃するときはシガレットライターのリッドを開け、灰皿本体を引き抜きます。

■**後席用**

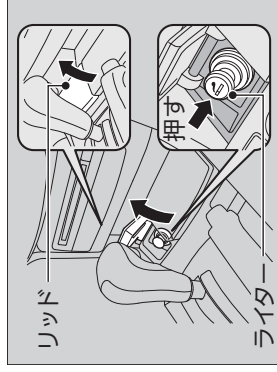
リッドを開きます。

▶ 清掃するときは灰皿本体を引き抜きます。

次ページに続く

≫灰皿

⚠注意

タバコ、マッチなどは確実に火を消して、灰皿は必ず閉める。
吸がらをためすぎたり、紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
タバコの火が燃え広がるおそれがあります。

シガレットライター

エンジンスイッチが[I]または[II]のときに使えます。

リッドを開きます。
ライターを押し込んで手を離し、元の位置に戻るまで待ちます。
▶ ヒーター部が赤熱すると自動的に戻ります。

USB 端子

コンソールボックスの中にあります。

カバーを開けて使います。

» シガレットライター

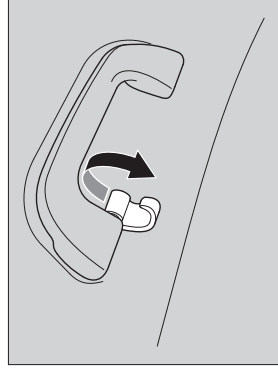
⚠注意

シガレットライターの金属部分に触れない。
やけどをするおそれがあります。

ライターを押し込んでから30秒以上たっても戻らないときは故障のおそれがあります。
ライターを手で引き出し、Honda販売店で点検を受けてください。

» USB端子

詳しい操作については、別冊の「Hondaインターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

コートフック

リヤシート右側のグラブレールに付いています。
回転させて使います。

サングラスホルダー

矢印部を押すと開きます。
もう一度押すと格納されます。

サングラスなどを入れることができます。

次ページに続く

≫コートフック

⚠注意

グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

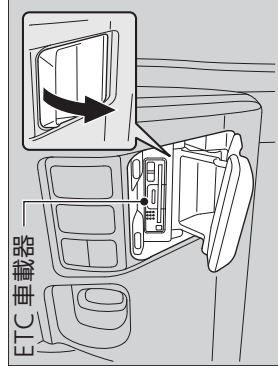
≫サングラスホルダー

炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。
レンズやフレームが、変形やひび割れをおこすことがあります。

開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。

ETC 車載器

ドライバーズポケットの上部にあります。

アームレストスルー

ノブを下げながら、フタを開けると、トランクルーム内の小物の出し入れができます。フタは元に戻して押しつければ、自動的に固定されます。内蔵キーを差し込んで施錠 / 解錠することができます。

ETC車載器

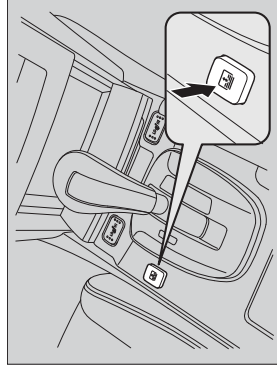
詳細については、別冊の「Hondaインターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

アームレストスルー

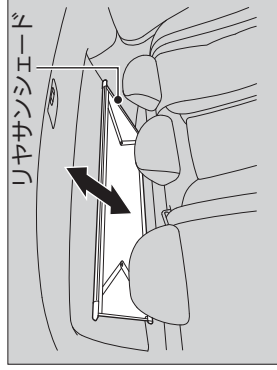
⚠注意

走行中は荷物の出し入れをしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

リヤサンシェード

エンジンスイッチが II で R 以外のとき、スイッチを押すごとに上昇 / 下降します。

セレクトレバーを R にすると自動的にリヤサンシェードが下降します。

次ページに続く

» リヤサンシェード

⚠ 警告

リヤサンシェードに手をかけない。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。また、故障の原因となり、後方の視界を確保できなくなるおそれがあります。

アドバイス

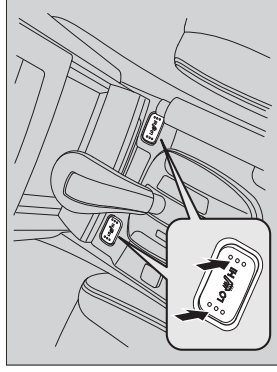
リヤシェルフの上に荷物を置いたり、リヤサンシェードに無理な力を加えないでください。
故障の原因になります。

リヤサンシェードの操作中に、途中で止まった場合は、障害物の有無を確認してください。

頻繁に上昇/下降を繰り返すと、一時的に作動が停止することがあります。
故障ではありませんので、数秒後にスイッチを押して操作を再開してください。

お手入れの際は、フレームやスクリーンを強く引っ張らないように汚れを落としてください。

リヤサンシェードが動かなくなった場合はHonda 販売店で点検を受けてください。

シートヒーター*

エンジンスイッチが II のとき使用できます。運転席、助手席のシートを暖めることができます。

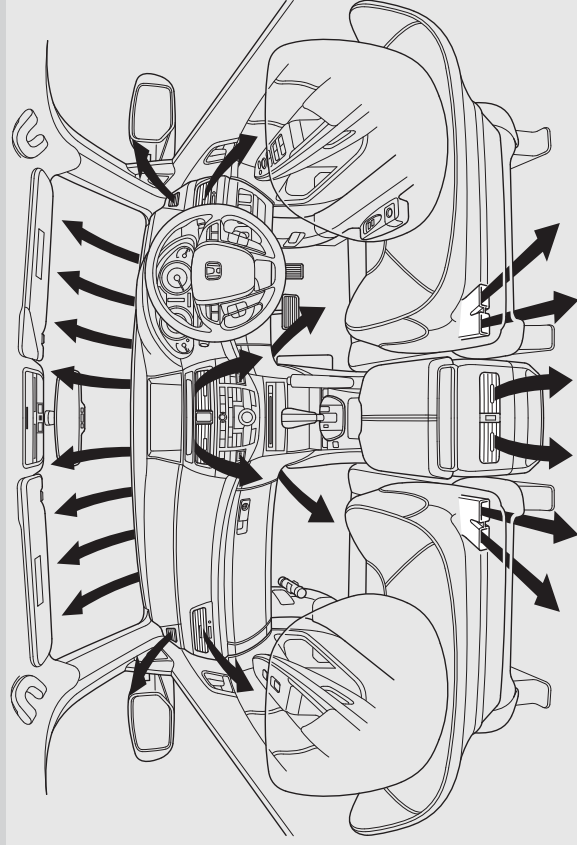
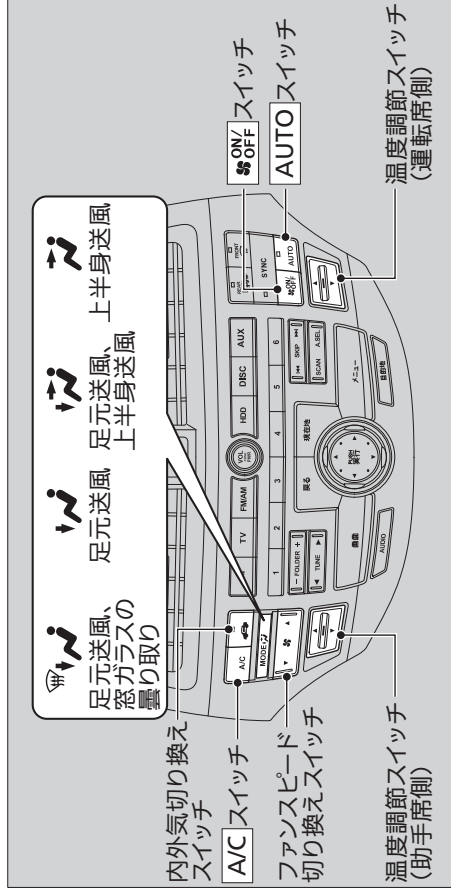
スイッチを HI 側か LO 側に押します。
シートを早く暖めたいときは HI 側を押します。暖まったら LO 側にしてください。
作動中、押している側の表示灯が点灯します。
スイッチを切るときは、反対側を軽く押し、表示灯を消します。

≫シートヒーター

⚠注意

低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。
乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
皮膚の弱いかた
疲労の激しいかた
また、毛布など保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

アドバイス
この装置は消費電力が大きいので、エンジンが停止しているときは長時間使わないでください。
バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

エアコンの吹き出し口

オートエアコンの使いかた

エンジンをかけた状態で使用します。

1. AUTO を押す。
2. 運転席側の温度調節スイッチを上下に動かして室内の温度を設定する。
3. 停止するときは、ON/OFF を押す。

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて を押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気（表示灯点灯）：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気（表示灯消灯）：換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中に A/C を押すと、除湿暖房となります。

» エアコン

音声操作の詳細は、別冊の「Hondaインターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

» オートエアコンの使いかた

オート（AUTO）で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。

このとき AUTO の表示灯は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

希望温度に設定したら、温度調節スイッチをむやみに操作しないでください。

設定温度への到達時間が長くなることがあります。

長時間、冷風を体に当てないでください。

冷やしすぎは、健康上良くありません。

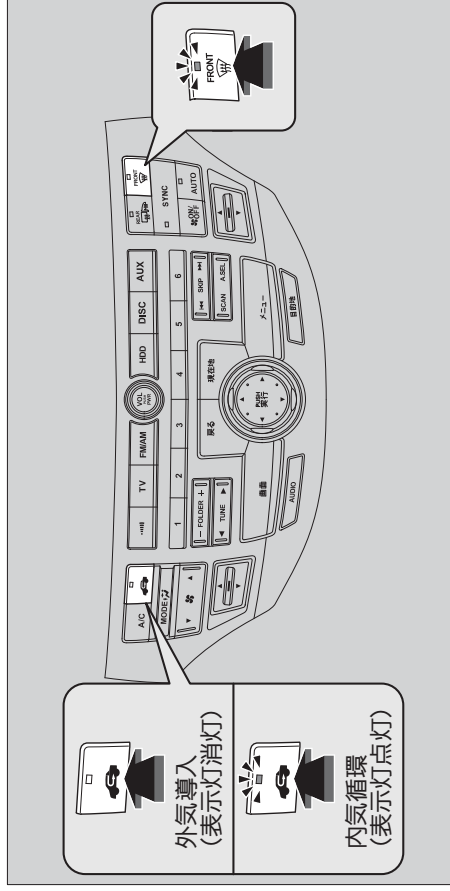
炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

■前面・側面ガラスの曇り止め（デフロスター）の使いかた

FRONT を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

■急速に霜を取りたいとき

1. FRONT を押す。
2. （内気循環ボタン）を押す。

≫前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

≫急速に霜を取りたいとき

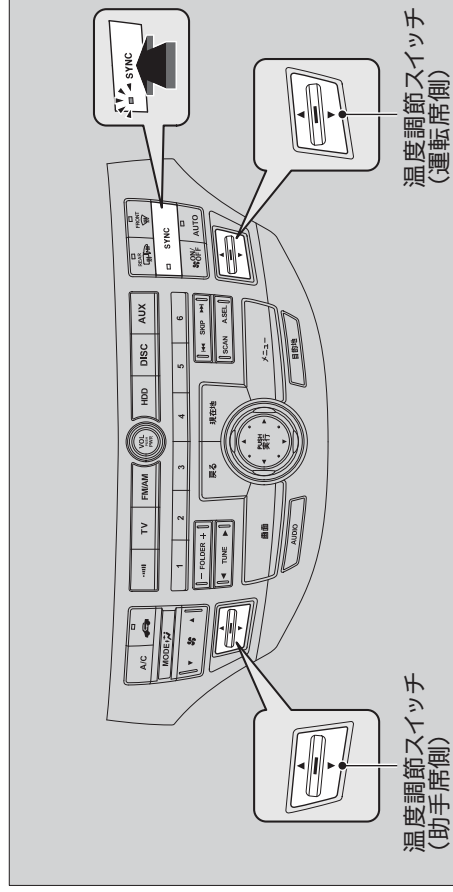
霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

連動作動（シンクロ）モード

エアコンの設定操作を独立モードから連動作動モードに切りかえます。
運転席側と助手席側の設定温度を連動させて設定することができます。

1. SYNC を押す。
▶ 連動作動モードに切り換わります。

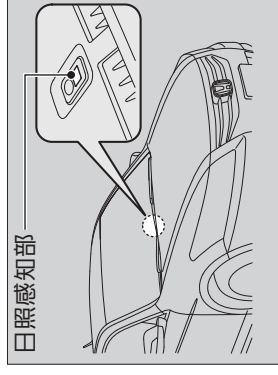
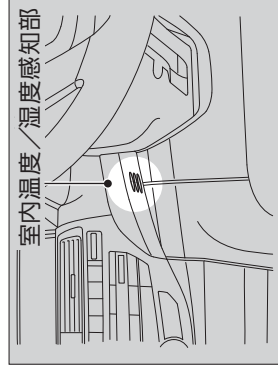
2. 運転席側の温度調節スイッチを上下に動かして室内の温度を設定する。

独立モードに戻すときは、SYNC または助手席側の温度調節スイッチを押します。

連動作動（シンクロ）モード

FRONT を押すと、連動作動モードに切り換わります。

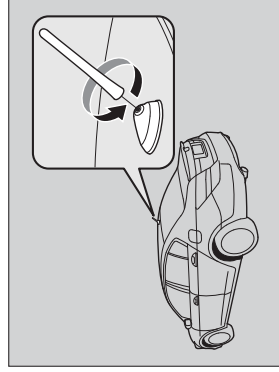
独立モードの場合は、エアコンの設定温度を運転席側と助手席側で個別に設定できます。

連動作動モードにすると、運転席側の設定温度に切り換わります。

オートエアコンのセンサー

オートエアコンには、センサー（日射感知部、車内温度 / 湿度感知部）が付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

オーディオ

オーディオ・テレビ・DVD の取り扱いについては、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

アンテナ

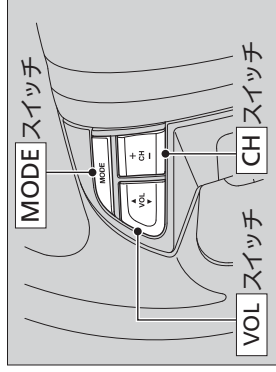
マイクロアンテナ

マイクロアンテナは取り外しができます。

》アンテナ

アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを取り外してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき
- 自動洗車機を使用するとき

オーディオリモートコントロールスイッチ

運転中にオーディオの操作をするためのスイッチです。

MODE スイッチ
スイッチを押すたびに以下のように切り換わります。
FM1 → FM2 → AM → CD/DVD → HDD → USB → TV1 → TV2

» オーディオリモートコントロールスイッチ

ディスクが挿入されている場合、CD/DVDに切り換わります。

USBメモリーが接続されている場合、USBモードに切り換わります。

VOLスイッチ
▲**を押す**：音量が大きくなります。
▼**を押す**：音量が小さくなります。

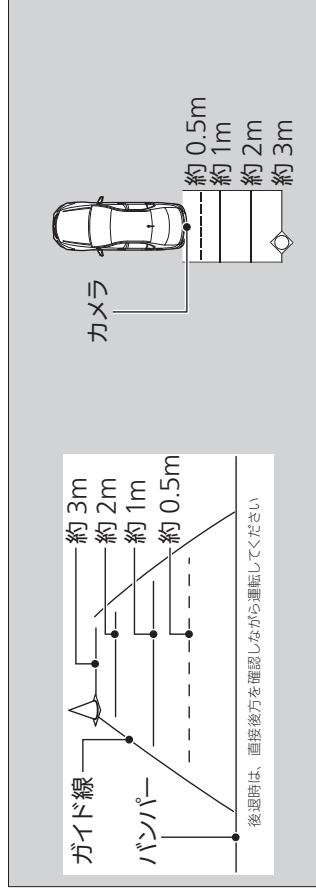
CHスイッチ
・ラジオを聞いているとき、テレビを見ているとき
＋**を押す**：プリセットされている次の放送局を選局します。
－**を押す**：プリセットされている前の放送局を選局します。
・CD、USB デバイス、HDD（サウンドコンテナ）を聞いているとき
＋**を押す**：スキップ（次の曲の頭出し）します。
－**を押す**：リプレイ（再生中や前の曲の頭出し）します。
・DVD を見ているとき
＋**を押す**：スキップ（次のチャプターの頭出し）します。
－**を押す**：リプレイ（再生中や前のチャプターの頭出し）します。

≫オーディオリモートコントロールスイッチ
HDDサウンドコンテナ、DVDの詳細については、「Hondaインターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

リヤカメラシステムについて

リヤカメラシステムは、ナビゲーションシステムの液晶画面に、車両後方の映像を表示させるシステムです。

セレクトレバーを R に入れると自動的に画面が切り換わります。

画面に表示される映像の範囲

リヤカメラシステムのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に表示される映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
画面に表示される映像の範囲には限度があり、バンパーの両コーナー付近やバンパー下にあるものは表示されません。

» リヤカメラシステムについて

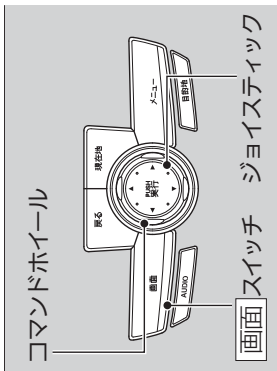
⚠注意

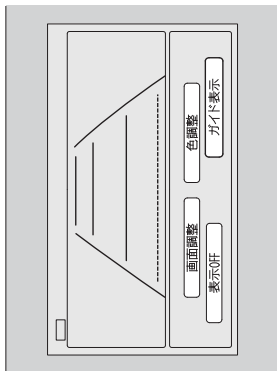
後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転する。

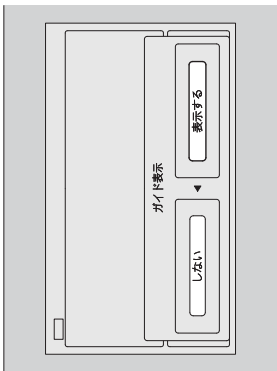
画面を見るときは、必要最小限にする。
画面に表示される映像の範囲には限度があるため、画面だけを見て後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- リヤカメラシステムの映像は、ナビゲーション画面よりも優先して表示されます。
- エンジン始動直後は、セレクトレバーを R の位置に入れても、ナビゲーションシステムが起動するまでリヤカメラシステムのガイド線は表示されません。

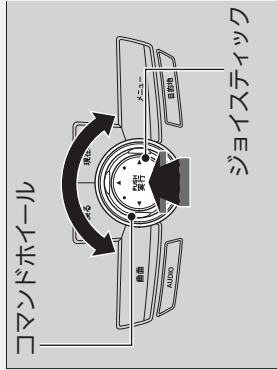
リヤカメラシステムのカスタマイズ

■ ガイド線の表示 / 非表示

1. エンジンスイッチを II にして、セレクトレバーを R にする。
2. 画面 を押す。

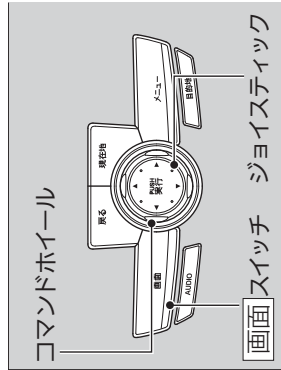
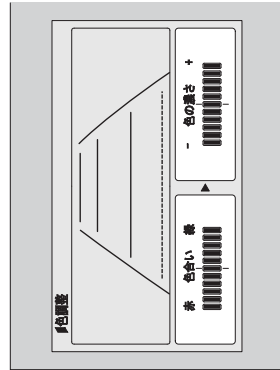
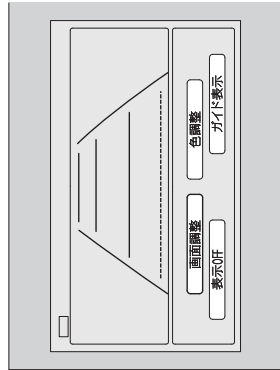
3. コマンドホイールを回して ガイド表示 を選択し、ジョイスティックを押す。

4. ガイド線を表示しないときは「しない」、表示するときは「表示する」を選択し、ジョイスティックを押す。

次ページに続く

≫ガイド線の表示/非表示

安全のため、エンジンを停止した状態で操作してください。

パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。

コマンドホイール
ジョイスティック

項目を選択するには、コマンドホイールを回して項目を選び、ジョイスティックを押して確定させます。

■ 画面調整のしかた

1. エンジンスイッチを II にして、セレクトレバーを R にする。
2. 画面 を押す。
3. コマンドホイールを回して 画面調整 または 色調整 を選び、ジョイスティックを押す。

4. ジョイスティックで調整したい項目を選ぶ。
5. コマンドホイールを回して調整する。

明るさ	：－（暗い）←→＋（明るい）
コントラスト	：－（弱い）←→＋（強い）
黒の濃さ	：黒←→灰
色合い	：赤←→緑
色の濃さ	：－（薄い）←→＋（濃い）

≫画面調整のしかた

安全のため、エンジンを停止した状態で操作してください。

パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。

表示 OFF **を選ぶことで、画面の表示を消すことができます。**

画面調整 **が明るさコントラスト黒の濃さを調整することができます。**
色調整 **は色合い、色の濃さを調整することができます。**

オーディオ

カメラ画像について

状態	考えられる原因	対処のしかた
カメラの画像が見えにくい	• 夜間や雨の日、および暗い場所 • カメラが高温になっている場合 • 太陽の光など強い光がカメラに直接差し込んでいる場合※1	気象条件などでカメラの画像が見にくいときは、目視やミラーで直接確認してください。
	• カメラのレンズに水滴や虫などが付いている場合 • カメラのレンズが汚れている場合	

※1 強い光がカメラに差し込んでいるときに、光源の周囲が白くぼやけるハレーション現象や、上下に光の筋ができるスミア現象が起きることがあります。

運転

この章では、運転操作、給油、アクセサリーなどについて記載しています。

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか?
  - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  - ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
    氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか?
  - ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か?
  - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
    タイヤの点検と整備 P.186
- 車の周囲に子供はいないか?
  車の周りに障害物はないか?
  - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか?
- フロアマットが固定されているか?
- フロアマットを重ねていないか?
  - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。

次ページに続く

≫車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

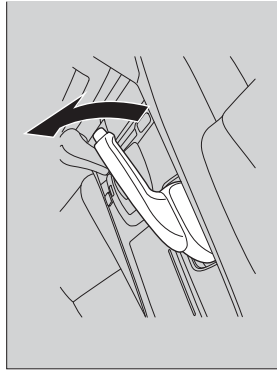
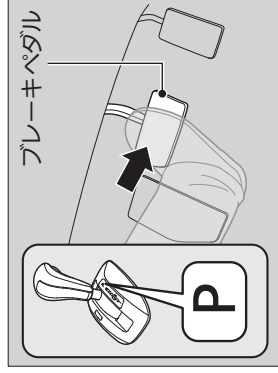
ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

≫車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

- フロントシートの足元にものを置いていないか?
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか?
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか?
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか?
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか?
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔**シートの調節** P.108
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか?
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔**ミラー類の調節** P.105
  ➔**ハンドルの調節** P.104
- すべての乗員がシートベルトを締めているか?
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔**シートベルトの着用** P.22
- ドア、トランクが確実に閉まっているか?
  ▶ 走行前にすべてのドア、トランクが確実に閉まっているか確認します。
  ➔**車内での施錠/解錠** P.83
- エンジンをかけたとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか?
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔**警告灯** P.51

エンジンの始動

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

2. セレクトレバーが[P]であることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。

▶ [N]でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される[P]で行ってください。

次ページに続く

≫エンジンの始動

⚠警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。

バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーをOFFにしてから行います。

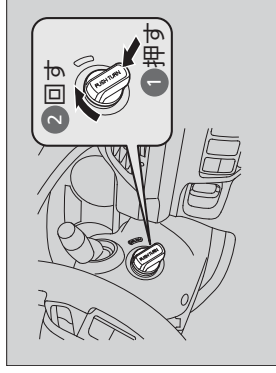
寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべてOFFにしてから行ってください。

エンジンスイッチを15秒以上[III]にしないでください。

エンジンがかかったらすぐに、手を離してください。自動的に[II]に戻ります。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。そのため、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができません。

➔**イモビライザーシステム** P.89

3. アクセルペダルを踏まずに、エンジンスイッチを III に回す。
▶ エンジンがかかったら、エンジンスイッチを離します。

発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを D または D3 にする。
▶ 後退する場合は R にします。
2. パーキングブレーキを解除する。
▶ ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。
➔**パーキングブレーキ** P.152
3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

》エンジンの始動

エンジンがかからない場合は、10秒以上待ってから操作してください。
エンジンがかからない、かかってもすぐに止まる場合は、10秒以上待ってからアクセルペダルを軽く踏みながら**手順3**を繰り返してください。エンジンがかかったらアクセルペダルを離します。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda販売店で点検を受けてください。

》発進時の操作

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。
車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

走行時の注意点

雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンの破損や電装品の故障につながるおそれがあります。

風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

» 走行時の注意点

走行中はエンジンを止めないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバーを[N]にしないでください。
エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずエンジンをかけてください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

» 雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

オートマチックについて

クリープ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP N以外に入っていると動力がつながった状態になり、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

キックダウン

セレクトレバーがD D3で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

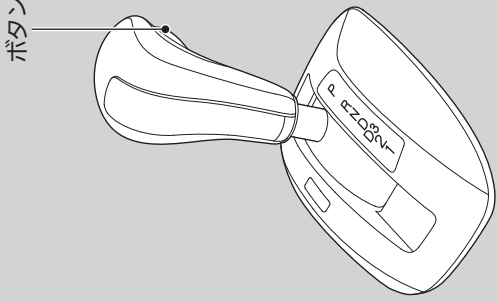
» クリープ現象

エンジン始動直後は、クリープ現象が強くなります。

エンジン始動直後やエアコン作動時は、自動的にエンジン回転が上がりクリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

急な上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。

ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

» キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。

アクセルペダルは慎重に操作してください。

滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき

P **パーキング**
駐車またはエンジンの始動

R **リバース**
車を後退

N **ニュートラル**
アイドリング状態

D **ドライブ**
通常走行（1速～5速まで自動変速）

D3 **ドライブ（D3）**
上り坂や下り坂を走行するとき
（1速～3速まで自動変速）

2 **セカンド**
エンジンブレーキが必要なとき
（2速固定）

1 **ロー**
強いエンジンブレーキが必要なとき
（1速固定）

»シフト操作

セレクトレバーがP以外のときは、エンジンスイッチが0まで回りません。内蔵キーを使用している場合は、キーを抜くことはできません。

Rのポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーがRに入っていることを知らせます。

Nのポジションのときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。 ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

次ページに続く

■セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。

エンジンスイッチをⅡにすると、Dが数秒点灯します。

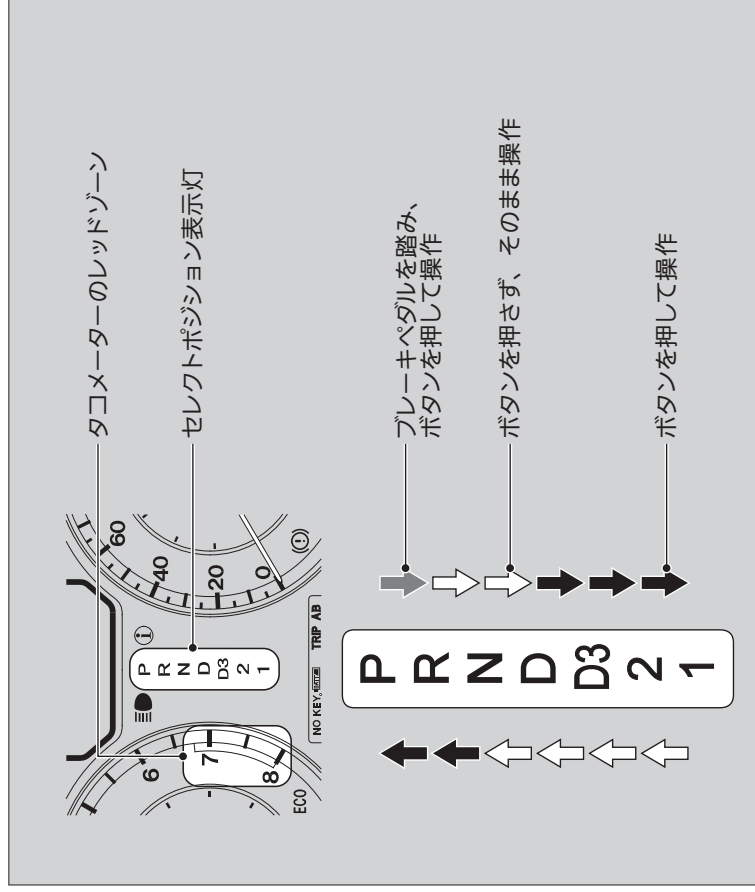
タコメーターのレッドゾーン

セレクトポジション表示灯

ブレーキペダルを踏み、ボタンを押して操作

ボタンを押さず、そのまま操作

ボタンを押して操作

P R N D D3 2 1

≫セレクトレバーの操作

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にセレクトレバーをどのポジションにしてもDの表示灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

急加速を避け、Honda販売店で点検を受けてください。

エンジンの回転をあやまってタコメーターのレッドゾーン（限界回転数）以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

限界回転数 P.62

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

先にブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

クルーズコントロール✣

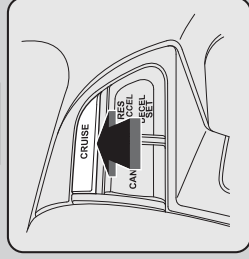
高速道路のような加速・減速操作の少ない自動車道などで、定速運転をするときアクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つための装置です。
クルーズコントロールは手元のスイッチ操作で、車速の上げ/下げなどが行えます。

こんなときに

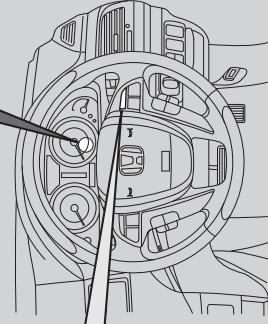
■使用できるシフトポジション
D またはD3のとき

■使用できる車速
約30～100km/hの範囲の希望値

操作

■ハンドルの CRUISE スイッチを押す

CRUISE MAIN 点灯

メーターの CRUISE MAIN が点灯
クルーズコントロールが ON になります。

CRUISE
RES
ACCEL
DECEL
SET
CAN

》クルーズコントロール

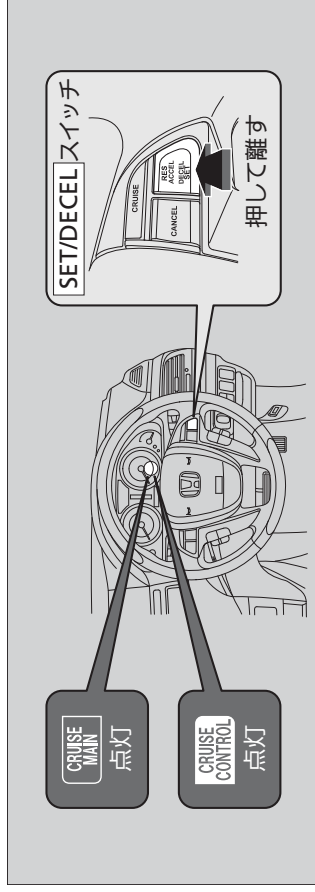
⚠警告

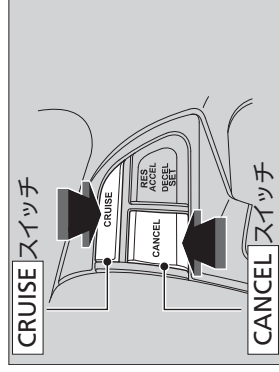
下記のような道路で、クルーズコントロールを使用しない。
道路状況によっては、思わぬ事故につながります。

- **混んでいて、車間距離が十分にとれない道路**
  道路状況に合った速度で走行できません。
- **急な下り坂のある道路**
  エンジンブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。
- **凍結や積雪などで滑りやすい道路**
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

エンジンスイッチを I または 0 にするとクルーズコントロールは自動的にOFFになります。

上り坂や下り坂では、条件により一定速度を保てない場合があります。

車速をセットするには

アクセルペダルで希望の車速を出し、SET/DECELを押します。
SET/DECELを離すと、離したときの車速にセットされ自動定速走行になります。同時に、CRUISE CONTROL 表示灯が点灯します。

解除するには

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に、CRUISE CONTROL 表示灯が消灯します。

- CANCELを押す
- CRUISEを押す
- ブレーキペダルを踏む
- セレクトレバーを2 1またはNにする

» 車速をセットするには

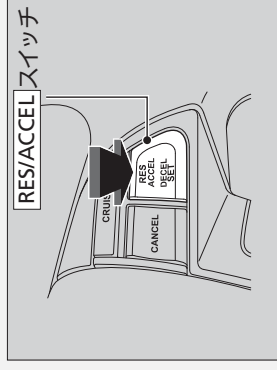
自動定速走行をしないとき

安全のためCRUISEを押してOFFにしてください。

エンジンスイッチをIまたは0にすると、CRUISEは自動的にOFFになります。

» 解除するには

解除前の設定車速を復帰させる

自動定速走行を解除したあとでも、30km/h以上の車速で走行中にRES/ACCELを押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。

ただし、下記の場合は復帰できません。

- 解除後、車速が30km/h未満になったとき
- CRUISEでOFF操作をしたとき

車速が25km/h以下になると

自動的に自動定速走行が解除になります。

運転

車速を調節するには

アクセルペダル、ブレーキペダルの操作で希望車速を上げ/下げして、手元の SET/DECEL で車速を設定することができます。

速度を下げる

ブレーキペダルで車速を下げて
ブレーキペダルから足を離す

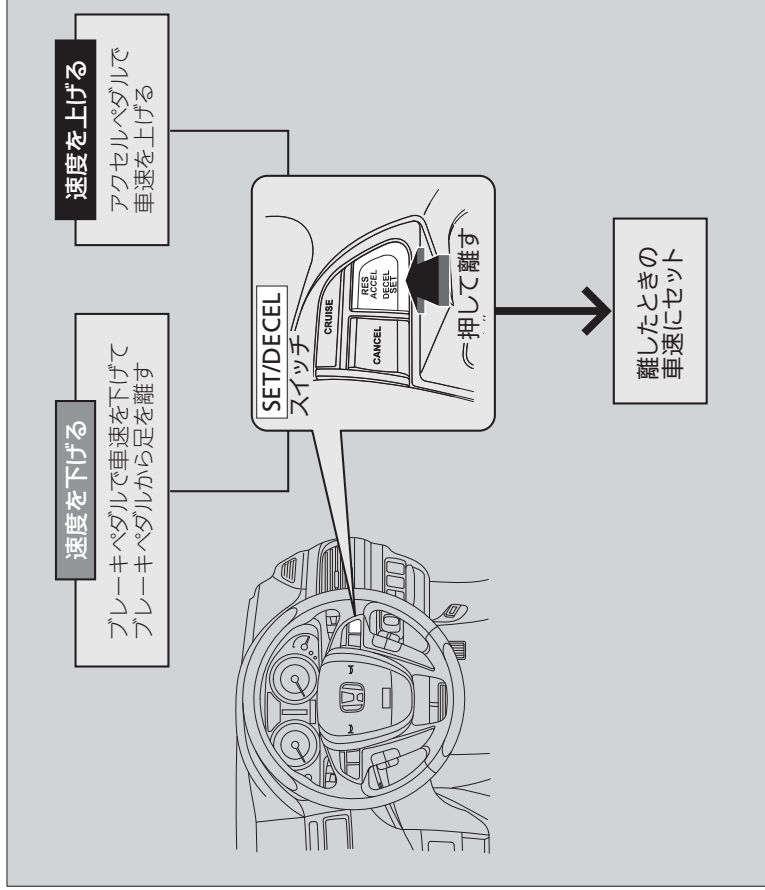
速度を上げる

アクセルペダルで
車速を上げる

SET/DECEL
スイッチ

CRUISE
CANCEL
RES
ACCEL
DECEL
SET

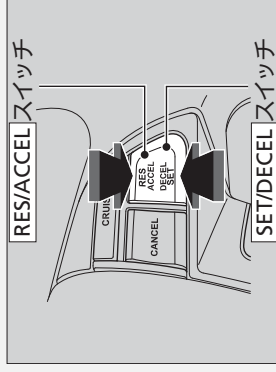
押して離す

離したときの
車速にセット

≫車速を調節するには

手元のスイッチで車速を調節

手元の RES/ACCEL と SET/DECEL の操作でも、車速を上げ/下げすることができます。

RES/ACCEL スイッチ

- 1回押すごとに
  約1.5km/hずつ車速が上がる
- 押し続けると
  車速が上がり、手を離したときの車速に固定

SET/DECEL スイッチ

- 1回押すごとに
  約1.5km/hずつ車速が下がる
- 押し続けると
  車速が下がり、手を離したときの車速に固定

VSA（ビークルスタビリティアシスト）

VSAとは、ABS機能、TCS機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

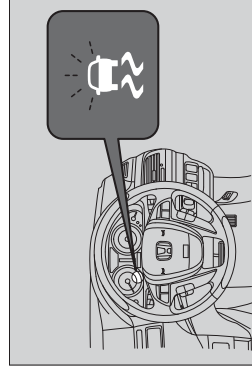
■ABS（アンチロックブレーキシステム）機能 ➔P.154

■TCS（トラクションコントロールシステム）機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。
さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。
➔電子制御ブレーキアシスト P.155

■VSAの作動と警告灯

TCS機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA警告灯が点滅します。

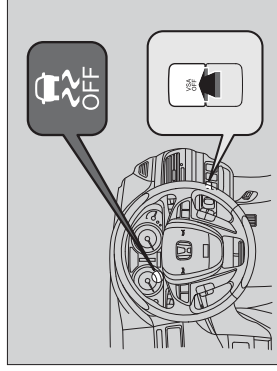
»VSA（ビークルスタビリティアシスト）

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSAが正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSAが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。
- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、[OFF]でVSAをOFFにするとエンジントルク抑制機能が停止し、駆動輪が空転しやすくなるので効果的な場合があります。
この際、TCS機能と横滑り抑制機能がOFFになるため、走行には十分に気をつけてください。

VSA警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。
通常の運転には支障はありませんが、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

VSAのONとOFF

VSAを停止（OFF）状態にするには、OFFを「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。

VSAが停止状態になりVSA警告灯が点灯します。

再度使用(ON)するには、OFFを「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

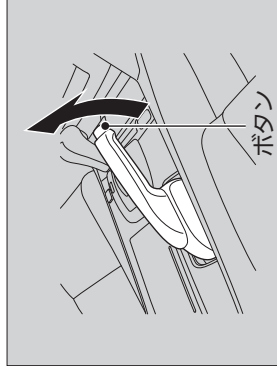
»VSA（ビークルスタビリティアシスト）

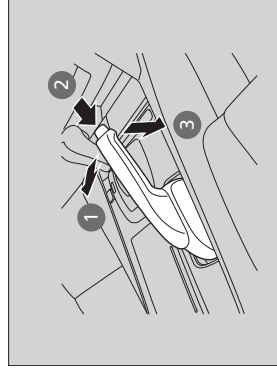
前回の走行時にOFFにした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的にONになります。

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

ブレーキシステム

パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキレバーにより操作します。

■パーキングブレーキをかける

1. ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。

■パーキングブレーキを解除する

1. レバーを軽く引き上げながら、ボタンを押す。
2. ボタンを押したまま、レバーを下まで完全に下ろす。

»パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」と表示が出ます。
完全に解除すると、ブザーは止まります。
停車したときも、ブザーは止まります。

パーキングブレーキを解除するときは、いったん停車してから操作してください。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

寒冷時は、凍結を防ぐためパーキングブレーキをかけないでください。
セレクトレバーを[P]にして、石などで輪止めをしておきます。

フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

電子制御ブレーキアシスト P.155

ブレーキのロックを防止するABS（アンチロックブレーキシステム）で、安全性の向上を図っています。

ABS（アンチロックブレーキシステム） P.154

フットブレーキ

ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。
不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。
効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパットを交換する必要があります。
Honda販売店で点検を受けてください。また、きしむような音がときどき聞こえるのは、異常ではありません。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。
アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

■ABSとは

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保するための装置です。

■ABSの作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これはABSの正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。なお、低速（車速約10km/h以下）ではABSは作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。

ABS警告灯

エンジンスイッチを［II］にすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

»ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABS警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABSが作動していない可能性があります。

ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ABSは、制動距離を短くするためのものではありません。

ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。

ABSが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、過信せず安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABSの装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABSが正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

電子制御ブレーキアシスト

電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

VSA（ビークルスタビリティアシスト） P.150

E-プリテンショナー装備車

ブレーキアシストの作動と同時に運転席と助手席のシートベルトが引き込まれます。

E-プリテンショナー P.22

CMBS（追突軽減ブレーキ）✤

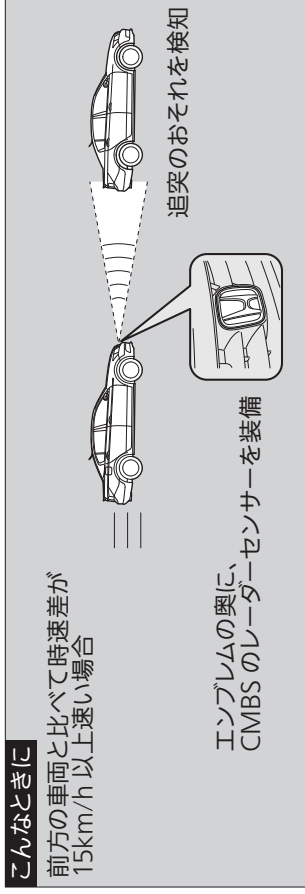
自車が前方の車両のほぼ真後ろから追突のおそれがあるとき、運転者のブレーキ操作を支援し、追突するときの衝撃を軽減する装置です。

こんなときに

前方の車両と比べて時速差が15km/h 以上速い場合

追突のおそれを検知

エンブレムの奥に、CMBS のレーダーセンサーを装備

▼

作動

追突警報
- ディスプレイに警告表示
- 警告ブザーが鳴る

⬇

追突軽減ブレーキが作動します。
- 弱いブレーキで注意をうながす
- E-プリテンショナーが作動
  同時に、運転席と助手席のシートベルトを巻き取り、拘束効果を高めます。
- 続いて、追突するときの衝撃を軽減するためのブレーキが作動
- CMBS によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します

オレンジ色の点滅

CMBS が作動しないのは、下記の場合です。
- 前方の車両との車間距離が極端に短いとき
- 交差点などで、自車の前方に車が飛び出したとき
- 歩行者や動物に対して

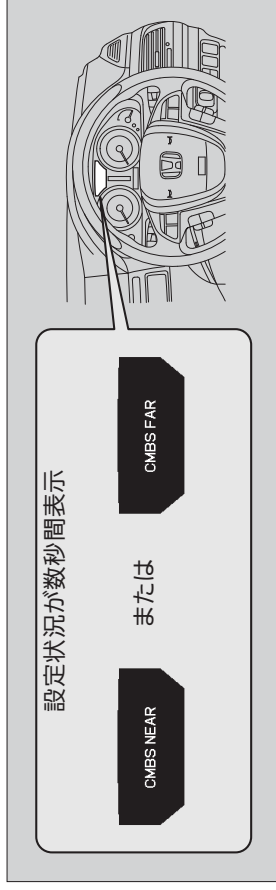
≫CMBS（追突軽減ブレーキ）

⚠警告

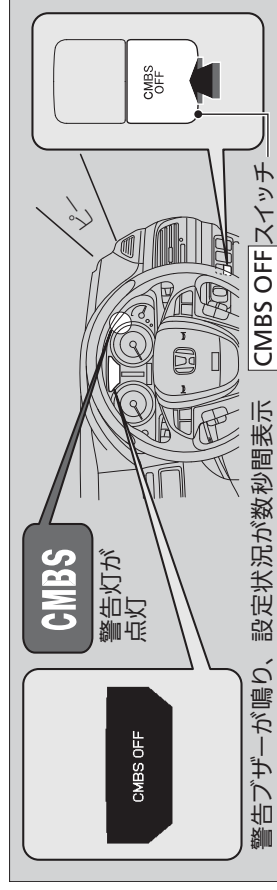
CMBS（追突軽減ブレーキ）は、追突を自動的に回避したり、車を自動的に停止することはできません。
正しく運転しないと追突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

CMBS警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。
通常の運転には支障はありませんが、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
次のような場合には、前方の車両を正しく検知できず、CMBSが作動しない場合があります。
- 自車の前方に別の車両が割り込み、急な減速を行ったとき
- 急加速を行い、前方の車両に接近しているとき
- 雨、霧、雪などの悪天候で、レーダーが検知しにくいとき
- カーブなどの道路状況により、レーダーで前方の車両を正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車など、レーダーが検知しにくいとき
- フロントグリルのエンブレムが汚れているとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやハンドルを操作した場合

■CMBS を使用（ON）する

エンジンスイッチを II にすると、設定状況が数秒間表示され CMBS は ON になります。

■CMBS を停止（OFF）する

CMBS を停止（OFF）状態にするには、ハンドル右横の CMBS OFF を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用（ON）するには CMBS OFF を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。

次ページに続く

»CMBS（追突軽減ブレーキ）

以下のような場合、CMBSが自動停止し、CMBS警告灯が点灯します。

CMBS

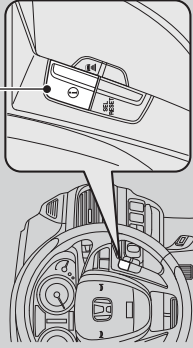
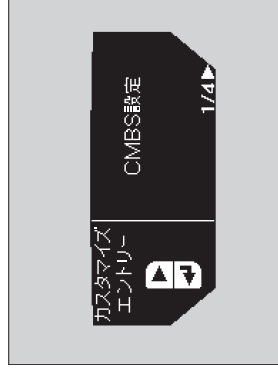
- タイヤの異常を検出したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- パーキングブレーキをかけたまま走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候となったとき
- フロントグリルのエンブレムが汚れたとき

CMBSが作動できる状態になると、CMBSは自動復帰します。

CMBSを停止（OFF）にした状態でエンジンを切ると、再始動時にCMBSは停止（OFF）となっています。

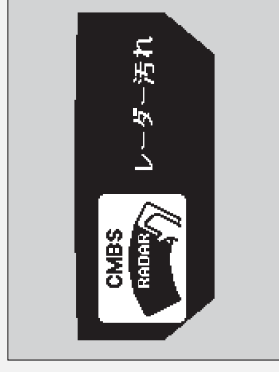
エンジンスイッチを II にするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにエンジンスイッチを II にすると、ヨーレートセンサーが正しく機能しなくなり、走行中に前方の車両を正しく検知できないことがあります。

追突警報距離の切り換え

道路状況に合わせて、追突警報距離を切り換えることができます。

1. インフォメーション（ⓘ）スイッチを数秒間押し続ける。
▶「カスタマイズエントリー」画面に切り換わります。

2.「CMBS 設定」を選択し、決定する。
▶「カスタマイズセットアップ」画面に切り換わります。

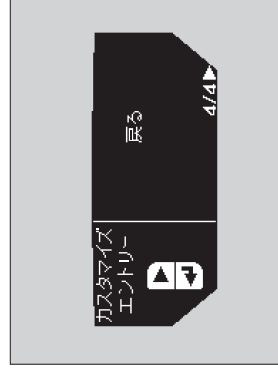
CMBS（追突軽減ブレーキ）

NEAR、FARどちらの場合も、ブレーキ作動開始は変わりません。

- エンブレムが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくい場合、警報がディスプレイ上に表示されます。
- 雨、霧、雪などの悪天候のときにも、下記の表示が出ることがあります。

汚れの場合は、安全な場所でエンブレムの汚れを拭き取ってください。

エンブレムの汚れを拭き取ったあとに、エンジンを再始動しなかったときでもシステムは復帰しますが、状況により復帰に時間がかかることがあります。

3. 「NEAR」か「FAR」を選択し、決定する。
▶「NEAR（FAR）に設定しました」と数秒間表示された後、「カスタマイズエントリー」画面に戻ります。
▶走行中またはセレクトレバーがP以外のときは、通常表示に戻ります。

4. 「戻る」を選択し、決定する。
▶通常画面に切り換わります。

■追突以外での作動について

次のような場合、CMBSが作動することがあります。車間距離を確保し、適切な速度で走行してください。
- 追い越しや交差点などで前方の車両や対向車に接近して走行するとき
- 低いゲートや狭いゲートなどを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき

道路や自車の状況により、一時的にとなりの車線の車や周囲の設置物、道路の段差、落下物を検知してCMBSが作動することがあります。

»CMBS（追突軽減ブレーキ）

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
- エンブレムは常にきれいにしておく
- エンブレムのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- エンブレムにステッカーを貼らない
- エンブレムを交換しない

次の場合は、Honda販売店にご相談ください。
- レーダーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントグリル周辺の修理を行うとき

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

次のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤが指定空気圧に調節されていないとき

停車する

1. セレクトレバーはDのまま、ブレーキペダルをしっかり踏む。
▶ 停車時間が長い場合はNにします。
2. 上り坂などでは、必要に応じてパーキングブレーキをかける。

»駐停車操作

枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、セレクトレバーがP N以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

アドバイス
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂でP N以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

駐車する

1. セレクトレバーは[D]のまま、ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
3. セレクトレバーを[P]に入れる。
4. エンジンを切る。
   ▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

»駐車する

⚠注意

駐車時はエンジンを止める。

万一、セレクトレバーが[P] [N]以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに[P]に入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

仮眠するときは、エンジンを止めてください。
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

積雪時は、ワイパーアームを起こしてください。
雪の重みでアームの取り付け部が破損することがあります。

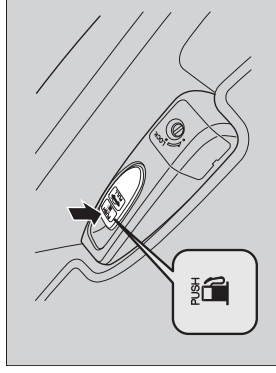
指定燃料について

■**指定燃料**

無鉛レギュラーガソリン

■**タンク容量**

70リットル

給油のしかた

1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。

2. エンジンを停止させる。

3. 運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを押す。

▶ 車の外側のフューエルリッドが浮きます。

»推奨燃料について

指定燃料以外の燃料（有鉛ガソリン、粗悪ガソリン、軽油、灯油、高濃度アルコール含有燃料）を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

»給油のしかた

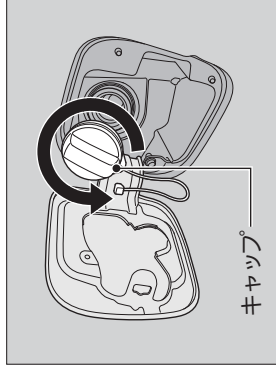
⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に止める
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

次ページに続く

≫給油のしかた

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。

燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

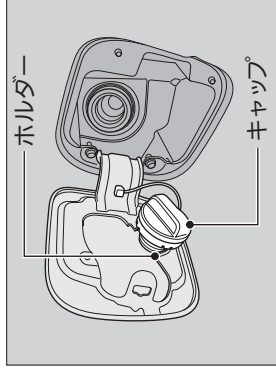
⚠注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

5. キャップをホルダーにかける。

6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。

▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

7. 給油後、「カチッ」という音が１回以上するまでキャップを締め付ける。

▶ フューエルリッドは、手で押さえつけて閉めます。

»給油のしかた

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

車の改造

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

- 適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりします。
- Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。
- 車の改造はしないでください。不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故を起こす場合があります。

»車の改造

車の性能、品質を維持するために、Honda車に最も適したHonda純正部品をお使いください。

純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA
GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda販売店にご相談ください。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点（音、におい、ブレーキ液の不足、地面に油のあとが残っているなど）に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

メンテナンスに関する注意事項

メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

» 点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店ご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。

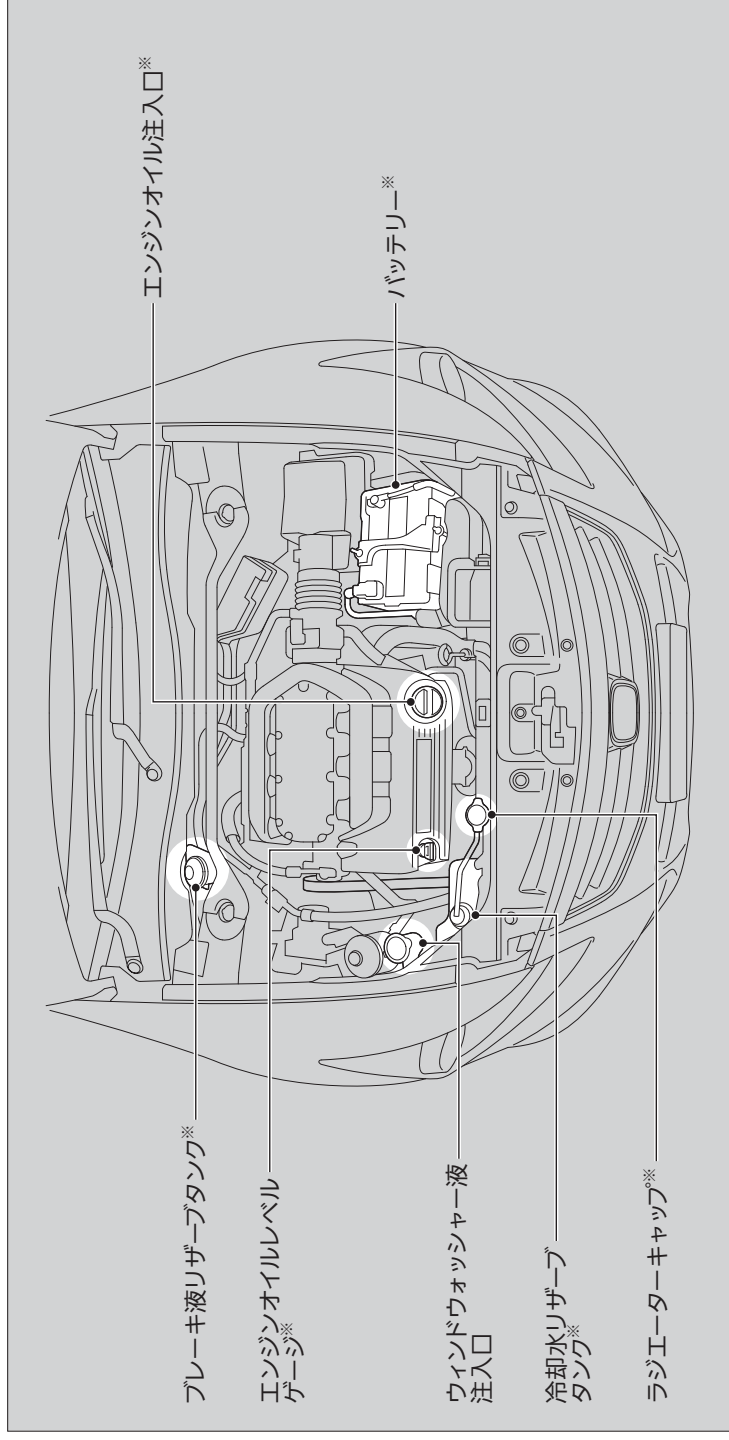
車についての安全事項

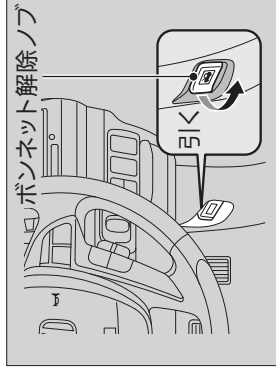
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
  ▶ エンジンをかけるときは必ず十分な換気を行ってください。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
  ▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 可動部品によるけがに注意する。
  ▶ 指示されたとき以外は、エンジンをかけないでください。

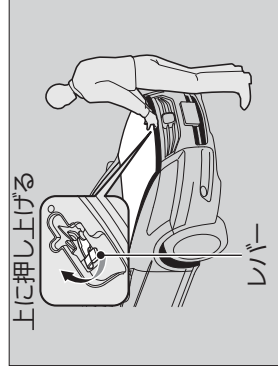
⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、この取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、この取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

ボンネット内のメンテナンス項目

※点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットを開ける

1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
   ▶ ボンネットが少し浮き上がります。

上に押し上げる
レバー

3. ボンネット中央のレバーを上に押し上げロック機構を解除し、ボンネットを開ける。

閉めるときは、ボンネットを静かに下げて、中央前端のロック部を手で押さえつけるように閉めます。

» ボンネットを開ける

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めるときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

⚠注意

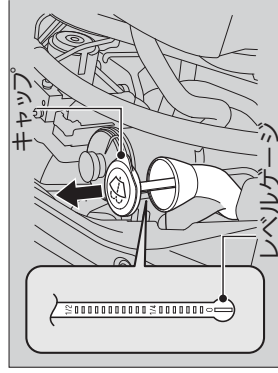
ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

推奨エンジンオイル

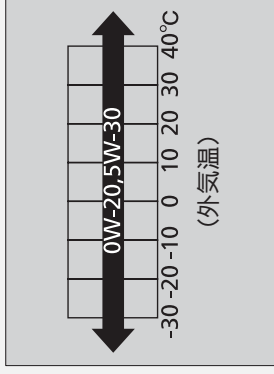
エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。

推奨エンジンオイル：
Honda純正エンジンオイル、
➔Honda純正エンジンオイル P.225
API SM級以上かオイル缶にAPI CERTIFICATION（エーピーアイサーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイル

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。

減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

» 推奨エンジンオイル

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

» ウィンドウォッシャー液の補給

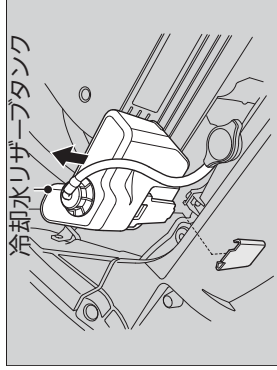
ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

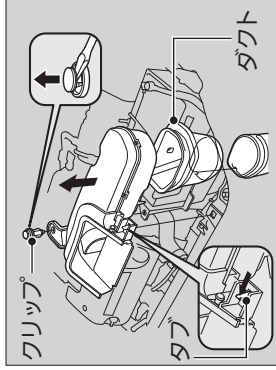
冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ハイビームヘッドライト：12V−60W
ロービームヘッドライト：12V−35W

ハイビームヘッドライト

右側ハイビームヘッドライト

1. エンジン冷却水リザーブタンクを取り外す。

左側ハイビームヘッドライト

1. クリップを外し、エアインテークカバーおよびダクトを取り外す。
▶ エアインテークカバーは、タブを押しながら取り外してください。

» ヘッドライト電球

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などによりレンズ内面が一時的に曇ることがありますが、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いていたり、水がたまっていたりしている場合はHonda販売店で点検を受けてください。

» ハイビームヘッドライト

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

カプラー 電球 ツメ

右側・左側ハイビームヘッドライト

2. ツメを押しながらカプラーを引き抜く。

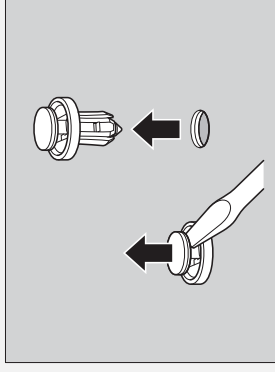
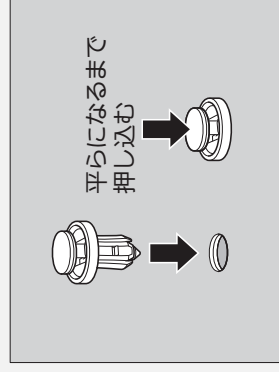
3. 古い電球を左に回して抜き取る。

4. 新しい電球を差し込む。

≫ハイビームヘッドライト

クリップを外すときは、マイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。

クリップを取り付けるときは、クリップ中央部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押してください。

次ページに続く

■ ロービームヘッドライト（ディスチャージヘッドライト）

電球の点検や交換は必ず Honda 販売店に依頼してください。

≫ロービームヘッドライト（ディスチャージヘッドライト）

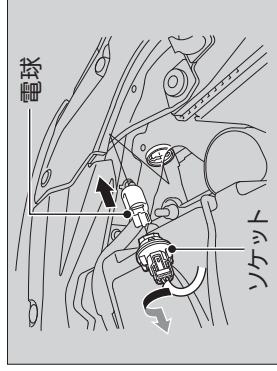
⚠注意

ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しています。
不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	：12V−21W（橙色）

ハイビームヘッドライトの電球交換と同様に、交換する電球のある側に応じてエンジン冷却水リザーブタンク、またはエアインテークカバーとダクトを外してください。
ハイビームヘッドライトの電球の交換のしかた P.172

1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を押し込む。

ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプは LED を使用しています。電球の点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

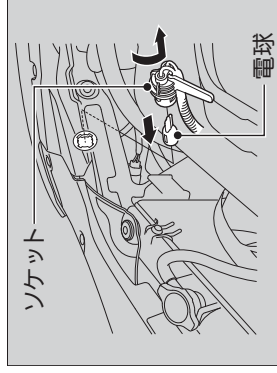
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。電球の点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

車幅灯電球

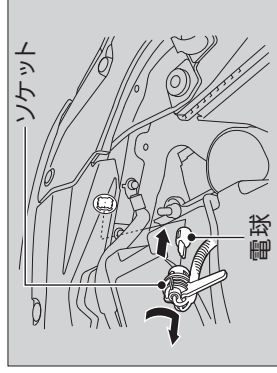
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

車幅灯 ：12V−5W

ハイビームヘッドライトの電球交換と同様に、交換する電球のある側に応じてエンジン冷却水リザーブタンク、またはエアインテークカバーとダクトを外してください。

ハイビームヘッドライトの電球の交換のしかた P.172

ソケット
電球

右側車幅灯

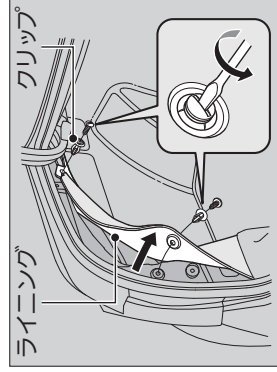
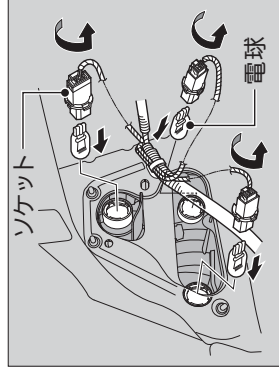
1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

左側車幅灯

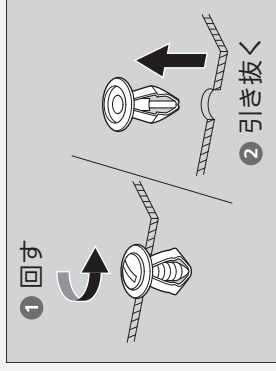
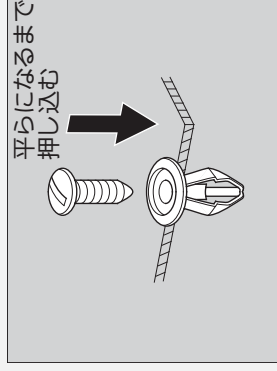
1. ソケットを右に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

制動灯 / 尾灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後退灯電球

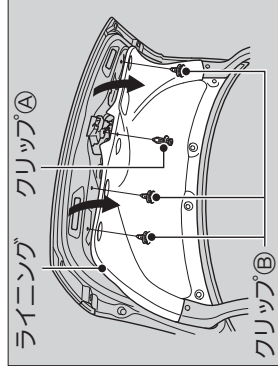
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

制動灯/尾灯	：12V−21/5W
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	：12V-21W（橙色）
後退灯	：12V−21W

1. マイナスドライバーでトランク内のクリップを外し、ライニングをめくる。

2. ソケットを左に回して外し、電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

≫制動灯/尾灯、後面方向指示器/後面非常点滅表示灯、後退灯電球

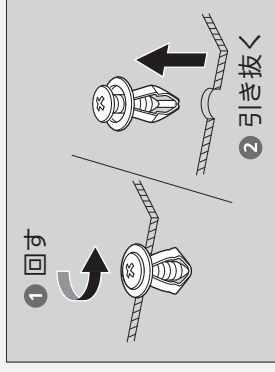
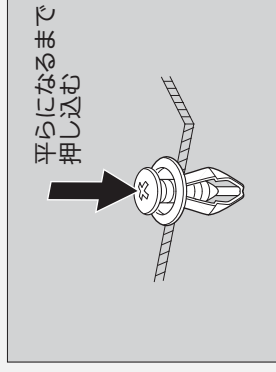
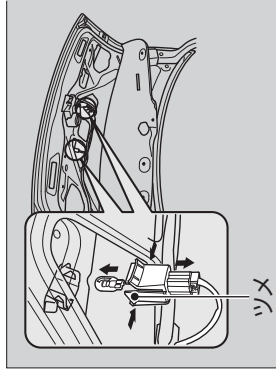
クリップのネジをマイナスドライバーで左へ回して抜き取り、クリップを引き抜きます。

固定するときには、ネジを外したままのクリップを取り付けたライニングに差し込んでから、ネジ部を平らになるまで押し込みます。

番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

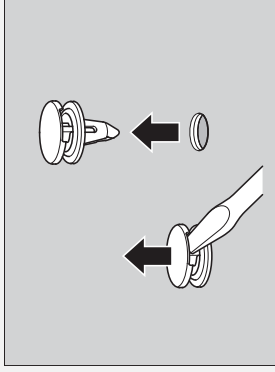
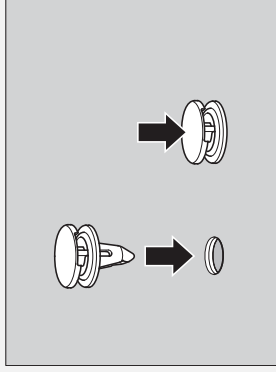
番号灯 ：12V−5W

1. マイナスドライバーでトランクリッド内側のクリップを外し、ライニングをめくる。

≫番号灯電球

クリップⒶ

クリップのネジをプラスドライバーで左へ回して抜き取り、クリップを引き抜きます。

固定するときには、ネジを外したままのクリップを取り付けたライニングに差し込んでから、ネジ部を平らになるまで押し込みます。

2. ツメを押しながらソケットを取り外す。
3. 古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

≫番号灯電球

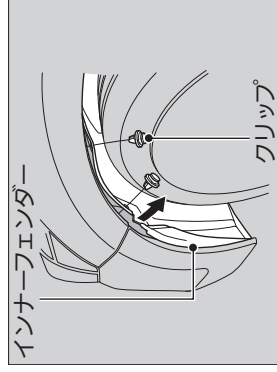
クリップⒷ

クリップを外すときは、マイナスドライバーを差し込んで、取り外します。

クリップを取り付けるときは、クリップがライニングにあたるまで押してください。

フォグライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

フォグライト	：12V−55W

右側フォグライト

1. ハンドルを右いっぱいに切る。
2. クリップを外し、インナーフェンダーを下側にめくる。

左側フォグライト

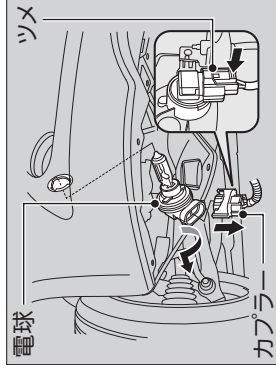
1. 交換する側と反対にハンドルをいっぱいに切る。
2. クリップを外し、インナーフェンダーをめくる。

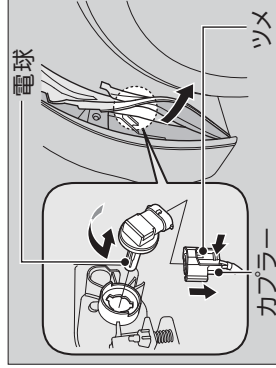
» フォグライト電球

フォグライトはハロゲン球です。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

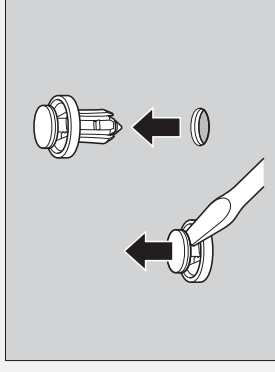
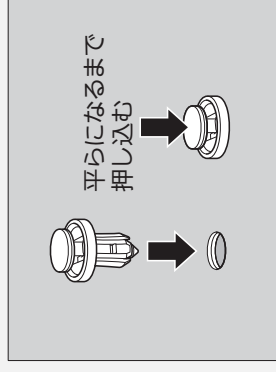
アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

右側フォグライト

3. ツメを押しながらカプラーを引き抜く。
4. 古い電球を左に回して抜き取る。
5. 新しい電球を差し込む。

左側フォグライト

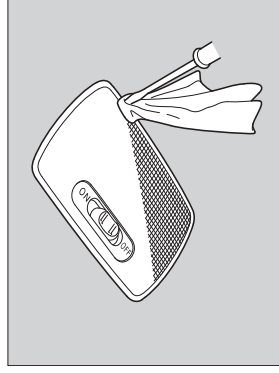
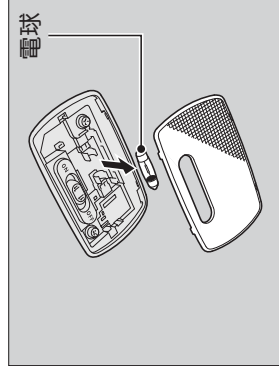
3. ツメを押しながらカプラーを引き抜く。
4. 古い電球を左に回して抜き取る。
5. 新しい電球を差し込む。

» フォグライト電球

クリップを外すときは、マイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。

クリップを取り付けるときは、クリップ中央部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押してください。

その他の電球

■室内灯電球

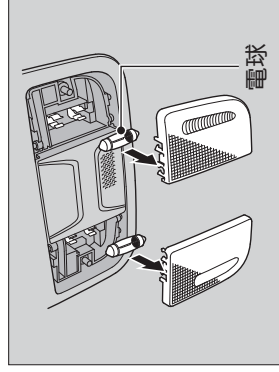
下記の電球をご使用ください。

室内灯：12V－8W

1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

■マップランプ電球

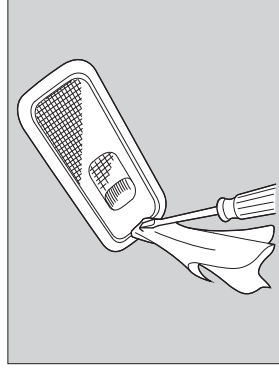
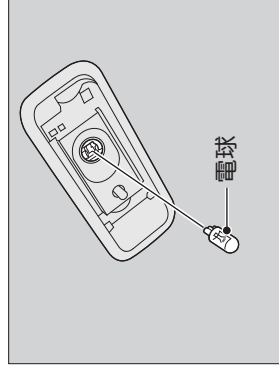
下記の電球をご使用ください。

マップランプ：12V－8W

1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

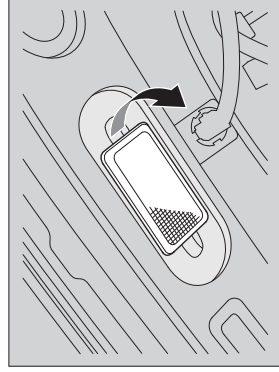
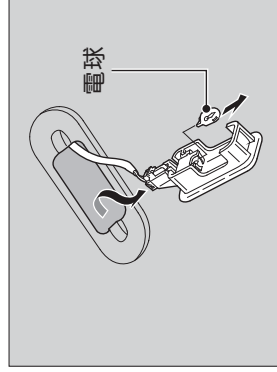
■リアリーディングライト電球

下記の電球をご使用ください。

リアリーディングライト：12V－5W

1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

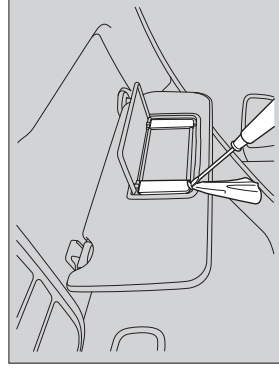
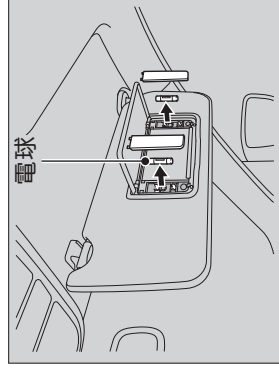
■ トランク照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

トランク照明灯：12V－5W

1. ランプ本体の側面を押し、ランプ本体を外す。

2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

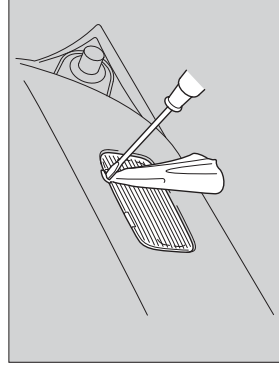
■ バニティミラー照明灯電球

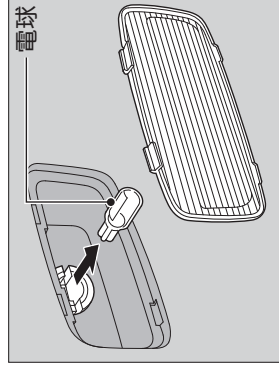
下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯：12V－2W

1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

■ ドア開閉灯電球

下記の電球をご使用ください。

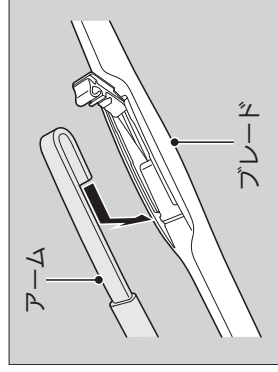
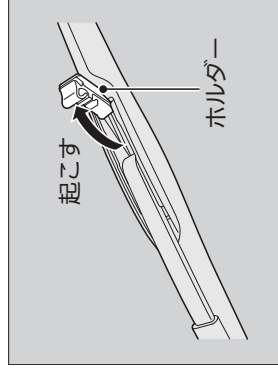
ドア開閉灯：12V－2CP（3.8W）

1. レンズの切り欠き部にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

電球

2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

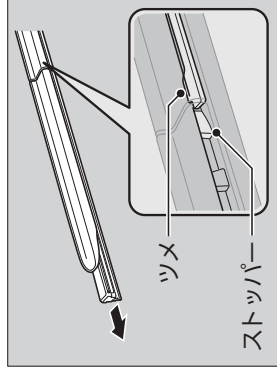
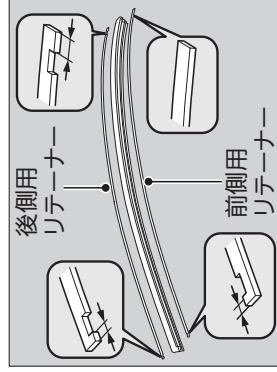
フロントワイパーブレードラバーの交換

1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。
2. ホルダーを起こす。

3. ブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取り外す。

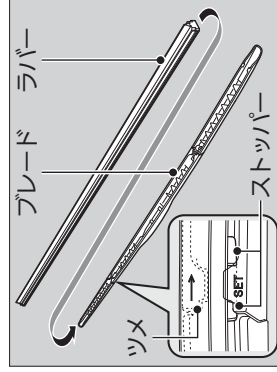
» フロントワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

4. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

5. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
▶ ラバーの突起部とリテーナーの溝を正しく合わせてください。

6. ラバーをストッパーがない側からブレードに沿って差し込む。
▶ ラバーのストッパーがブレードのツメに挿入されるまで差し込み、確実に固定します。その後、ブレードをワイパーアームに取り付けてホルダーを閉じます。

» フロントワイパーブレードラバーの交換

ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

タイヤの点検

タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。
- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。
- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

» タイヤの点検について

⚠ 警告

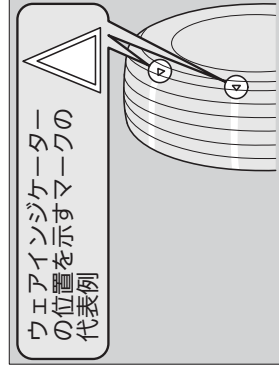
摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。
仕様 P.224

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。
- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？

ウェアインジケーター（摩耗限界表示）
ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。
接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

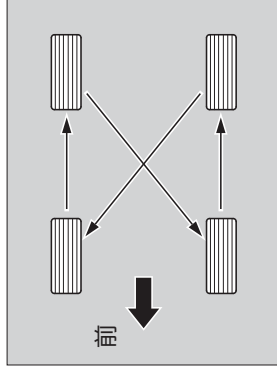
タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。
必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。
タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

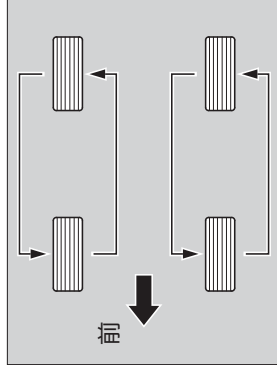
指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルに記載されています。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、ABS、VSA、CMBS✤、ACC✤ などが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

タイヤのローテーション

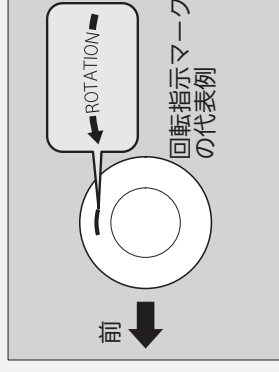
5,000km 走行したごとにタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合

左図のように、タイヤをローテーションさせます。

■回転指示マークがあるタイヤの場合

左図のように、タイヤをローテーションさせます。

≫タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。

下図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤ

- 四輪とも同じ種類のタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーン

- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

≫冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。
なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

取り扱いについて

Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

≫取り扱いについて

Hondaスマートキーをなくした場合は、Honda販売店へご連絡ください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池はHonda販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

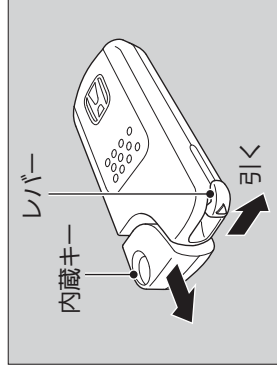
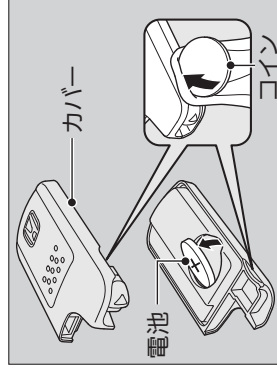
⚠注意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。
飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

■ 電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

■Honda スマートキー

ボタン電池CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。

2. カバーを外す。
▶ カバーに傷がつかないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

3. ⊕と⊖を間違えないよう、電池を交換する。

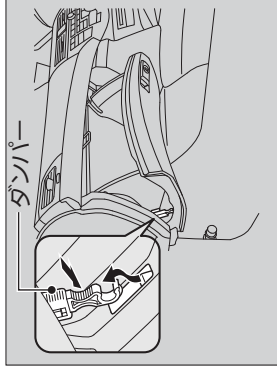
エアコンを常用しないとき

装置各部のオイルを切らさないため、ときどきエンジンを低回転させた状態で、数分間冷房または除湿暖房を行ってください。

エアクリーンフィルター

エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

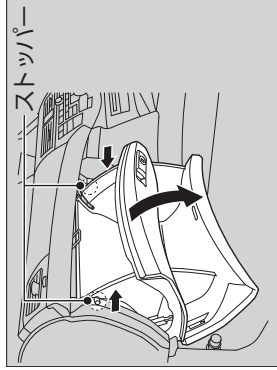
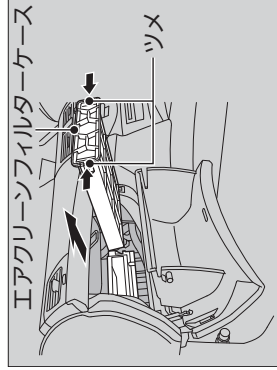
エアクリーンフィルターの交換

1. グローブボックスを開け、ダンパーを外す。

» エアクリーンフィルター

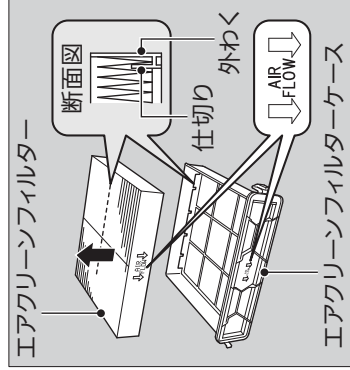
芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

エアコンには、空気中の花粉・ちり・ほこり・粉じんなどを集じんし、ディーゼル排ガス臭、タバコ臭などに脱臭効果のあるエアクリーンフィルターが取り付けられています。

2. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

3. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースを引き出す。

4. エアクリーンフィルターケースからエアクリーンフィルターを取り出す。

5. ケースの外わくと仕切りの間に、フィルターの端を差し込むようにして交換する。

▶「AIR FLOW」マークの矢印が、同じ方向（下向き）になるように取り付けます。

日常のお手入れ

走行後のお手入れ

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。
以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

車内の清掃

内装の清掃は、ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

≫洗車について

凍結防止剤を散布した道路や、海岸地帯を走行したときの洗車は、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。

≫車内の清掃

室内に水をかけないでください。
オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。
固形タイプの芳香剤のご使用をおすすめします。

本革✤のお手入れ

本革シートなどは、ウール用中性洗剤の10%水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布で洗剤分を拭き取り、風通しをよくして乾燥させます。汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

車外の清掃

洗車は、十分に水をかけながら、下回り、足回りの汚れを落とします。塗装面は、屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム革のような柔らかいもので洗います。
汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い、水で完全に洗剤を落としてから水が乾かないうちに拭き取ります。

自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納する
- オートワイパー装備車はワイパースイッチをOFFにする
- マイクロアンテナを取り外す

高圧洗浄機を使うとき

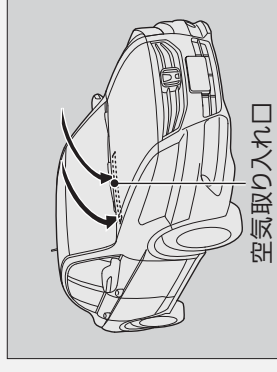
- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ウィンドーまわりは、近づけすぎると室内に水が入ることがあるため、特に注意して行う
- エンジンルームには水をかけない

次ページに続く

》本革のお手入れ

助手席を湿った状態で使用すると、サイドエアバッグの乗員姿勢検知システムが正しく作動しないことがあります。よく乾かしてからお使いください。

》車外の清掃

故意に空気取り入れ口や、エンジンルームに水をかけないでください。故障の原因になります。

ワックスをかけるとき

ワックスは、月に１回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面温度が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■はっ水ガラスについて

前席ウィンドー（ドアガラス）にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

≫ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉（コンパウンド）入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

≫バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda販売店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

≫ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されています。傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉（コンパウンド）入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- 金属製のもので霧取りなどを行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、スポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。

»アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換は、Honda販売店にご相談ください。

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒

工具の種類

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

≫工具の種類

➔**ジャッキのかけかた** P.203

≫発炎筒

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

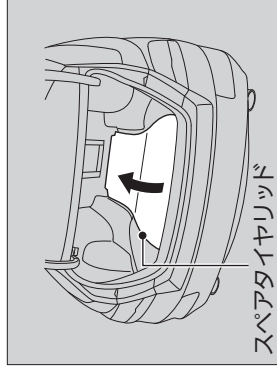
パンクしたタイヤの交換

運転中にタイヤがパンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。その後、応急用スペアタイヤに交換します。パンクしたタイヤの点検や交換は、Honda 販売店に依頼してください。

走行中、パンクに気がついたときは

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを P に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、エンジンスイッチを 0 にする。

タイヤ交換の準備

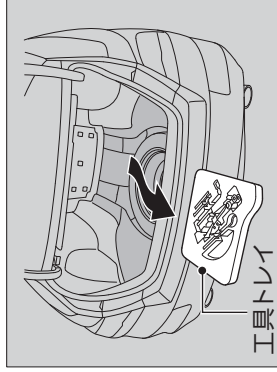
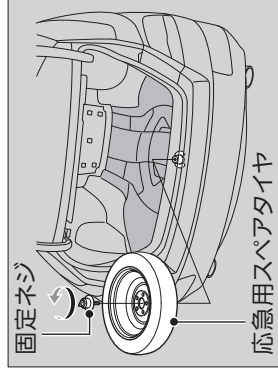
1. スペアタイヤリッドを開ける。

≫パンクしたタイヤの交換

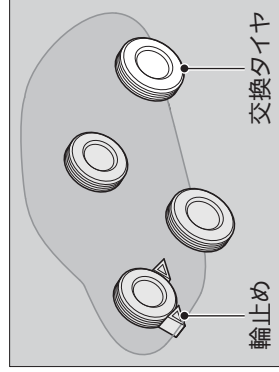
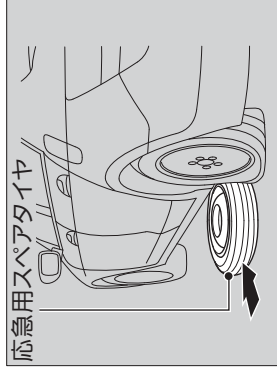
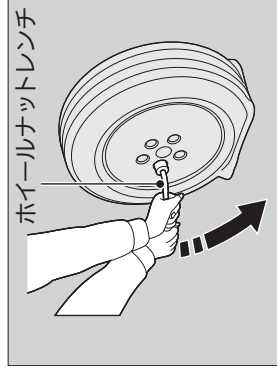
空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。
指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルに記載されています。

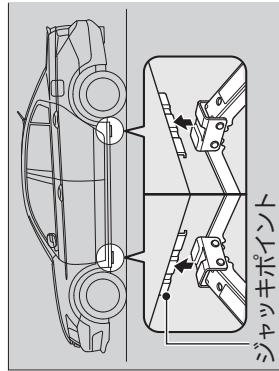
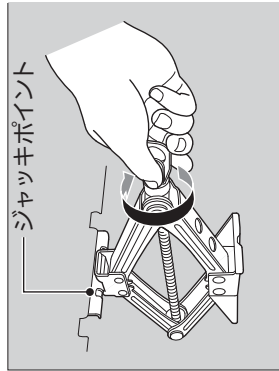
応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。
他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。

応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。
チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪を前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。

2. 工具トレイを取り出す。
3. ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。

4. 固定ネジを外し、応急用スペアタイヤを取り出す。

5. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。

次ページに続く

6. 応急用スペアタイヤを交換するタイヤ近くの車体の下に、ホイール表面を上にして置く。

7. ホイールナットをホイールナットレンチで約１回転ゆるめる。

ジャッキのかけかた

1. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

2. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
   ▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。

3. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

次ページに続く

≫ジャッキのかけかた

⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

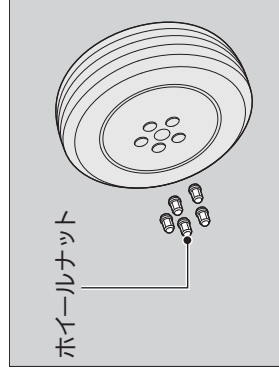
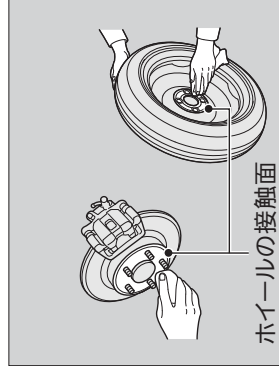
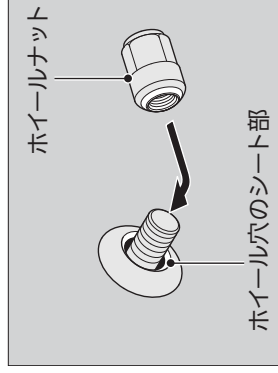
⚠注意

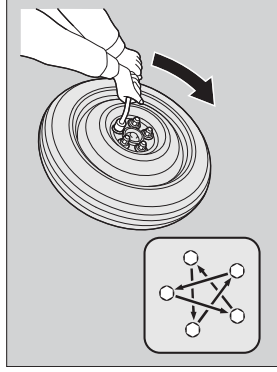
ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

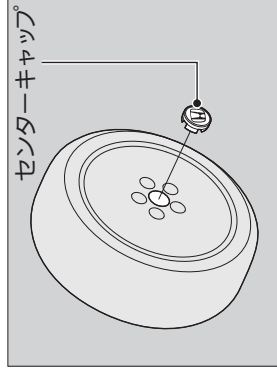
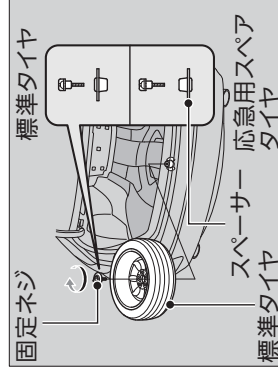
- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。

他のジャッキでは支えられる重量（呼荷重）が不足したり、形状が合わないことがあります。

タイヤの交換

1. ホイールナットを外し、タイヤを外す。

2. ホイールの接触面を拭き取る。

3. 応急用スペアタイヤを取り付ける。
4. ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締める。

5. ジャッキを下ろし、左図の番号順に 2 ～ 3 度にわたり、ホイールナットをしっかりと締め付ける。
   締め付けトルク： 98 ～ 118N•m
   （10.0 ～ 12.0kgf•m）

パンクしたタイヤの収納

1. パンクした標準タイヤのセンターキャップを外す。

2. パンクしたタイヤを収納する。
3. スペーサーを応急用スペアタイヤを固定していたときとは逆向きにして固定する。

»パンクしたタイヤの収納
標準タイヤを収納しているときは、スペアタイヤリッドを元の位置に取り付けできません。
標準タイヤの上に置いてください。

エンジンの状態の確認

エンジンが始動しない場合、エンジンスイッチを[III]にして、スターターの状態を確認してください。

スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ **スターターの回転が非常に遅い！** バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**室内灯の明るさを確認する** 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 • 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 • 室内灯などの明るさに問題がない場合 **ヒューズの点検と交換** P.218
スターターは正常に回るが… ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	**エンジン始動の手順を実行する** もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 **エンジンの始動** P.141 **イモビライザーシステム表示灯を確認する** イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 **イモビライザーシステム** P.89 **燃料の量を点検する** 燃料が入っているか確認してください。 **燃料計** P.62 **ヒューズを点検する** 全てのヒューズを確認してください。 **ヒューズの点検と交換** P.218

以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda販売店で点検を受けてください。

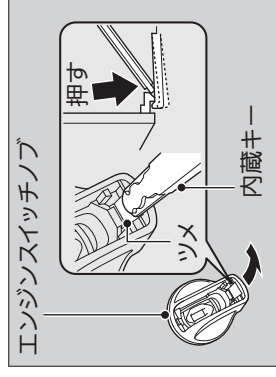
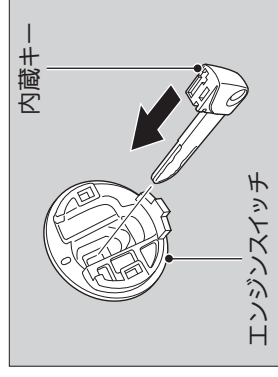
» エンジンの状態の確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

ジャンプスタートの方法 P.208

内蔵キーの差し込みかた

Honda スマートキーによるエンジンスイッチの操作や始動ができない場合、内蔵キーを使ってください。

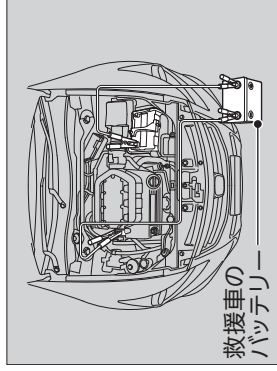
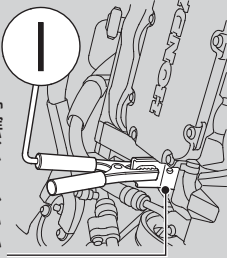
1. エンジンスイッチノブのリッドを外す。
   ▶ リッド上端を押しながらリッドを外します。

2. エンジンスイッチノブを外す。
   ▶ 内側のツメを、内蔵キーの先端で押して外します。

3. エンジンスイッチに内蔵キーを差し込む。

ジャンプスタートの方法

ジャンプスタートとは、他の車のバッテリーなどとブースターケーブルでつなぐことで電気を一時的に供給しエンジンをスタートさせる方法です。

処置のしかた

まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。

1. 自車と救援車のエンジンスイッチを 0 にする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの⊕端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊕端子に接続する。
   ▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
4. もう 1 本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの⊖端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのアース端子に接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンをかける。

» ジャンプスタートの方法

⚠ 警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。
エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。ケーブルをエンジンのアース以外の端子に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

アドバイス
気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのアース端子からケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊖端子から外す。
3. 自車のバッテリーの⊕端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊕端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

» エンジン始動後の作業

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

⚠警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店に依頼してください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

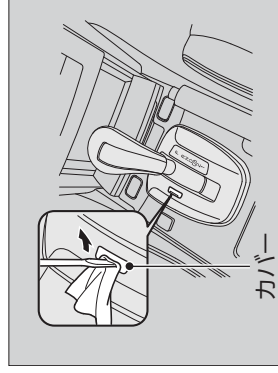
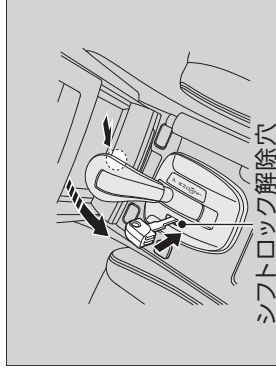
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

セレクトレバーが動かない

セレクトレバーが、 P の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

ロックを解除する

カバー

1. パーキングブレーキをかける。
2. エンジンスイッチを 0 （プッシュオフ）にします。
3. 細いマイナスドライバーの先端に布を巻き、シフトロック解除穴のカバーを外す。
   ▶ マイナスドライバーの先端を、図のように切り欠きに入れて外します。

シフトロック解除穴

4. シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込む。
5. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを N に入れる。
   ▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の針がHの目盛に入ったり、エンジンの力が急に落ちる
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。

▶ セレクトレバーをPに入れ、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. 蒸気が出ていない場合：エンジンをかけたままボンネットを開ける。

蒸気が出ている場合：エンジンを止め、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

次ページに続く

≫オーバーヒートしたときの対処方法

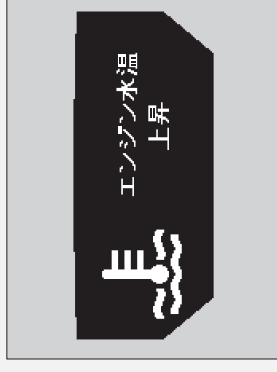
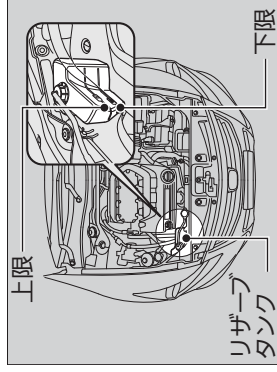
⚠警告

オーバーヒートしたエンジンは、冷えるまでボンネットを開けない。

ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

アドバイス

水温計の針がHの目盛りまで上がった状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

水温計の針がHの目盛りに入るとマルチインフォメーションディスプレイに下記の表示が出ます。

■**次にすること**

1. 冷却ファンの作動を確認し、水温計の針が下がってきてからエンジンを止める。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを止めます。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■**最後にすること**

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し水温計を確認する。
  水温計の針が下がった場合は、運転を再開します。下がらないときは、Honda販売店に修理を依頼します。

» オーバーヒートしたときの対処方法

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

⚠警告

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。

冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

油圧警告灯が点灯した

■点灯の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること

1. ただちに車を安全な場所に停車する。

2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. エンジンを止め、1 分間ほど放置する。

2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。

▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。

3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。

▶ **消灯した：**運転を再開してください。

▶ **10 秒以内に消灯しない：**エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

»油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

充電警告灯が点灯した

■点灯の理由

バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

»充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、エンジンを止めないでください。エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

■点灯 / 点滅の理由
エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは
高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは
枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを止めて冷えるまでお待ちください。

ブレーキ警告灯が点灯した

■点灯の理由
ブレーキ液が減っているときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること
- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する
- ブレーキ液量を確認する

» PGM-FI警告灯が点灯/点滅した

アドバイス
PGM-FI警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

エンジン再始動後、警告灯が消灯しないときや再び点滅するときは、50km/h以下の速度で最寄りのHonda販売店まで走行し点検を受けてください。

» ブレーキ警告灯が点灯した

ただちに、Honda販売店に修理を依頼してください。
ブレーキ液が減っている状態で運転することは危険です。

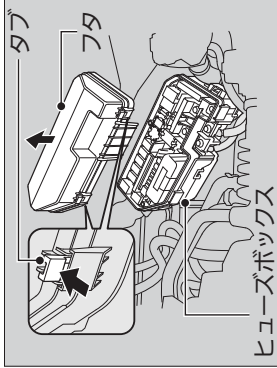
ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。
ただちに、Honda販売店に修理を依頼してください。

ABS警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。
ただちに、Honda販売店に修理を依頼してください。

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、エンジンスイッチを[0]にして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、3 つのヒューズボックスに入っています。

エンジンルーム内のヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側に付いているエアクリーナーボックスの隣にあります。
タブを押して開けてください。

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		バッテリー	120A
		運転席側ヒューズボックス	40A
2	ー	ー	ー
		VSA	40A
		VSA モーター	30A
		助手席側ヒューズボックス（オプション）	40A
		運転席E-プリテンショナー	30A
		助手席E-プリテンショナー	30A
3		イグニッション	50A
		運転席側ヒューズボックス	40A
		助手席側ライトメイン	50A
		運転席側ヒューズボックス	60A
		運転席側ライトメイン	40A
		メインファン	30A
		ワイパーモーター	30A
		サブファン	30A
4		リヤデフロスター	40A
5	ー	ー	ー
6	ー	ー	ー
7	ー	ー	ー
8		ヒーターモーター	40A
9		非常点滅表示灯	15A
10		ホーン / 制動灯	20A
11	ー	ー	ー
12	ー	ー	ー
13		イグニッションコイル	15A
14		PGM-FI サブ	15A
15		バックアップ	10A
16		室内灯	7.5A
17		PGM-FI メイン	15A
18		ドライブバイワイヤ	15A
19		ECUバックアップ	7.5A
20		MGクラッチ	7.5A
21		ファンリレー	7.5A

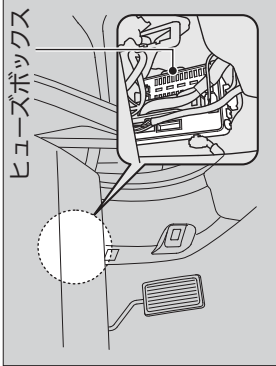
次ページに続く

»ヒューズの設置場所

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

室内運転席側のヒューズボックス

アクセルペダルの上にあります。

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		E-プリテンショナー	7.5A
2		オプション	7.5A
3		ウォッシャー	15A
4		ワイパー	7.5A
5		メーター	7.5A
6		ABS/VSA	7.5A
7		発電機	15A
8		STS	7.5A
9		フューエルポンプ	20A
10		ECU	10A
11		SRSエアバッグシステム	10A
12		乗員姿勢検知システム	7.5A
13	ー	ー	ー
14		アクティブコントロールエンジンマウント	10A
15	ー	ー	ー
16		エアコン	7.5A
17		キーロック	7.5A
18		アクセサリー	7.5A
19	DR	運転席パワーシート前後スライド/高さ調節（前側）	20A
20		ー	20A
21	DR	運転席パワーシートリクライニング/高さ調節(後側)	20A
22	RR R	後席右側パワーウィンドー	20A
23		シガレットライター	15A
24	DR	運転席パワーウィンドー	20A
25	R	右側ドアロック	10A
26	R	右側フォグライト	10A
27	R	右側車幅灯/尾灯	10A
28	R	右側ヘッドライトハイビーム	10A
29	ー	ー	ー
30	R	右側ヘッドライトロービーム	15A
31	ー	ー	ー

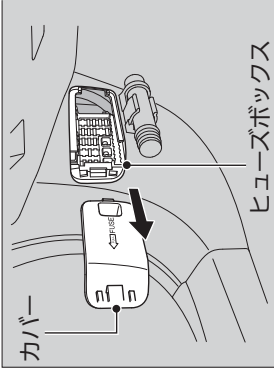
≫ヒューズの設置場所

ヒューズボックスの下に、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

万一の場合には

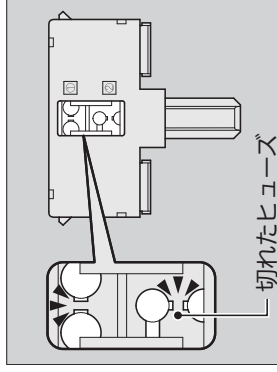
室内助手席側のヒューズボックス

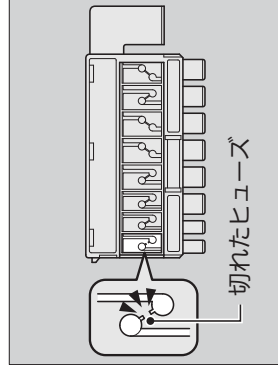
助手席の足元にあります。カバーを引いて開けてください。

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1	L	左側ヘッドライト ハイビーム	10A
2	EXTR L	左側車幅灯/尾灯	10A
3	L	左側フォグライト	10A
4	L	左側ヘッドライト ロービーム	15A
5	－	－	－
6	INTR	室内イルミネーション	7.5A
7	－	－	－
8	AS	助手席側パワーシート リクライニング	20A
9	AS	助手席側パワーシート 前後スライド	20A
10	L	左側ドアロック	10A
11	RR L	後席左側 パワーウィンドー	20A
12		－	15A
13	AS	助手席 パワーウィンドー	20A
14	－	－	－
15		オーディオ	20A
16	－	－	－
17		－	－
18		運転席パワーシート ランバーサポート	10A
19		シートヒーター	15A
20		－	－
21		－	－
22	－	－	－

≫ヒューズの設置場所

ヒューズボックスのカバーに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

ヒューズの点検と交換

1. エンジンスイッチを 0 にし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. ヒューズボックスのフタを取り外す。
3. エンジンルーム内の大きいヒューズを点検する。
   ▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。

≫ヒューズの点検と交換

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

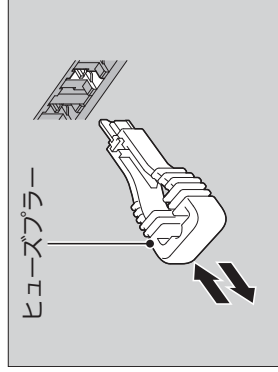
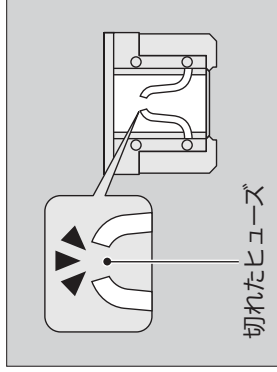
規定容量はP.215～P.217の一覧で確認してください。

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。同じ規定容量のヒューズがない場合は、規定容量の小さいヒューズに交換してください。

交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda販売店で点検を受けてください。

4. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。

▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

≫ヒューズの点検と交換

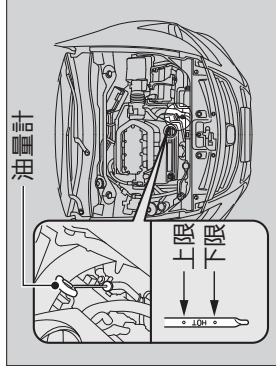
エンジンルーム内のヒューズボックスには、フタの裏にヒューズプラーがついています。

ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引は、専門業者に依頼して四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

やむをえずけん引される場合

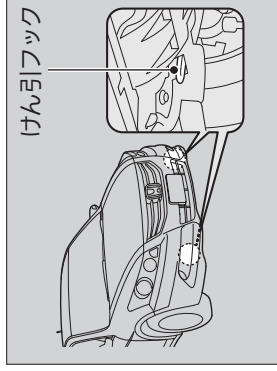
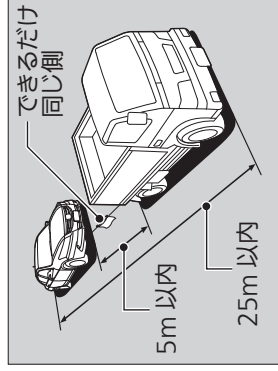
やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。

1. トランスミッションフルードの量が、油量計の目盛りの上限と下限の間にあることを確認する。
   ▶ 下限より下がっている場合は、四輪または前輪を接地させてのけん引は行わないでください。

» 非常時のけん引

車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

アドバイス
バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーが著しく損傷します。バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

2. ロープをけん引フックにかける。

3. ロープ中央部に白い布（0.3m 平方以上）を付ける。
4. エンジンをかけてセレクトレバーを D にし、約 5 秒間保持する。
   ▶ エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを I または II にします。
5. セレクトレバーを N にする。
6. パーキングブレーキを解除する。
7. 速度 30km/h 以下、走行距離 80km 以内でけん引する。
   ▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

»非常時のけん引

アドバイス

エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

次ページに続く

やむをえず他車をけん引する場合

やむをえず他車をけん引するときはけん引フックにロープをかけて行ってください。

»やむをえず他車をけん引する場合

ロープやチェーンなどを使ってけん引するときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
そのままけん引すると、車体に傷が付くことがあります。

アドバイス

自車より重い車のけん引は避けてください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

■仕様

名称	インスパイア
排気量	3,471 cm^3
車体形状	4ドアセダン
乗車定員	5名

■調節

ベルトのたわみ量

点火プラグ	NGK	ILZKR7B11
	DENSO	SXU22HCR11
電極のすき間	基準値	1.0-1.1mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1-5mm
	床板とのすき間	98mm以上 {約196N（20kgf）の力}
	カーペットとのすき間（参考値）	75mm以上 {約196N（20kgf）の力}
パーキングブレーキ	引きしろ	7〜9ノッチ {約196N（20kgf）の力}

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	70ℓ

■バッテリー

容量/タイプ	55AH（5）/80D26L

■ウォッシャー液

タンク容量	2.5ℓ

■電球

ヘッドライト（ロービーム）	12V-35W※1
ヘッドライト（ハイビーム）	12V-60W※2
フォグライト	12V-55W※2
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	12V-21W（橙色）
車幅灯	12V-5W
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	LED
制動灯/尾灯	12V-21/5W
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	12V-21W（橙色）
後退灯	12V-21W
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	12V-5W
トランク照明灯	12V-5W
マップランプ	12V-8W
リアリーディングライト	12V-5W
室内灯	12V-8W
バニティミラー照明灯	12V-2W
ドア開閉灯	12V-2CP※3（3.8W）

※1：ディスチャージヘッドライト
※2：ハロゲンバルブ
※3：CP…キャンドルパワー（光度の単位）

仕様

■ブレーキフルード

指定液	Honda純正ウルトラブレーキフルード DOT3/DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda純正 ウルトラATF DW-1	3.3ℓ（交換時）

■推奨エンジンオイル

Honda純正 エンジンオイル	ウルトラ LEO SM	API SM/GF4級 SAE 0W-20※4
	ウルトラ LTD SM	API SM/GF4級 SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	4.0ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	4.3ℓ

※4：最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda純正ウルトラeクーラント
規定濃度	50%
規定量	6.6ℓ（交換時：リザーブタンク0.68ℓ含む）

■タイヤ

サイズ	225/50R17 94V
	T135/80D16 101M※5
空気圧	220[2.2] 420[4.2]※5
リムサイズ	17×7 1/2J
	16×4T※5

※5：応急用スペアタイヤ

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■パワーステアリングフルード

指定液	Honda純正ウルトラパワーステアリングフルード-II

資料

ス

セ

ソ

タ

チ

ツ

テ

ト

ナ

ネ

ハ

ヒ

フ

ヘ

ホ

マ

ミ

メ

モ

ユ

ラ

リ

ル

レ

ロ

ワ

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。
Honda ホームページ　**http://www.honda.co.jp/**
（Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。
http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/

※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8−1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名